

# 大阪大学総合学術博物館 年報 2017

大阪大学総合学術博物館  
The Museum of Osaka University

大阪大学総合学術博物館

年報 2017



## はじめに

2017年度の活動概要『大阪大学総合学術博物館年報2017』を刊行し、皆様に公開できずことを嬉しく思います。

2017年度も定例の展覧会として、特別展、企画展を開催しました。まず第21回企画展として「HANDAI ロボットの世界－形・動きからのコミュニケーション－そしてココロの創生へ－」展を開催し、大阪大学の誇るロボット工学とその研究成果の一端を豊中市及び豊中市教育委員会との共催で公開いたしました。また秋には第10回特別展として「演じる私たち～戦後20年関西「新劇」の軌跡～」展を開催いたしました。こちらは関西学院大学博物館、大阪芸術大学舞台美術コースなどとの共催で実現をいたしました。これらの展覧会は、大阪大学の研究力はもちろんですが、ご協力頂きました共催機関・組織のお力添えがなければ実施することができませんでした。共催頂きました皆様には改めてお礼を申し上げたいと存じます。

また昨年度から開始しております社会人対象「記憶の劇場 大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座」も無事に2年目を終了いたしました。充実した内容で実施することができたと自負しておりますが、この講座も自治体などの公共劇場や音楽堂、他博物館の協力を仰いで参りました。これは将来の博物館の研究教育のあり方や博物館における社会人教育のあり方を考える手立てとして参りたいと思っておりますが、それは各組織や団体との共創によってこそ実現されるべきものと考えております。その点では一昨年からは開始いたしております「豊中市立小中学生理科展サテライト展示」も豊中市教育委員会との関係の中で生まれたもので、当館の社会共創事業の最良の成果の一つと考えられます。また今回の年報にはあまり触れられておりませんが、「北大阪ミュージアムネットワーク」「かんさい・大学ミュージアムネットワーク」などの近隣博物館との協力関係も頼もしい所です。

この他にも戦後大阪の前衛美術グループ「具体」に関する第2回目のシンポジウム、「サイエンスカフェ」「体験！こどもミュージアム」「大阪大学美術部夏部展」「阪大生が作った展覧会」なども例年通りみな充実した取り組みとなり、当館教員や学生諸君の充実した活動ぶりをご覧いただけたかと思っております。また学生諸君による博物館支援スタッフ（ミュージアム・アシスタント）の実質的な任務も開始されて今後は楽しみです。

大阪大学は本年1月に「大阪大学共創機構」を創設し、その機構内に当館含め社会学共創的4組織を束ねた新しい社会学共創的組織を配置して、当館もその一角を担うこととなりました。新しい組織の中で、今後も大学と市民・地域社会との共創関係を築いていきたいと考えますので、ご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

2018年8月

大阪大学総合学術博物館長

永田 靖



# 目 次

1. 展覧会報告Ⅰ	5
大阪大学総合学術博物館 第21回企画展 HANDAI ロボットの世界 -形・動きからのコミュニケーション そしてココロの創生へ-	
・概要	6
・報告(大阪大学大学院工学研究科 助教 河合 祐司 教授 浅田 稔)	9
2. 展覧会報告Ⅱ	13
大阪大学総合学術博物館 第10回特別展 演じる私たち ~戦後20年関西「新劇」の軌跡~	
・概要	14
・報告(大阪大学共創機構社会学共創本部 助教 横田 洋)	17
3. 大学を活用した文化芸術推進事業	23
記憶の劇場Ⅱ	
・概要	24
・報告(総合学術博物館 特任研究員 山崎 達哉)	27
4. シンポジウム報告	31
<具体>再考 第2回 1930年代の前衛	
・概要	32
・報告(総合学術博物館 招へい准教授 加藤 瑞穂)	35
5. サイエンスカフェ	39
・2017年度(サイエンスカフェ@待兼山 No.142~147)	40
・2017年度(サイエンスカフェ@中央公民館 No.C-4~C-6)	41
6. 体験!こどもミュージアム@大阪大学	45
7. 大阪大学美術部 夏部展2017 空想世界地図	49
8. 豊中市立小中学生 理科展 サテライト展示	51
9. 阪大生がつくった展覧会2017ベスト	54
10. 総合学術博物館支援スタッフ(ミュージアム・アシスタント)	56

<b>11. 教員活動報告</b> .....	59
総合学術博物館 館長 永田 靖 .....	60
総合学術博物館 研究・教育部	
・資料基礎研究系 准教授 高橋 京子 .....	64
特任助教(常勤) 高浦佳代子 .....	69
・資料先端研究系 教授 上田 貴洋 .....	71
准教授 豊田 二郎 .....	75
准教授 宮久保圭祐 .....	77
・資料情報研究系 教授 橋爪 節也 .....	79
助教 横田 洋 .....	89
総合学術博物館 資料部	
特任講師(常勤) 伊藤 謙 .....	90
<b>12. 資料</b> .....	93
・2017年度の主な活動一覧 .....	94
・入館者数及びアンケート集計結果一覧 .....	102
・団体見学一覧 .....	112
・関連記事一覧 .....	114
・寄贈図書一覧 .....	117
・館内配置図 .....	121

## 1. 展覧会報告 I

大阪大学総合学術博物館 第 21 回企画展

# HANDAI ロボットの世界

—形・動きからコミュニケーション そしてココロの創生へ—

## 概 要

大阪大学総合学術博物館 21 回企画展「HANDAI ロボットの世界ー形・動きからコミュニケーションそしてココロの創生へー」を 2017 年 4 月 26 日（水）から 8 月 5 日（土）の間、大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館において開催した。

科学・技術・芸術の融合のパイオニア、レオナルド・ダ・ヴィンチのアンドロイドを始め、人間との共生を目指したコミュニケーションロボット、動物の筋肉のように柔らかい空気圧人工筋を使ったロボット、毎年世界大会が開かれるロボットによるサッカー競技会であるロボカップで王座に挑戦を続けるロボットなど、大阪大学のロボット研究の系譜とその最先端を展示した。本展覧会の期間中の来場者は、7,811 名と好評であった。

---

### 大阪大学総合学術博物館 第 21 回企画展

テーマ：「HANDAI ロボットの世界

ー形・動きからコミュニケーションそしてココロの創生へー」

期 間：2017 年 4 月 26 日(水) ～ 2017 年 8 月 5 日(土)

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3 階多目的ルーム

主 催：大阪大学総合学術博物館

共 催：大阪大学大学院工学研究科、大阪大学大学院基礎工学研究科、  
豊中市、豊中市教育委員会

協 力：NPO 法人ダ・ヴィンチ ミュージアムネットワーク、  
女子中高生のための関西科学塾、大阪大学 21 世紀懐徳堂

入館者数：7,811 人

#### シンポジウム

5 月 13 日（土）「HANDAI ロボット展から始まるロボットとの共生社会」

コーディネーター：浅田 稔（工学研究科教授）

登壇者：細田 耕（基礎工学研究科教授）

長井 志江（情報通信研究機構主任研究員）

小川 浩平（基礎工学研究科助教）

武村 紀子（データビリティフロンティア機構准教授）

山下 里加（京都造形芸術大学教授）

来場者数：116 人

#### ミュージアムレクチャー

6 月 17 日（土）「ロボットたちの対話の仕組みを覗いてみよう」

講 師：吉川 雄一郎（基礎工学研究科准教授）

来場者数：26 人

大阪大学総合学術博物館 第21回企画展

# HANDAI ロボットの世界

— 形・動きからコミュニケーション そしてココロの創生へ —

入館料  
無料

2017年 4月26日[水] → 8月5日[土]

開館時間

10:30~17:00 (入館は16:30まで)  
(日・祝休館、ただし4月30日(日)は開館)

開催場所

大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

主催：大阪大学総合学術博物館

共催：大阪大学大学院工学研究科、大阪大学大学院基礎工学研究科、豊中市、豊中市教育委員会

協力：NPO法人ダ・ヴィンチ ミュージアム ネットワーク、女子中高生のための関西科学塾、大阪大学21世紀懐徳堂



大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20

Tel.06-6850-6284

<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

阪急宝塚線「石橋駅」下車 徒歩10分 ※公共交通機関をご利用ください。

# ROBOT

## 大阪大学総合学術博物館 第21回企画展

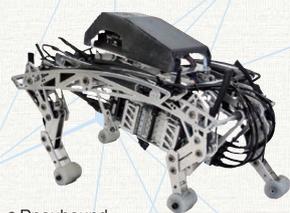
# HANDAI ロボットの世界

— 形・動きからコミュニケーション そしてココロの創生へ —

大阪大学のロボット研究は、マシンとしてのロボット研究よりも生物よりのロボット研究、とくにヒューマノイドやアンドロイドの研究が盛んで、国際的にも有名です。それは、ロボット学が単に工学だけでなく、脳科学や心理学、社会学、さらにはアートにも通じ、幅広い分野が関わっている証拠でもあります。本企画展では、科学・技術・芸術の融合のパイオニアとして知られるレオナルド・ダ・ヴィンチのアンドロイドを始めとして、人間との共生を目指したさまざまなコミュニケーションロボット、動物の筋肉に近い空気圧人工筋を使った柔らかいロボット、サッカーの世界チャンピオンを破ることを最終目標に掲げ、毎年世界大会が開催されているロボカップへ出場した大阪大学のロボットなどを展示します。このほかにも公開の競技会を通じ、あるいは、社会での実証実験を通じ、将来人間社会で共生するロボットたちのココロの創生に夢を持つ阪大ロボット研究者の足跡を展示します。本企画展にご来場いただき、ロボットたちとの共生社会の未来に想いを馳せてください。

### 展示構成

- セクション 1 ダヴィンチアンドロイドが語る未来のロボットたち
- セクション 2 柔らかく動く人工筋ロボットたち
- セクション 3 コミュニケーションを促す子ども型ロボットたち
- セクション 4 ロボカップ・阪大チームの歴史：サッカーロボットと奮闘する学生たち



●Pneuhound



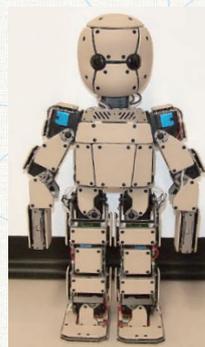
●AIBO



●Synchy



●ダ・ヴィンチ アンドロイド  
(NPO法人ダ・ヴィンチ ミュージアム ネットワーク)



●Neony



●Tichno-RN

### 展覧会関連イベント 事前申込制

#### ◆イベント1 シンポジウム「HANDAIロボット展から始まるロボットとの共生社会」

日時： 5月13日(土) 13:30~16:30  
 コーディネーター： 浅田 稔 (工学研究科教授)  
 登壇者： 細田 耕 (基礎工学研究科教授)、長井 志江 (工学研究科特任准教授)、  
 小川 浩平 (基礎工学研究科助教) 他  
 会場： 大阪大学会館講堂  
 定員： 400名程度

#### ◆イベント2 ミュージアムレクチャー「ロボットたちの対話の仕組みを覗いてみよう」

日時： 6月17日(土) 14:00~15:30  
 講師： 吉川 雄一郎 (基礎工学研究科准教授)  
 会場： 待兼山修学館 3Fセミナー室  
 定員： 40名

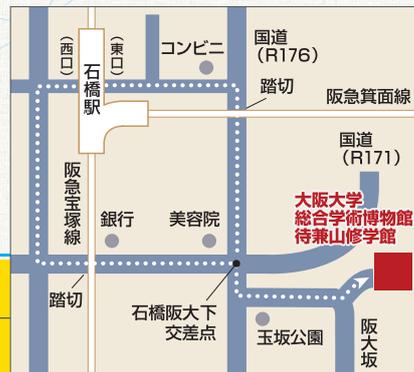
### イベント参加申込方法 事前申込制

WEBフォームよりお申し込みください。詳細については下記URLをご覧ください。  
<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/robot2017>

※定員に達し次第受付を終了します。

### 交通のご案内

阪急宝塚線「石橋駅」下車 徒歩10分。  
 ※公共交通機関をご利用ください。



大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館  
 〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20 Tel.06-6850-6284  
<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

# 報 告

大阪大学総合学術博物館 第21回企画展

「HANDAI ロボットの世界

ー形・動きからコミュニケーション そしてココロの創生へー」

大阪大学大学院工学研究科

助教 河合 祐司

教授 浅田 稔

大阪大学といえばロボット！ と思う方も多いだろう。大阪大学では、マシンとしてのロボット研究だけではなく、人とコミュニケーションするためや、生物を理解するためのロボット研究も盛んである。その際たるものは、基礎工学研究科の石黒浩教授らのアンドロイド研究であろう。人そっくりのアンドロイドによって、人に親和的なコミュニケーションが可能になり、また、いわゆる人の存在感とは何かを実験的に検討できるようになる。現在、人工知能ブームが到来し、今までフィクションでのみ語られていたロボットが、家庭内や街角に登場しつつある。その先駆けともいえる大阪大学のロボットは学術的のみならず歴史的資料としての価値もあると思われる。また、人とロボットの共生社会を目指した（当時）最先端のロボットを一般市民に公開することは、科学技術教育としての意義もある。本企画展では、工学研究科の創発ロボティクス研究室（浅田研究室）、基礎工学研究科の知能ロボット学研究室（石黒研究室）と適応ロボット学研究室（細田研究室）の象徴的なロボットを一堂に会し、大阪大学のロボット研究の系譜を紹介した。

ロボットのほとんどは静展示であったが、毎週土曜日といちよう祭期間は、いくつかのロボットを実際に動作させる動展示を実施した。さらに、常時、ロボットの動画を多数のモニターとスクリーンに映し、来館者がロボットの動作を視聴できる工夫をした。

本企画展は四つのセクションで構成された。

## (1) ダヴィンチアンドロイドが語る未来のロボットたち（図1）

レオナルド・ダ・ヴィンチは科学・技術・芸術に秀で、今でいう学際研究のパイオニアといえる。彼の探究心と科学技術の夢を世界の子どもたちに伝えるべく、石黒研のアンドロイド技術を用いて、ダヴィンチアンドロイドが制作された。アンドロイドの背後のカーテンの後ろに操作室を設置し、アンドロイドを動展示した。この他にも、石黒研の初期のアンドロイドである Repliee R1（石黒教授の当時5歳の娘さんがモデル）やCB2をその機構とともに展示し、インパクトのある展覧会入口となった。

## (2) 柔らかく動く人工筋ロボットたち（図2）

一般的なロボットのアクチュエータには電気モータが用いられるが、それでは生物のようなしなやかで柔らかな動きを再現することが難しい。細田研究室では、空気圧で駆動する人工筋を用いて生物の筋骨格系を模倣したロボットを作ることによって、生物が柔らかく動作し、環境へ適応するメカニズムを研究している。今回、四足歩行の犬型ロボット PneuHound と大型ネコ科動物ロボット Pneupard を展示した。



図1. ダヴィンチアンドロイド (左) と CB2 (右)



図2. PneuHound (左) と Pneupard (右)

### (3) コミュニケーションを促す子ども型ロボットたち (図3)

近年のロボット技術の進展により、ロボット研究の焦点が、人とのコミュニケーションに移されつつある。人は言語的な情報伝達だけでなく、ジェスチャや視線など様々な非言語的な情報を用いてコミュニケーションしている。そのようなコミュニケーションを可能にするヒューマノイドロボットとして、今回展示した Synchy、Neony、Kindy が開発された。これらを用いて、ロボットの視線や頷きのタイミングが、人との対話に与える影響などが研究された。このような取り組みを通して、人のように人と対話できるロボットの開発や、そもそもコミュニケーションとは何かという根源的な問いに挑戦している。



図3. Synchy (左) と Neony (右)

(4) ロボカップ・阪大チームの歴史：サッカーロボットと奮闘する学生たち（図4）

ロボカップとは、自律型のロボットによるサッカー競技会であり、浅田教授らによって1993年に提案された。国際的な競技会によって、ロボット技術を高め合うことが目的である。大阪大学チームも例年参加しており、その歴代のヒューマノイドロボットを展示した。2013年にロボカップ世界大会アダルトサイズリーグで優勝したTichno-RNをブースの前面に配し、その決勝戦の様子などの動画を来館者が座って視聴できるスペースを用意した。ロボットや試合動画を熱心に観ている子どもたちが多くみられた。



図4. ロボカップ展示スペース（左）とTichno-RN（右）

本企画展の関連イベントとして、シンポジウム「HANDAI ロボット展から始まるロボットとの共生社会」とミュージアムレクチャー「ロボットたちの対話の仕組みを覗いてみよう」を開催した。このシンポジウムでは、大阪大学のロボット研究者らだけでなく、京都造形芸術大学教授の山下里加氏を招聘し、将来のロボットとの共生社会に対する期待や課題についてパネルディスカッションを実施した。ミュージアムレクチャーでは、基礎工学研究科准教授の吉川雄一郎氏に講師を依頼し、レクチャーを通じて、大阪大学のロボット研究を紹介した。

本企画展で展示したロボットを中心に、それらのロボット開発の背景や目的を含めて大阪大学総合学術博物館叢書14「ロボットからヒトを識る」にまとめ、2018年3月30日に大阪大学出版会から出版した。この叢書では、ロボットやコンピュータシミュレータによってヒトのモデルを構成することによって、ヒトの認知発達過程を理解することを目指す構成的発達科学のアイデアを説明した。その後、これらのロボットを開発することで、大阪大学のロボット研究者がどのように「ヒトを識る」ことに取り組んできたのかを、多くの図や写真とともに解説した。

実世界ではたらくロボット技術の需要は、今後間違いなく増加する。その世界的な流れの中で、本企画展とその関連活動は「地域に生き世界に伸びる」大阪大学のロボット研究の存在感をアピールする良い機会になった。



## 2. 展覧会報告Ⅱ

大阪大学総合学術博物館 第10回特別展

# 演じる私たち

～戦後20年関西「新劇」の軌跡～

## 概 要

大阪大学総合学術博物館 第10回特別展「演じる私たち～戦後20年関西「新劇」の軌跡～」を2017年10月23日(月)から12月22日(金)の間、大阪大学総合学術博物館待兼山修学館において開催した。

この展覧会では主に終戦後から1960年代ごろまでの関西の新劇に焦点を当て、関西の劇団や劇作家、俳優そして上演された作品に関わる様々な資料を紹介し、市民による観劇団体である「大阪労演」(関西学院大学博物館蔵)資料も多数出品。観客の側からの視点を取り入れながら新劇を中心とした戦後の関西文化の一端を紹介した。本展覧会の期間中の来場者は、4,347名と好評であった。

---

### 大阪大学総合学術博物館 第10回特別展

テーマ：「演じる私たち～戦後20年関西「新劇」の軌跡～」

期 間：2017年10月23日(月)～2017年12月22日(金)

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階多目的ルーム

主 催：大阪大学総合学術博物館

共 催：関西学院大学博物館、大阪芸術大学舞台芸術学科舞台美術コース研究室、  
大阪大学大学院文学研究科、日本舞台美術家協会 西日本支部、  
かんさい・大学ミュージアム連携実行委員会

協 力：大阪大学 21世紀懐徳堂

入館者数：4,347人

〈ミュージアム・レクチャー〉

11月18日(土)「戦後大阪の前衛劇—大阪円型劇場研究会・月光会の試み」

来場者数：22人

講 師：須川 渡 (大阪大学大学院文学研究科招へい研究員)

会 場：大阪大学文学部芸術研究棟 芸3教室

定 員：30名

12月9日(土)「関西新劇の二人の舞台美術家—田中照三と板坂晋治」

来場者数：30人

講 師：堀田 充規 (大阪芸術大学舞台芸術学科准教授)

会 場：大阪大学文学部芸術研究棟 芸3教室

定 員：30名

〈シンポジウム〉

12月2日(土)「戦後の関西「新劇」を考える～市民生活と演劇」

来場者数：66人

登壇者：高岡 裕之 (関西学院大学文学部・文学研究科 教授)

小山 帥人 (ジャーナリスト)

河東 けい (女優、関西芸術座)

菊川 徳之助 (演出家、元近畿大学舞台芸術専攻 教授、劇団アノニム)



大阪大学総合学術博物館 第10回特別展

# 演じる私たち

～戦後20年関西「新劇」の軌跡～

2017年10月23日(月)  
→12月22日(金)

10時30分～17時  
日曜祝日休館

※11月3日(祝)、11月5日(日)は開館

大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

【主催】 大阪大学総合学術博物館

【共催】 関西学院大学博物館、大阪芸術大学舞台芸術学科舞台美術コース研究室、  
大阪大学大学院文学研究科、日本舞台美術家協会 西日本支部、  
かんさい・大学ミュージアム連携実行委員会

【協力】 大阪大学21世紀懐徳堂

大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館  
〒560-0043大阪府豊中市待兼山町1-20  
TEL:06-6850-6284  
<http://www.museum.osaka-u.ac.jp>



# 演じる私たち

## ～戦後20年関西「新劇」の軌跡～

新劇は西欧近代劇の芸術的成果を日本に紹介し、実践した演劇活動および演劇ジャンルの名称です。日本の現代演劇の中心として舞台芸術のみならず映画やその他の文化芸術にも大きな影響を与えてきました。

一般的には新劇の劇団というと文学座などの東京の大劇団が思い浮かびますが、関西にもさまざまな劇団があり活動を行っていました。特に終戦後の1940年代後半には制作座や青猫座、くろみ座といった小規模ながら個性的な劇団が次々と旗揚げされ、多様な演劇的实践が行われるようになりました。

本展覧会では主に終戦後から1960年代ごろまでの関西の新劇に焦点を当て、関西の劇団や劇作家、俳優そして上演された作品に関わる様々な資料を紹介します。市民による観劇団体である「大阪労演」資料(関西学院大学博物館蔵)も多数出品します。観客の側からの視点を取り入れながら新劇を中心とした戦後の関西文化の一端を紹介します。



大阪新劇共同「爐のある室で」1950



青猫座「双頭の鷹」パンフ 1956



京都新劇人の会合同「どん底」舞台写真 1970



関西芸術座「虫」1957

### 関連イベント

#### ミュージアムレクチャー

##### 戦後大阪の前衛劇 — 大阪円型劇場研究会・月光会の試み

日時：11月18日(土)14:00~15:30

講師：須川 渡(大阪大学大学院文学研究科招へい研究員)

会場：大阪大学文学部芸術研究棟 芸3教室

定員：30名、当日先着順(無料、30分前より開場)

##### 関西新劇の二人の舞台美術家—田中照三と坂板晋治

日時：12月9日(土)14:00~15:30

講師：堀田 充規(大阪芸術大学舞台芸術学科准教授)

会場：大阪大学文学部芸術研究棟 芸3教室

定員：30名、当日先着順(無料、30分前より開場)

#### シンポジウム

##### 戦後の関西「新劇」を考える～市民生活と演劇

日時：12月2日(土)13:30~

会場：大阪大学 豊中キャンパス 基礎工学部国際棟Σ(シグマ)ホール

定員：200名 事前申込必要

主催：大阪大学総合学術博物館

共催：関西学院大学博物館、かんさい・大学 ミュージアム連携実行委員会

協力：大阪大学21世紀懐徳堂

助成：平成29年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

※申込方法の詳細については本シンポジウムチラシ、当館ホームページをご覧ください。



〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20

TEL06-6850-6284 <http://www.museum.osaka-u.ac.jp>

阪急宝塚線「石橋駅」下車 徒歩10分

※公共の交通機関をご利用下さい。



大阪大学総合学術博物館  
待兼山修学館

## 報 告

大阪大学総合学術博物館 第 10 回特別展

「演じる私たち～戦後 20 年関西「新劇」の軌跡～」

大阪大学共創機構社会学共創本部

助教 横田 洋

2017 年秋に開催された大阪大学総合学術博物館第 10 回特別展「演じる私たち～戦後 20 年関西「新劇」の軌跡～」は、戦後 1940 年代後半から 1960 年代の関西の新劇の歴史に焦点を当てたものである。新劇は明治から大正期に欧米の近代劇を輸入する形で始まり、歌舞伎などが古典化していく流れの中で、戦前戦後から現代へと続く日本の演劇文化の礎を築いた演劇ジャンルである。一般的に新劇というと文学座、俳優座、劇団民芸などの東京の劇団が主に想起されるが、関西にも新劇の文化とその歴史は存在した。関西の新劇の歴史を検証することで、東京に限らない演劇文化の全体像を捉え直し、その意義を発信していくことを目的として本展覧会は企画された。

この企画の成立した背景としては関西の新劇史についての資料が大学博物館を中心に蓄積されてきていた状況がある。関西学院大学博物館は 2007 年に解散した演劇鑑賞団体である大阪労演の資料を一括して寄贈を受け、一方で大阪大学には 2007 年に解散した京都の劇団くるみ座の資料、さらに劇作家森本薫の資料等が寄贈された。また大阪芸術大学舞台芸術学科は関西の新劇指導者を教授陣として迎え入れていた経緯があり、同大学には関西の新劇界で活躍した二人の舞台美術家田中照三と板坂晋治の舞台デザイン画が多数残されていた。各大学では既にそれぞれに資料を活用してさまざまな企画を運営していたが、今回の企画では従来から進めてきた大学間連携の強みを生かすことでそれらの資料を組み合わせ、関西の新劇の全体像を扱う新たな試みに挑戦することができた。

本展覧会では新劇文化と市民との接点に積極的に焦点を当て、観客組織としての大阪労演や市民が作り手となる自立演劇の隆盛の歴史的な流れを冒頭で紹介し、その上で概ね年代ごとに関西を拠点としたさまざまな新劇の劇団とその活動を紹介していく構成とした。

大阪労演は 1949 年に設立された会員制の演劇鑑賞団体で、60 年代の最盛期には 2 万人を超える会員を集め、日本各地の労演の運営モデルとなった日本最大の労演組織である。会費を支払った会員は月ごとに行われる例会においてさまざまな劇団の演劇公演を観ることができた。大阪労演においても例会の多くは東京の三劇団（文学座、俳優座、劇団民芸）の公演であったが、年に数回関西の劇団が例会に登場することがあった。

終戦直後は職業的な劇団が上演する作品を鑑賞するだけでなく、職場などを単位に市民が自ら作り手となるいわゆる自立演劇が活況を示した時期でもある。1947 年には加盟団体 20 以上の参加のもと、第一回関西自立演劇コンクールが開催され、1949 年には大阪自立演劇合同公演の『土工』が大阪労演の例会にも取り上げられた。1950 年代には自立演劇連絡会議が結成され、1958 年からは春秋 2 回の職場演劇祭が開催されることになった。関西の新劇文化は労演組織また自立演劇を通して非常にすそ野の広い土壌の上に形成されていた

ことが理解できる。

一方、職業として成立することを目指した新劇の劇団も戦後次々と登場する。戦後関西新劇の出発点と位置づけられるのは 1946 年に創設された道井直次らの炉辺クラブである。1947 年には炉辺クラブを中心に岩田直二らその他の関西新劇関係者が合同し劇団芸術劇場が誕生する。1948 年には演出に土方与志をまねき『ロミオとジュリエット』の大規模な公演を行ったのが関西での新劇ブームを象徴する出来事であった。しかし、芸術劇場内部で方針の違いなどもあり分裂し、道井直次は制作劇場（後に制作座と改称）を創設し、その他多数の劇団が林立する状況が生まれる。

フランス文学、イタリア文学を専攻した道井が率いる制作座は西欧古典を上演する一方で、当時先端の思想であった実存主義にも高い関心を示し、アカデミズムとアヴァンギャルドが同居する実験室的志向を持ち、当時の学生や青年層を魅了し、関西の築地小劇場的役割も果たした。芸術劇場が一端解消した後、1950 年に結成された民衆劇場は職業的な専門集団となることを目指しつつ、演劇を運動という視点から捉え、労働者にも観劇してもらうために、紡績工場への移動巡回公演なども行っていた。1955 年に結成された五月座は志摩靖彦・高橋芙美子夫妻のかもめ座、柳川清、山村弘三らの大阪小劇場が合同して創立された劇団で、制作座や民衆劇場と比較して俳優としての経歴を積んできた者が多く、またラジオの出演が多く経済的に支えられていた。青猫座は 1948 年に辻正雄が主宰して、辻美智、八木亮三らとともに創設された劇団で、政治性よりは心理主義的な作品を上演し、俳優の金田龍之介、芸人の永井路夫、小説家筒井康隆らが所属していた。

京都では、東京の築地座などで俳優としての経歴を重ねていた毛利菊枝が 1946 年に毛利菊枝演劇研究所を創設、劇団名をくるみ座として活動を続けた。岸田國士を師と仰ぐ毛利の指導のもと、くるみ座は文学座に近い芸術至上主義の劇団として関西で独自の地位を保ち続ける。岩田直二は 1949 年に劇団京都芸術劇場（1952 年に劇団京芸に改称）を旗揚げ、プロレタリア演劇の影響を受けてはいるが、同時に子供向けの児童劇や人形劇も多く上演した。

関西の劇団は職業化を目指しながらも、必ずしも順調に経営できたわけではなかった。特に大阪労演などの労演の例会で公演を行うことは観客・収入の確保という面で意義があったが、東京の劇団と比べ小規模な関西の劇団が単独で労演の例会に取り上げられることはまれで、多くの場合いくつかの劇団が合同公演を行うことで、労演の例会公演を行った。

そのような状況の中、制作座、民衆劇場、五月座の芸術主張の異なる 3 劇団が合同して、1957 年に関西芸術座が誕生した。戦後関西新劇の経済的な問題や職業的に自立するために、主張の違いを捨てて合同することで大きな視野に立とうとした。関西の作家の作品も多く上演し、とりわけ藤本義一の作品の多くを上演した。また労働者や勤労者の生活に密着した作品や労働運動をテーマにした作品を上演し、「関西リアリズム」と評価された。

関西ではその他にもさまざまな劇団が登場した。1952 年に内田朝雄らによって創設された月光会は新劇の枠には収まりきれない実験的な試みを行った。月光会は客席が舞台を取り囲む円型劇場での公演を実験的に取り組み、反リアリズム的な詩劇を指向し、60 年代以

降のアンダーグラウンド演劇の先駆けとなった。また、関西芸術座への合同に参加せず独自の演劇芸術を追求した大岡欽治の劇団潮流や「働くものの演劇」を掲げ社会性の強い作品を上演する劇団未来など現在でも活動を続ける劇団も 60 年代に登場した。

展覧会ではこうした関西の新劇の戦後から 60 年代までの一連の流れについて、またそれぞれの劇団や上演された作品について解説を交えながら展示した。展示資料の多くは関西学院大学や大阪大学が所蔵するチラシやパンフレット、台本あるいは舞台写真などであったが、大阪芸術大学舞台芸術学科の協力を得て戦後関西の新劇界で活躍した二人の舞台美術家田中照三と板坂晋治の舞台デザイン画も多数出品し、戦後の新劇の舞台を視覚的にも想起させる展覧会を開催することができた。



また本展の特徴的な試みとして、展示空間を舞台空間として再現したことが挙げられる。田中照三の舞台デザインのうち、『オイディプス王』と『ダイヤル M を廻せ』のデザインを



ほぼ 2 分の 1 程度の縮尺で立体的に再現した。観覧者の視覚のみならず身体全体が舞台空間に覆われる仕掛けで、体感的な展示として効果があったと考えている。また板坂晋次の舞台デザインを元にした『おりん口伝』の 5 分の 1 の舞台模型を展示した。これは板坂の教え子にあたる大阪芸術大学卒の舞台美術家尼川ゆら氏が制作したもので、より精密な舞台美術の再現が可能になった。

本展覧会は従来から進めてきた大学間連携の推進の一端として、かんさい・大学ミュージアム連携実行委員会の平成 29 年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業「交流する大学ミュージアムを目指して「大学の扉を開く」」の支援を一部受けて行われた。支援を受けた事業として 12 月 2 日に開催されたのが、連携公開シンポジウム「戦後の関西「新劇」を考えるー市民生活と演劇ー」である。本シンポジウムでは新劇文化を支えた市民の生活との関わりに特に焦点を当て、関西の新劇の歴史を概観し、また検証することを目的に開催された。

登壇者は昭和期の娯楽文化等を専門とし大阪労演の研究も続けている関西学院大学教授の高岡裕之氏、演出家として現在も活躍する一方新劇史の研究者でもある菊川徳之助氏、劇団京芸や関西芸術座の創立者岩田直二の子息でジャーナリストでもある小山帥人氏、民衆

劇場に参加し、関西芸術座の創立メンバーでもある女優の河東けい氏に司会の永田靖氏を交えた五名で、順にそれぞれの話を伺う形でシンポジウムは進められた。

関連イベントとしてはシンポジウム以外に期間中2回ミュージアムレクチャーを開催した。11月18日の大阪大学大学院文学研究科招へい研究員の須川渡氏による「戦後大阪の前衛劇—大阪円型劇場研究会・月光会の試み」では、60年代以降のアンダーグラウンド演劇の先駆けともなった月光会の前衛的な演劇実践の歴史についての講演がなされた。12月9日には大阪芸術大学舞台芸術学科准教授の堀田充規氏の「関西新劇の二人の舞台美術家—田中照三と板坂晋治」と題した講演があり、それぞれ大阪芸術大学教授でもあった田中照三と板坂晋治の関西新劇における舞台美術にかかわる業績について舞台デザイン画などの豊富な資料に基づき紹介された。

関西の新劇の歴史についてはまとまった研究も少なく、今回のようにその全体像を捉えようと試みた展覧会やシンポジウムの開催は本邦初であったとあってよい。関西の新劇の文化的、芸術的価値の歴史的な検証を行うためのよい機会であった。しかし、戦後70年以上が経過し、現在では新劇の最盛期である50～60年代を知る関係者への直接的な聞き取りが困難になりつつある。演劇に限らない関西の文化芸術の歴史を捉え直す機運を喚起する意味でも今回の一連の企画には意義があったのではないかと考えている。



関西学院大学博物館 × 大阪大学総合学術博物館  
連携公開シンポジウム

# 戦後の 関西「 新劇」 を 考える —市民生活と演劇—

登壇者

高岡 裕之 (関西学院大学文学部・文学研究科 教授)

小山 帥人 (ジャーナリスト)

河東 けい (女優、関西芸術座)

菊川 徳之助 (演出家、元近畿大学舞台芸術専攻 教授、劇団アノニム)

司会 永田 靖 (大阪大学総合学術博物館・大阪大学大学院文学研究科 教授)

2017.12.2 土

13:30～(13:00開場)

大阪大学 豊中キャンパス  
基礎工学部国際棟Σ(シグマ)ホール

入場無料

定員:200名  
※事前申し込み必要

平成29年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業  
「交流する大学ミュージアムを目指して～大学の扉を開く～」  
関西学院大学博物館 × 大阪大学総合学術博物館 連携公開シンポジウム

主催:大阪大学総合学術博物館

共催:関西学院大学博物館

かんさい・大学ミュージアム連携実行委員会

協力:大阪大学21世紀懐徳堂



# 戦後の関西「新劇」を考える

—市民生活と演劇—

新劇は西欧近代劇の芸術的成果を日本に紹介、また実践した演劇活動および演劇ジャンルの名称です。日本の現代演劇の中心として舞台芸術のみならず映画やその他の文化芸術にも大きな影響を与え続けてきました。一般的には新劇の劇団というと文学座などの東京の大劇団が思い浮かびますが、関西にもさまざまな劇団があり活動を行っていました。特に終戦後の1940年代後半には制作座や青猫座、くるみ座といった小規模ながら個性的な劇団が数多く旗揚げされ、多様な演劇の実践が行われるようになりました。東京とは異なる土壌で独自に育まれた関西の新劇を各方面の専門家を交え、特に関西の市民生活との関連を中心に捉え直すシンポジウムを開催します。

## ■ 登壇者

高岡 裕之 (関西学院大学文学部・文学研究科 教授)

小山 帥人 (ジャーナリスト)

河東 けい (女優、関西芸術座)

菊川 徳之助 (演出家、元近畿大学舞台芸術専攻 教授、劇団アノニム)

■ 司会 永田 靖 (大阪大学総合学術博物館・大阪大学大学院文学研究科 教授)

## 申し込み方法

WEBフォームまたは往復ハガキでお申し込みください。

### ▶ WEBからのお申し込み

[http://www.museum.osaka-u.ac.jp/2017shingeki\\_symposium](http://www.museum.osaka-u.ac.jp/2017shingeki_symposium)

### ▶ 往復ハガキでのお申し込み

往信文面に郵便番号・住所・氏名・電話番号・学年(年齢)を、返信宛名面に住所・氏名を明記の上、下記宛にご送付願います。

〒560-0043 豊中市待兼山町1-13

大阪大学総合学術博物館 シンポジウム申込係

※複数名でお申し込みの場合、同伴者全員の情報をご記入下さい。

※11月24日(金)申込締切(必着)

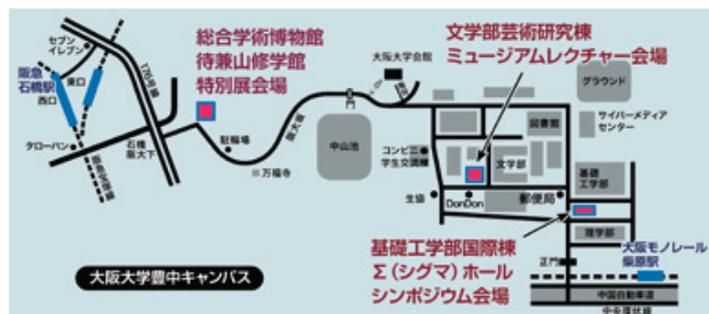
※定員に達し次第申し込みを締め切ります。

## アクセス

大阪大学 豊中キャンパス 基礎工学部国際棟Σ(シグマ)ホール

阪急宝塚線「石橋」駅 徒歩20分、大阪モノレール「柴原」駅 徒歩10分

※展覧会会場とは会場が異なります。



## 関連展覧会

大阪大学総合学術博物館第10回特別展

演じる私たち～戦後20年関西「新劇」の軌跡

会期：2017年10月23日(月)～12月22日(金)

会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

主催：大阪大学総合学術博物館

共催：関西学院大学博物館

大阪芸術大学舞台芸術学科舞台美術コース研究室

大阪大学大学院文学研究科

日本舞台美術家協会 西日本支部

かんさい・大学ミュージアム連携実行委員会

協力：大阪大学21世紀懐徳堂

### 3. 大学を活用した文化芸術推進事業

## 記憶の劇場Ⅱ

大阪大学総合学術博物館

ー 大学博物館を活用する

文化芸術ファシリテーター育成プログラムー

## 概要

大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成プログラム」を2017年7月22日（土）から2018年3月17日（土）の間、開催した。これは、アートマネジメント人材育成講座として、昨年に引き続き、文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」の助成を受けたプログラムである。46名の受講生を迎え入れ、全体に関わる講座（活動①）と、それぞれの担当講師の特色を持った6つの講座（活動②～⑥）を実施した。講座の最後には成果発表として、「展覧会「記憶の劇場Ⅱ」」を開催した。本展覧会には670名もの来場者があり、好評であった。

---

### 「記憶の劇場Ⅱ」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成プログラム

期 間：2017年7月22日（土）～2018年3月17日（土）

主 催：大阪大学総合学術博物館

共 催：大阪大学大学院文学研究科

連 携：あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール、大阪新美術館建設準備室、公益財団法人吹田市文化振興事業団（吹田メイシアター）、豊中市都市活力部文化芸術課、能勢浄るりシアター、兵庫県立尼崎青少年創造劇場（ピッコロシアター）、公益財団法人益富地学会館

助 成：平成29年度文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」

協 力：大阪大学21世紀懐徳堂

デザイン：濱村和恵

年間活動：

活動①「「記憶の劇場Ⅱ」オープニング講座」、セミナー「大阪の記憶と未来」・博物館オリエンテーション、「クロージング・シンポジウム」

2017年7月22日（土）、9月16日（土）、2018年3月10日（土）／講座内容：オープニング講座、セミナー、博物館オリエンテーション、シンポジウム

活動②「地域文化の発信・顕彰とメディアリテラシー」

2017年9月10日（日）、9月30日（日）、10月22日（日）、12月17日（日）、2018年1月21日（日）／講座内容：座学・演習、フィールドワーク、発表会

活動③「自然科学に親しむ・触る・アートする～研究からアートそして発信～」

2017年10月7日（土）、10月14日（土）、10月21日（土）、10月28日（土）、11月11日（日）、11月18日（日）／講座内容：座学、撮影実習、造形教室、講演会

活動④「オペラ『新しい時代』をめぐるワークショップ」

2017年10月7日（土）、11月13日（月）、11月28日（火）、12月2日（土）、12月3日（日）、12月8日（土）、12月9日（日）、12月16日（土）、2018年3月4日（日）／講座内容：座学、プレゼンテーション、オペラリハーサル、オペラ上演、上映会

活動⑤「パフォーミング・ミュージアム Vol. 2」

2017年9月9日（土）、9月30日（土）、10月28日（土）、12月16日（土）、12月17日（日）／講座内容：資料閲覧、座学、上演に向けてのワークショップ、上演

活動⑥「旅・芸の TELESOPHIA」

2017年9月3日（日）、10月17日（土）、12月25日（月）、2018年1月21日（土）、2月10日（日）、3月9日（金）、3月11日（日）、3月12日（月）／講座内容：座学、上演、トークイベント、フィールドワーク

活動⑦「ドキュメンテーション／アーカイヴ」

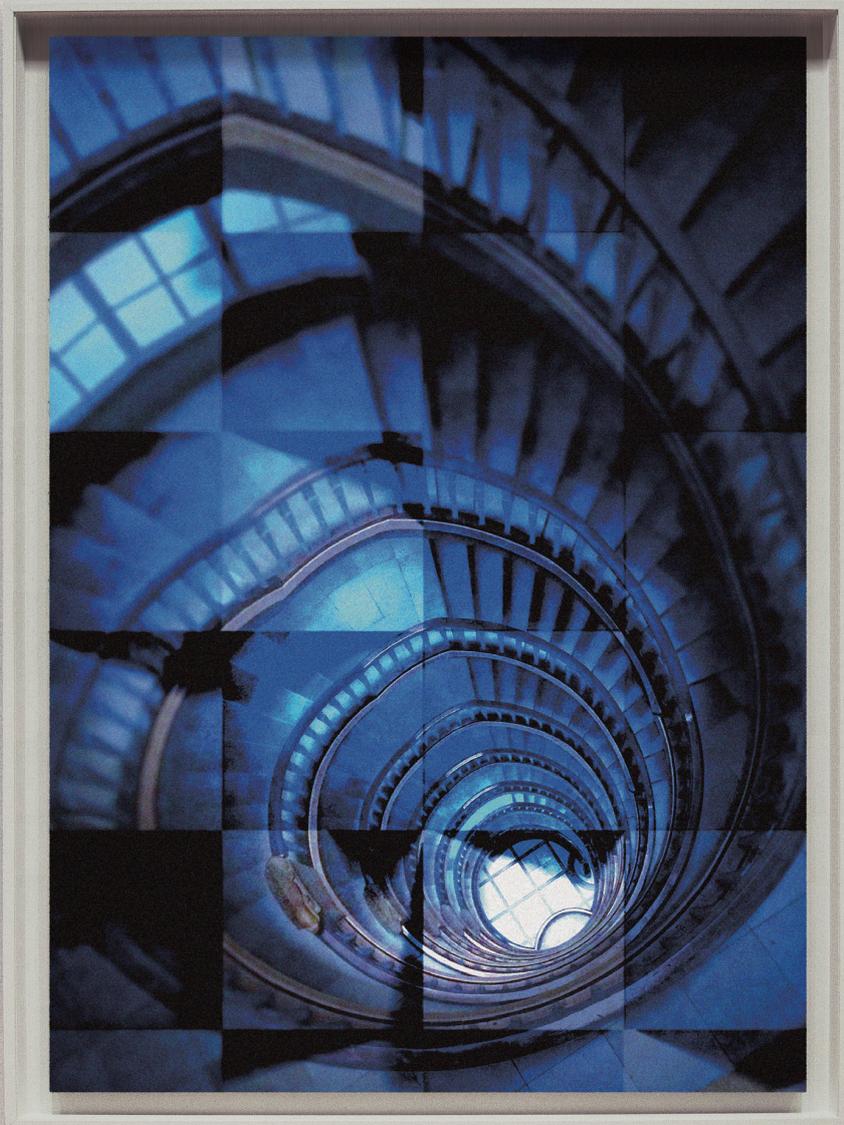
Vol. 1: 2017年9月1日（金）、9月8日（金）、9月9日（土）、10月14日（土）、10月28日（土）、11月4日（土）、11月11日（土）、11月15日（水）、11月19日（日）、Vol. 2: 2017年7月29日（土）、11月18日（土）、11月26日（日）、12月9日（土）12月24日（日）、2018年1月14日（日）、2月10日（土）／講座内容：座学、ワークショップ、フィールドワーク、公演鑑賞、データ化と編集

記憶の劇場Ⅱ

大阪大学総合学術博物館

大学博物館を活用する文化芸術ファンリテーター育成プログラム

# 記憶の劇場Ⅱ 展覧会



2018. 2. 27 火 → 3. 16 金

[開館時間] 10:30~17:00 (入館は16:30まで) [休館日] 日曜日 入場無料

大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

阪急電鉄 宝塚線 石橋駅 (徒歩10分)

主催：大阪大学総合学術博物館  
共催：大阪大学文学研究科

連携：あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール / 大阪新美術館建設準備室 / 公益財団法人吹田市文化振興事業団 (吹田メインアター)  
豊中市都市活力部文化芸術課 / 能勢浄るりシアター / 兵庫県立尼崎青少年創造劇場 (ピッコロシアター) / 公益財団法人益富地学会館

助成：平成29年度文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」

協力：大阪大学 21世紀懐徳堂

<https://kiogeki.org/>





# 大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場 II」 社会と大学との協奏を生かしたリサーチ型ミュージアムの探求

本展覧会は、大阪大学総合学術博物館が主催し、近隣の劇場・音楽堂・美術館等とも共同して開催してきた、文化芸術ファシリテーター育成プログラム「記憶の劇場 II」の成果を公開するものです。

本プログラムは、博物館が収集・保存してきた博物館資料、いわゆる「ミュージアム・ピース」を様々な観点から検討することで現代社会に「生きたアート」として蘇らせようとする試みです。同時に大学博物館としての強みを生かし、大学の持つ文理融合の、あるいは基礎研究の力と連動させた「リサーチ型ミュージアム」のあり方をさらに探求したいという期待も込められています。

このプログラムを受講されたのは、文化芸術に関心のある社会人を中心とした方々で、プログラムとして企画した6つの活動をそれぞれ選択し受講してきました。本展覧会は、そのような活動を行ってきた本プログラムを紹介するとともに、プログラムに参加された受講生のこの1年間の成果を発表する場として開催いたします。

**関連イベント**

**「展覧会『記憶の劇場II』  
クロージング・シンポジウム」**

2018年3月10日(土)14:00~  
会場:大阪大学21世紀懐徳堂スタジオ  
(大阪大学会館1階)

※入場無料・要事前申し込み  
<https://kiogeki.org/contact>  
よりお申し込みください

## 1 「記憶の劇場 II」オープニング講座/セミナー「大阪の記憶と未来」・博物館オリエンテーション/クロージング・エキジビション

オープニングでは、国内外の公共施設やミュージアムの持つ今日的な意義と問題を学び各活動の理念を共有しました。また、セミナーによって大阪の文化芸術に関する知見を得、オリエンテーションでは博物館展示の基礎を経験しました。これらに加え、それぞれの実践的な活動を経験した受講生による、総合的な芸術ファシリテーターとしての活動成果発表の場として、展覧会とクロージング・シンポジウムを開催します。

## 2 地域文化の研究による発信・顕彰とメディアリテラシー

(担当:橋爪節也)

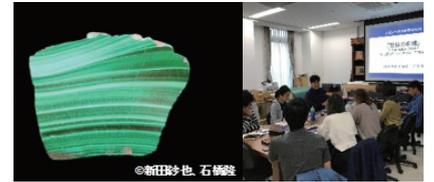
参加者が歴史や芸術の視点から、モダンな中之島や道頓堀の橋、臨海地帯の巨大橋梁を探り、魅力を発信する個性的なペーパー、映像にまとめました。



## 3 自然科学に親しむ・触る・アートする ～研究からアートそして発信～

(担当:上田貴洋、伊藤謙)

自然科学の対象の一つである「鉱物」にアートを見いだす活動を通じ、独自の鉱物図鑑制作を目標に自然科学・アート間の相互理解を深めてきました。



## 4 三輪眞弘『新しい時代』の再演

(担当:伊東信宏)

三輪眞弘氏のモノローグ・オペラを、17年ぶりに再演しました。ネットワークの中の自分の方が生身の自分よりも大切だとか切実だ、と思う人はこのオペラを見直してみる必要があります。公演までの過程と、上演自体を記録し、展示します。



## 5 パフォーミング・ミュージアム Vol.2 「くるみ座」を上演する

(担当:永田靖、横田洋)

博物館所蔵のくるみ座関連資料を実際に扱い、研究を進めると同時に、関連上演のファシリテートと展覧会の企画を行いました。



## 6 旅・芸の TELESOPHIA

(担当:山崎達哉)

人形を伴う芸能を題材に、時間的または空間的に遠い(=TELE)知識やわざ(=SOPHIA)がどのように現代に伝わっているかを、上演などを通して考えました。



## 7 ドキュメンテーション/アーカイヴ

(担当:古後奈緒子)

ダンスボックス制作・筒井潤作『滲むライフ』のリサーチ(vol.1)と、維新派『nostalgia』の台本出版プロジェクト(vol.2)に参加した成果。伝えられるものと伝えられないもの間を展示します。



大阪大学総合学術博物館

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20  
Tel.06-6850-6284  
<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>  
阪急電鉄 宝塚線 石橋駅(徒歩10分)  
お問い合わせ: <https://kiogeki.org/contact>



## 報 告

大阪大学総合学術博物館

### 「記憶の劇場Ⅱ」－大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成プログラム

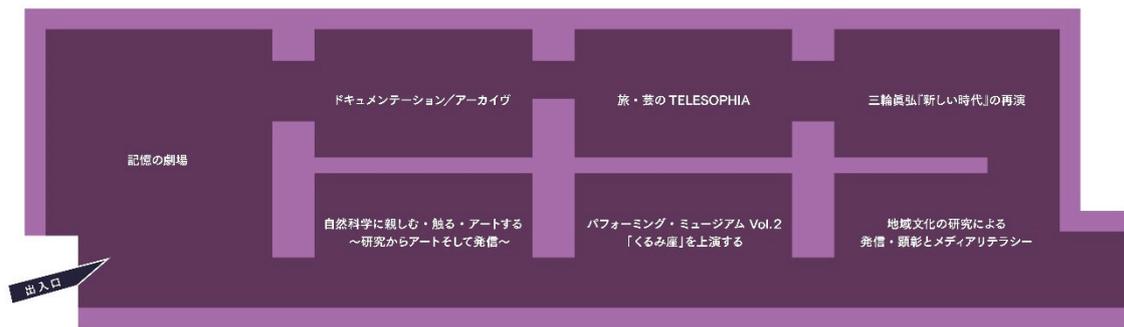
大阪大学総合学術博物館  
特任研究員 山崎 達哉

大阪大学総合学術博物館では、文学研究科と共催し、文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」の助成を受け、平成28年度より「大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座」として「記憶の劇場」を開催している。平成29年度には「「記憶の劇場Ⅱ」－大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成プログラム」として、2年連続での開催となった。このプログラムは、アートマネジメントの人材を育成する講座として開いており、社会人を中心に学生も参加した。プログラムは、①博物館の〈ミュージアム・ピース〉を〈生きたアート〉として公開する、②地域社会との協奏による芸術実践の試みと基礎研究を連動させた「リサーチ型ミュージアム」のあり方の探求、③文系理系を横断しつつ多様な文化芸術領域に柔軟に対応できる“ジェネラリスト”人材の育成、という3つの理念のもとで推進された。これらの理念を共有しつつ幅広い芸術領域に対応できるよう、様々なプログラムを用意し、1年を3期に分けた。第1期は座学中心の学習期間、第2期を具体的な研修を行う期間とし、続く第3期に研修成果を大学博物館にて展示する期間として設定した。第2期に、多ジャンルの文化芸術プログラムに対応できるよう、「記憶」という共通のテーマのもと、大阪文化、鉱物、現代音楽、演劇、芸能、アーカイヴという6つの個別の講座と、共通セミナー・博物館オリエンテーションといった全体に関わる講座の全7つの講座を用意した。受講生はそれぞれ6つの個別の講座に分かれ、フィールドワークやワークショップなどの講座を受講し、映像の撮影や上演にかかわる運営などの実践も行った。同時に専攻講座以外にも参加することで、多様な文化芸術領域に触れる機会を得た。

上記の第3期にあたる期間には、講座に参加した受講生と担当講師による約1年間の講座の成果発表の場として「展覧会「記憶の劇場Ⅱ」」を開催した。展覧会場である待兼山修学館3階多目的ルームを7つの部屋に分け、7つの講座のコンセプトと内容を紹介するとともに、1年間の講座の成果報告を行った。それぞれの講座タイトルは、そのまま展覧会でもそれぞれの展示室を表す名前となった。



「展覧会「記憶の劇場Ⅱ」」パンフレット（デザイン：濱村和恵）



「展覧会「記憶の劇場Ⅱ」」パンフレットより、部屋割（©濱村和恵）

展覧会「記憶の劇場Ⅱ」は、「記憶の劇場Ⅱ」-大学博物館を活用する文化芸術ファミリーテーター育成プログラム」における7つの講座のコンセプトと内容を紹介するとともに、1年間の講座の成果報告の場として開催された。展覧会「記憶の劇場Ⅱ」の会場は大



阪大学総合学術博物館待兼山修学館多目的ルームを使用した。展示内容を際立たせ、提示しやすくするため、展示室を7室に分けた。

### 第1室「記憶の劇場」それぞれの活動内容を表す写真

展覧会「記憶の劇場Ⅱ」第1室は「記憶の劇場」と名づけ、全体を総括する展示を行った。この部屋では、7つの活動それぞれの1年間の成果を1枚の写真で表す、写真展示を実施した。展示室の入口と出口が同じであることから、展覧会の初めにそれぞれの講座内容を提示するとともに、展覧会を振り返る最後の部屋としても成立するよう写真が選ばれた。

続く第2室は、「ドキュメンテーション/アーカイヴ」（担当講師：古後奈緒子）である。本活動では、神戸ダンスボックスによるパフォーマンス作品『滲むライフ』のドキュメンテーション（vol.1）と維新派の作品『nostalgia』の台本出版（vol.2）を通し、上演作品の記録と活用について考えた。vol.1の展示では、『滲むライフ』上演を通して受講生が調査・考察した内容をパネル、映像、音声を駆使して表現した。また、vol.2では、台本が閲覧可能な状態で維新派『nostalgia』の上演映像と台本を併設し、上演の進行を把握できる、台本を活用した展示を行った。



第2室「ドキュメンテーション/アーカイヴ」より、『滲むライフ』の調査等による成果であるVol.1（左）と維新派『nostalgia』台本を活用したVol.2（右）

第3室では、時間的に遠い(=TELE)過去から現在まで伝えられている様々な芸がもつ豊富な知識やわざ(=SOPHIA)について考える「旅・芸の TELESOPHIA」(担当講師：山崎達哉)の展示をした。この活動では、阿波木偶箱まわし、能勢人形浄瑠璃、西宮のえびす舞の3つの芸を鑑賞し、この3者とともに「劇場とは何だろう？」というテーマでトークイベントを開催した。これらの成果を受講生一人一人がパネルや日本画にして公表するとともに、鑑賞した能勢人形浄瑠璃の人形を上演内容を想起させるように展示した。劇場について考える延長として、ちんどん通信社による展覧会の宣伝活動と上演も行った。



**第3室「旅・芸の TELESOPHIA」の展示**

次の第4室は「三輪眞弘『新しい時代』の再演」(担当講師：伊東信宏)である。2000年初演の、14歳の少年とインターネットなどのデジタルな世界、宗教などに関わる問題をテーマにしたオペラ作品『新しい時代』を2017年に再演するというプロジェクトであった。本展示では作品に登場する曲「少年の言葉、神の旋律」にスポットを当て、映像や音声、台本などを活用して作品を紹介した。また、実際に作品で使用した「少年の部屋ブース」も設置した。展示期間中には、大阪公演の映像を活用した上映会も開催した。



**第4室「三輪眞弘『新しい時代』の再演」より「少年の部屋ブース」の再現と展示**



**第5室「地域文化の発信・顕彰とメディアリテラシー」の展示**

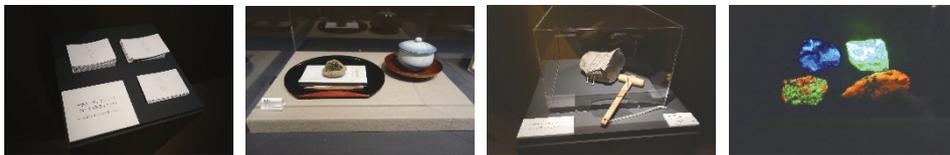
第5室には「地域文化の研究による発信・顕彰とメディアリテラシー」(担当講師：橋爪節也)の展示を行った。本活動は「エコ・ミュージアム」の考えから、水上の調査クルージングで大阪の“橋”を見つめ直すことで「八百八橋」と謳われた水都大阪の魅力を再発見し、大阪という都市が持たれているイメージを再検証した。また受講生はそれぞれの関心に従って小冊子を作成した。展示では、単に小冊子を配布するだけでなく、映像や立版古の見本、書など、調査による成果を公表した。

戦後すぐに京都で創設された新劇の劇団「くるみ座」を取り扱った「パフォーミング・ミュージアム Vol.2 「くるみ座」を上演する」(担当講師：永田靖、横田洋)が次の第6室である。この活動では、本学演劇学研究室に寄贈され、博物館に寄託されている膨大な「くるみ座関係資料」を活用して、山口浩章(劇団このしたやみ)演出による演劇公演『くるみ座を上演する 豆の波音』を実施した。展覧会では、インタビューや写真、資料の展示、稽古場の再現、上演時の映像を駆使し、受講生が得た感動とくるみ座の記憶を来場者と共有するような仕掛けを展開した。



### 第6室「パフォーミング・ミュージアム Vol.2 「くるみ座」を上演する」の展示

最後の第7室は「自然科学に親しむ・触る・アートする～研究からアートそして発信～」(担当講師：上田貴洋、伊藤謙)の展示である。本活動では、自然科学の分野から鉱物に焦点をあてて講座を開催した。受講生は多様な鉱物と対面し、それらをどのように展示すべきかを考え、対話を重ね、五感をテーマとした展示を実施した。様々な鉱物を五感にあてはめ、見立てや触れる仕掛け、叩いて音を出すなど、従来の鉱物展示にない手法を行った。また、展覧会に深みを加えるべく小冊子の「図鑑」を作成・配布し、「図鑑」を見ながら展示を鑑賞できる工夫を行った。



### 第7室「自然科学に親しむ・触る・アートする～研究からアートそして発信～」より、「図鑑」と五感をテーマにした展示の一部

このように本展覧会は、様々な領域を含む文化芸術に関する講座の成果を展覧会へと結びつけたものとして開催された。展覧会開催に向けて、受講生が中心となり、それぞれの展示室内の企画を考えるとともに、実際の展示準備や展示方法にまで携わった。受講生は、本プログラムにおけるそれぞれの講座の企画運営や展覧会実践などを通し、多様な文化芸術領域のファシリテートに柔軟に対応できる力を育み、文化芸術を活性化するような新しい展覧会やアート・イベント等を創出する力を蓄えることができた。当初の理念の実現だけでなく、担当講師や受講生同士の人的交流も活発となり、講座や展覧会を通して、大学博物館による地域社会への新しいアウトリーチ活動の方法を提示できた。

## 4. シンポジウム報告

### <具体>再考

第2回 1930年代の前衛

## 概 要

### シンポジウム

テーマ：「<具体>再考 第2回 1930年代の前衛」

日 時：2017年12月3日(日) 14:00～17:30

会 場：大阪大学中之島センター3階 講義室301

主 催：大阪大学総合学術博物館

来場者数：77人

プログラム：

#### 【発 表】

14:00～14:45 光田由里（美術評論家、DIC 川村記念美術館学芸課長）

「瀧口修造の〔物体〕 接触 写真 幾何学」

14:45～15:30 大谷省吾（東京国立近代美術館美術課長）

「瑛九は現実をいかに捉えようとしたか」

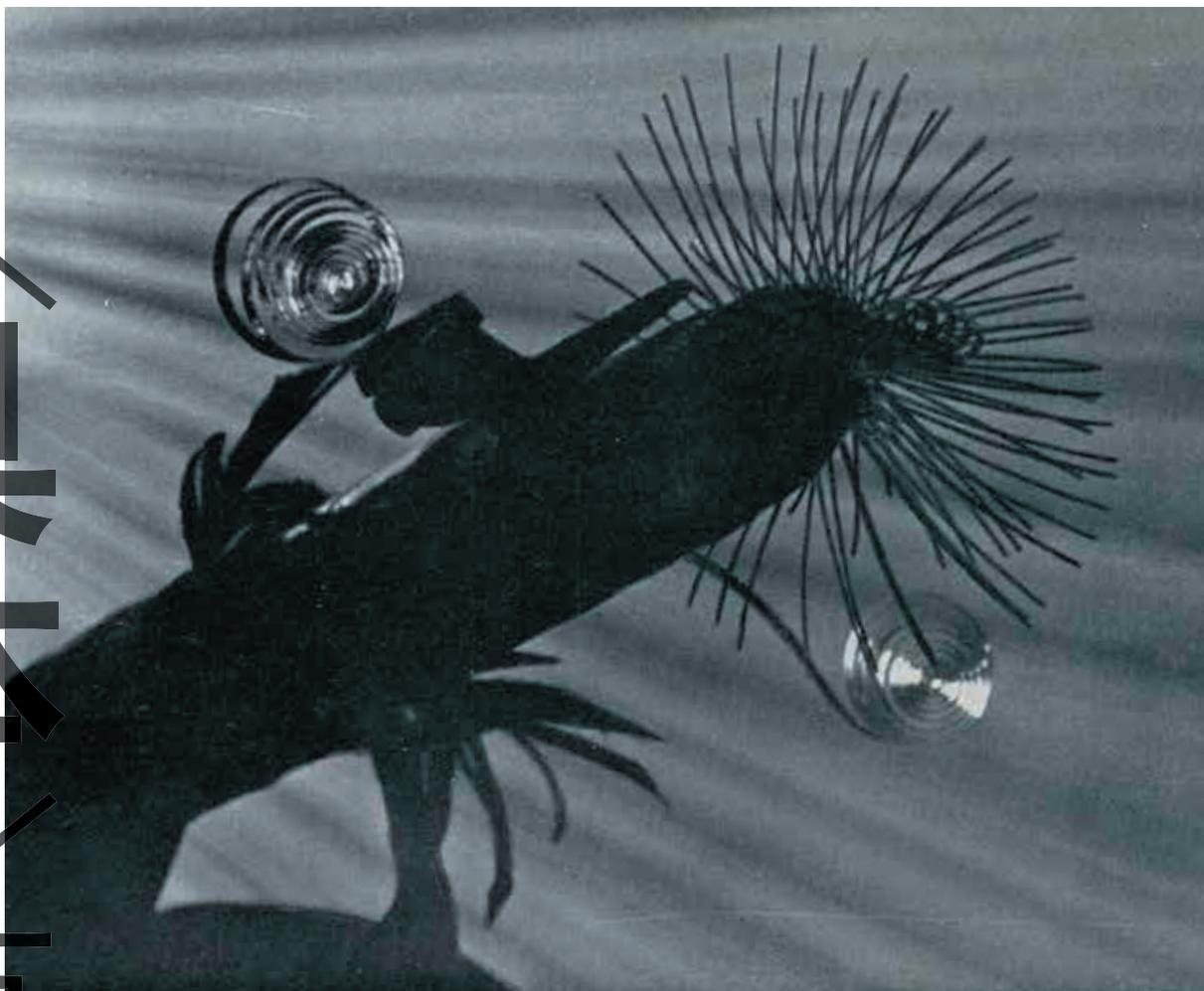
15:40～16:15 加藤瑞穂（大阪大学総合学術博物館招へい准教授）

「吉原治良の『物質』をめぐる思考」

#### 【討 議】

16:15～17:30

# 具体再考



吉原治良《作品》1940年頃 ※『九室』第2号(1940年3月5日)11頁掲載

## 第2回

## 1930年代の前衛

2017年12月3日(日) 14:00-17:30

大阪大学中之島センター3階 講義室301

定員：60名 聴講無料、事前申込み不要、  
当日先着順(13:15より整理券を配布します)

主催：大阪大学総合学術博物館



[会場・交通案内]

大阪大学中之島センター

〒530-0005 大阪市北区中之島4-3-53

tel. 06-6444-2100

<https://www.onc.osaka-u.ac.jp/>

◎京阪中之島線・中之島駅(6番出口)より徒歩約5分

◎京阪中之島線・渡辺橋駅(1番出口)より徒歩約5分

◎阪神電車・福島駅より徒歩約9分

◎JR東西線・新福島駅より徒歩約9分

◎JR大阪環状線・福島駅より徒歩約12分

◎地下鉄四つ橋線・肥後橋駅(4番出口)より徒歩約10分

関西に生まれた戦後日本を代表する前衛美術グループ「具体美術協会」(略称：具体、1954-1972年)は、激しい身体行為の痕跡や生々しい物質感が特徴的な作品群で知られますが、その活動についてはこれまで、戦前との繋がりあるいは同時期の他の前衛的動向との関わりという観点から問われることがほとんどありませんでした。このような従来の解釈を複数の視点から再考する研究の一環として、2016年度よりシンポジウムを一年に一度、継続的に3回行います。昨年度の「第1回1950年代の前衛グループ」では、「デモクラート美術家協会」、「実験工房」等と「具体」を比較し、それらの共通性ならびに固有性について検討しました。2回目となる2017年度は、1回目の論点を踏まえて、「デモクラート美術家協会」、「実験工房」、「具体」それぞれの中心的役割を果たした瑛九(1911-1960年)、瀧口修造(1903-1979年)、吉原治良

(1905-1972年)の接点に注目し、研究者による発表・討議を通して、戦前の1930年代にまで遡る彼らの活動やその志向、戦後との連続性などについて考えます。

この企画は、大阪大学総合学術博物館で2012年から本格的に始まった、戦後大阪の先鋭な美術を検証する一連の研究[シンポジウム「大阪のアヴァンギャルド芸術」(2012年)、第16回企画展「オオサカがとんがっていた時代 戦後大阪の前衛美術 焼け跡から万博前夜まで」(2013年)、叢書『戦後大阪のアヴァンギャルド芸術』(大阪大学出版会、2013年)]を引き継ぎ、さらなる展開を図るものと位置づけられます。なお本シンポジウムは、平成28年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金 基盤研究(C) 課題番号 16K02266「具体美術協会」再考—複合的視点から見直す戦後日本美術の一断面—)による研究成果の一部です。



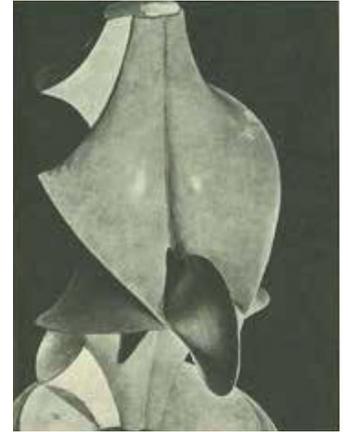
瑛九『眠りの理由』表紙 1936年  
吉原治良旧蔵・大阪新美術館建設準備室蔵  
写真提供：大阪新美術館建設準備室 (GA 1708)



瑛九『リアル』1937年  
東京国立近代美術館蔵  
Photo: MOMAT / DNPpartcom



瀧口修造『デカルコマニイ』1937年  
\*『みづゑ』第387号  
(1937年5月3日) 50頁掲載



マン・レイ『数学的な物体』制作年不詳  
\*瀧口修造『物体と写真 特にシュルレアリスムのオブジェに就て』『フォトタイムズ』第15巻第8号(1938年8月1日) 65頁掲載



吉原治良『作品A』1939-40年頃  
大阪新美術館建設準備室蔵

## プログラム 12.3.Sun.

14:00—14:45

瀧口修造の「物体」接触 写真 幾何学  
光田由里

【発表】

14:45—15:30

瑛九は現実をいかに捉えようとしたか  
大谷省吾

15:40—16:15

吉原治良の「物質」をめぐる思考  
加藤瑞穂

【討議】

16:15—17:30

光田由里 美術評論家、DIC川村記念  
美術館学芸課長

主要著書に『写真、「芸術」との界面に：写真史 1910年代-70年代』(青弓社、2006年、日本写真協会学芸賞)、『高松次郎 言葉ともの—日本の現代美術 1961-72』(水声社、2011年)等。主要カタログに『安井仲治写真集』(共同通信社、2004年、倫雅賞)、『野島康三 作品と資料集』(渋谷区立松濤美術館、2009年)、『WOLS 路上から宇宙へ』(左右社、2017年)等。

大谷省吾 東京国立近代美術館  
美術課長

1994年より同館勤務、2016年より現職。同館での主な企画展として「生誕100年記念 吉原治良展」(2006年)、「生誕100年 髪光展」(2007年)、「生誕100年 岡本太郎展」(2011年)、「瑛九 1935-1937 闇の中で「リアル」をさがす」(2016年)等。『激動期のアヴァンギャルド シュルレアリスムと日本の絵画 1928-1953』(国書刊行会)を昨年刊行。

加藤瑞穂 大阪大学総合学術  
博物館招へい准教授

1993-2011年、芦屋市立美術館学芸員。2011年より現職。90年代半ばより具体美術協会に関する展覧会企画、論文執筆等に取り組む。最新の論文は「金山明の電動機器による描画—具体美術協会におけるその意義—」(『美術史』第183冊、2017年10月)。本シンポジウム企画者。



【問い合わせ先】

大阪大学総合学術博物館

〒560-0043

豊中市待兼山町 1-13 大阪大学会館内

tel. 06-6850-6715 (平日 9:00—17:00)

<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

## 報 告

シンポジウム <具体>再考

「第2回 1930年代の前衛」

大阪大学総合学術博物館

招へい准教授 加藤 瑞穂

本シンポジウムは、関西に生まれた戦後日本を代表する前衛美術グループ「具体美術協会」（略称：具体、1954-1972年）について、これまで問われることが少なかった複数の視点からの再考を目的として2016年度より一年に一度、継続的に行っている企画の二回目にあたる。2017年度は、前年度に「具体」と同時代の前衛グループとして「実験工房」と「デモクラート美術家協会」を取り上げたことを踏まえ、それぞれで中心的役割を果たした吉原治良（1905-1972年）、瀧口修造（1903-1979年）、瑛九（1911-1960年）の接点に注目し、研究者による発表・討議を通して、戦前の1930年代にまで遡る彼らの活動やその志向、戦後との連続性などについて考えた。

最初に、光田由里氏より「瀧口修造の〔物体〕 接触 写真 幾何学」と題して、瀧口の「物体」に関する考察を中心に次のような発表があった。1920年代に詩人として活動を開始し、シュルレアリスムを受容する中で美術評論にも携わるようになった瀧口は、シュルレアリスムの中心的人物アンドレ・ブルトンから多大な影響を受けていた。瀧口が1920年代末以降、詩から美術へと関心を広げたのも、ブルトンが「オブジェ」（物体）に力点を置き始めたことが主な要因と思われる。また物体への着目にあたって瀧口が重視したのが写真であり、シュルレアリスムを基盤にして、写真に関する論評を精力的に発表した。作品では特にアジェやブラッサイに代表される「ストレートなスナップ」、技巧的ではないがカメラの機能を十全に駆使し、対象となった物体の通常見過ごされている要素を露わにするような写真を高く評価した。なぜなら、そうした物体の「発見」こそ、シュルレアリスムにおける写真の機能として最も本質的と考えたからである。1938年に刊行した『近代芸術』は、瀧口のこうした写真の理解に基づいて「物体」を思考し、「新たな視覚」の開拓を試みた仕事と見なせるのであり、その「物体」観は、戦後の批評界で主導的役割を果たした花田清輝に引き継がれた。この他、瀧口はシュルレアリスムを理解する上で、ブルトンに倣って自らデカルコマニーを多数手がけ、絵の具と紙との接触によって生まれるイメージを発表している点にも留意したい。

続いて大谷省吾氏より「瑛九は現実をいかに捉えようとしたか」と題して、瑛九が写真を通して獲得しようとした「現実」（リアル）についての発表があり、以下のように考察が展開された。美術史上における瑛九の独自性は、彼が自身の写真作品を「フォト・デッサン」と呼んだことから窺えるように、写真を美術ないし絵画の文脈に位置づけた点にある。その作品には二種あり、一つはよく知られたフォトグラムによるもので、代表作は『眠りの理由』（1936年）である。10点組の本作品では天地が明確でないものも複数含まれるが、重要なのはその制作における視覚の在り方が、上から地面を俯瞰する航空写真と共通する点で、写真によって獲得された新しい視覚への瑛九の興味を明らかにしている。もう一つのフォ

ト・デッサンは、撮影されたガラス乾板に墨を塗布したり、尖った道具で引っ掻いたりした後プリントしたもので、いずれの作品も、瑛九が語る「20世紀的な機械の交錯の中に創られるメカニズムの絵画的表現」であった。後者に見られる暴力的イメージ、アンチ・ヒューマニズムの傾向は、その後1937年に発表された一連の《リアル》、人の顔の写真を各部に切り分けた後、改めてつなぎ合わせ、得体の知れない物体として提示したコラージュ作品にも共通する。1930年代には極めて異例なこれらの作品を通して瑛九は、既成概念を抜きにして現実に向き合わねば、真の「リアル」は把握できないと問題提起したのではないだろうか。

最後に筆者が「吉原治良の『物質』をめぐる思考」と題して発表し、吉原の語る「物質」の特質について検討した。1950年代前半には「物質」は、吉原に限らず当時の先進的な作家・批評家の間で重要な観点と見なされており、しかも花田に代表されるように、人間精神と物質とを対等と捉え、その対立的関係を止揚するという弁証法的な思考が唱えられていた。その花田の芸術観を形成する基盤の一つになったのが瀧口の『近代芸術』で、特に本書で瀧口が示したシュルレアリスム解釈が要となっている。吉原が1956年に発表した「具体美術宣言」もその流れに連なっているが、ただし吉原の「物質」観は、瀧口・花田の観点と完全には一致していない。その差異を解く鍵の一つが、瀧口・花田の重視したシュルレアリスムに対する吉原の志向である。近年の先行研究により吉原の1930年代後半は、抽象的作風のみならずそれ以前のシュルレアリスムの作風との関係を考慮すべきことが明らかになった。吉原の当時の作品には、彼が収集した同時代のヨーロッパの書籍を参照したと思われる事例が複数あり、特にジャン・アルプの作品との類縁性が強い。アルプへの関心は、当時吉原が親しく接していた長谷川三郎から学んだと思われるが、単なるアルプの引用に終始したわけではない。例えばデカルコマニー的なタッチを幾何学的構成の一部に組込んだ作品からは、シュルレア



リスムと抽象の双方を引き継ぐ新しいスタイルを模索したことが推測される。それと共に、カメラ等の光学機器を介して得られるイメージを採用した作品には、シュルレアリスムの本質的要素である、主観を相対化する客観主義が明確に読み取れる。これこそが吉原を「物質」へと向かわせ続け、具体を形成する核になったのではないか。

これらの発表の後、討議では最初に大谷氏が、吉原、瀧口、瑛九という三者の接点を考える上で、長谷川三郎の存在の重要性を指摘した。既成の公募団体展ではなく、仲間数名あるいは個人で銀座のギャラリーで作品を発表するという手法を、1930年代最初に実践したのは長谷川で、彼が1933年に個展を開いた銀座紀伊国屋ギャラリーは、まさに吉原と瑛九にとっても、それぞれが1934年、1936年に個展を開催した場であった。また、瀧口はそのようなギャラリーでの展覧会評を当時から積極的に手掛けたという点において、三者の構造的なつながりを見出すことが可能である。

続いて三者の表現論における接点について、まず瀧口が瑛九の作品をどのように評価したか検討した。瀧口は、瑛九のコラージュによる《リアル》について触れてはいるものの、名づけ得ない謎の物体に瑛九が込めた「現実」の捉え方については言及していない。大谷氏は、その点は残念だが、そもそも瑛九の想定した「現実」は、瀧口の



言う通常の意味での「現実」と同じでなく、おそらく瀧口が幾度も語った「物質」、すなわち主観では到達できないような外部としての「現実」をも含んだ用語ではないか、そう考えれば両者の志向は重なる部分もあると推察した。一方瑛九は、瀧口が積極的に試みたデカルコマニーに対して批判的に発言しており、主体を完全に放棄してオートマティスムに委ねるという姿勢には与しない点が改めて明らかになった。

筆者が発表で取り上げた吉原もデカルコマニーを複数の習作で試みているが、それはデカルコマニー本来の目的であったオートマティスムによる未知のイメージの発見を目指したのではなく、それを切り抜き、幾何学的形態の一部として貼り付けるなど、あくまでテクスチャーの工夫、造形的な実験として取り入れている点が特徴的で、1930年代後半の油彩画ではさらにそのデカルコマニー模様を絵筆で描いた箇所が見つけれられる。また、アルプ等のレリーフ作品の写真に写り込んでいる影を参照し、油彩画で陰影を施した箇所も複数あり、その試みを光田氏は「写真的視覚から来ている造形」と呼んだ。

そして瀧口の語る「物体」ないし「物質」について光田氏は、詩人として出発した頃は、精神に対するものとしてやや観念的な把握もあっただろうが、『近代芸術』刊行時には、風景や人ではなく「物」を凝視することで新しい視覚を得るという意識が明確になっており、それは主体が全く近づくことのできない絶対的客体とは言い切ることができず、主体と交錯する側面があるのではないかと解説した。大谷氏もその点に同意し、瀧口が1930年代初頭から、精神と物質、内部的な現実と外部的な現実をいかにつなげるかという問題意識を持っていたと推考した。

これに対し吉原の語る「物質」とは、吉原が「具体」の語義について「物質をもって示された精神」であると語った草稿で「素材」ではないとされたが、やはりそこで想定されているのは、石、鉄、絵の具など作品に使われる材料であり、一般的な物質全般ではない、あるいはシュルレアリスムのオブジェやアッサンブラージュといった「物体」とも異なる点が、討議の中で浮かび上がった。吉原は「具体美術宣言」で、主体的な精神に従属する物質という従来関係を否定し、精神と物質が対等であることを主張したが、実際の作品においてそれを具現したのは、吉原というよりも他の若いメンバーたちで、吉原自身は制作の過程で物質が生む偶然性をすべて受け入れたり、主体が思い描くイメージを完全に放棄したりすることはなかったことが、討議を通して確認できた。

次に、花田の主張した、内部の現実と外部の現実を止揚した新しいリアリズムを軸に、1950年代前半のいわゆるルポルタージュ絵画を手がけていた東京の作家たちと、具体の作家たちとの「現実」の捉え方およびその表現方法の相違に話題が及んだ。光田氏によれば、従来の写実的なリアリズムに則することはもはや、具体的に限らず東京の作家たちにとっても受入れられなかったが、戦争を経た苛烈な「現実」を直視せずには制作自体に取り組めないという彼らの切実感が、花田の言説に手がかりを見出すことにつながったという。それに対して具体の作家たちは、結成当初は異様で生々しいオブジェの作例があるものの、吉原の意向によって「現実」の不気味さを直接的に訴える方向性が淘汰された結果、社会的・政治的メッセージを捨象し、「物質」本来の特性を前面に打ち出した、別の意味での「現実」を提示することになったと考えられる。大谷氏の指摘のとおり、吉原、瀧口、瑛九が語る「物質」、「物体」、「現実」といった核となる言葉は、各人で想定していた概念が、重なりながらも異なっており、研究する立場の私たちは、各々の言葉が使われる文脈を考慮しながら、その同異点を見極めることが求められている。

このシンポジウムには定員60名のところ77名の来場者があり、昨年が続いて専門家のみならず一般の美術愛好家の間でも関心を集めたと考える。そして昨年と同様、『毎日新聞』にて「吉原治良、戦前の営為 『具体』再考 瀧口修造、瑛九と相互作用」と題して、実施風景入りのまとまった報告記事（12月28日）が掲載されたことも考え合わせると、このたびの継続的な企画に対しては、一定の反響が引き続きあったと言えよう。

発表・討議についてはすべて書き起こしを行い、2018年8月に弊館ホームページで公開した。それは、当日来場できなかった人や、今後継続して開かれるシンポジウム来場予定の人にも広く内容を周知すると共に、弊館の研究活動の一端を認識してもらおう一助になる。なお本企画は、平成28年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金 基盤研究（C） 課題番号16K02266「具体美術協会」再考-複合的視点から見直す戦後日本美術の一断面-）による研究成果の一部である。

## 5. サイエンスカフェ@待兼山 サイエンスカフェ@豊中市立中央公民館

期 間：サイエンスカフェ@待兼山

2018年1月20日（土）～ 2018年3月10日（土） カフェ No.142 ～ 147  
サイエンスカフェ@豊中市立中央公民館

2018年1月13日（土）～ 2018年3月17日（土） カフェ No.C-4 ～ C-6

主 催：大阪大学共創機構社会学共創本部／総合学術博物館

共 催：豊中市立中央公民館

協 力：大阪大学 21世紀懐徳堂

大阪大学で行われている最新の研究を広く人々に紹介するとともに、普段の中で接する機会が少ない専門家と一般の方々とのコミュニケーションの場となることを目指して「サイエンスカフェ@待兼山」「サイエンスカフェ@豊中市立中央公民館」を開催した。「サイエンスカフェ@待兼山」は2008年度から豊中市と連携して開催し、文系、理系を問わず様々な分野のテーマを扱ってきた。現在では総合学術博物館のイベントとして定着し、幅広い年代に参加していただいている。家族や友人と一緒に参加される方もおり、実施当日には会場が大いに盛り上がっている様も見られる。

サイエンスカフェの実施状況：

2008年度	前期	カフェ No. 1 ～ 13	実施13回
	後期	カフェ No. 14 ～ 27	実施14回
2009年度	前期	カフェ No. 28 ～ 37	実施10回
	後期	カフェ No. 38 ～ 46	実施 9回
2010年度	前期	カフェ No. 47 ～ 55	実施 9回
	後期	カフェ No. 56 ～ 65	実施10回
2011年度	前期	カフェ No. 66 ～ 80	実施15回
	後期	カフェ No. 81 ～ 88	実施 8回
2012年度	前期	カフェ No. 89 ～ 99	実施11回
	後期	カフェ No.100 ～ 107	実施 8回
2013年度	前期	カフェ No.108 ～ 112	実施 5回
	後期	カフェ No.113 ～ 116	実施 4回
2014年度	通年	カフェ No.117 ～ 126	実施10回
2015年度	通年	カフェ No.127 ～ 134	実施 8回
2016年度	通年	カフェ No.135 ～ 141	実施 7回
		カフェ No.C-1 ～ C-3	実施 3回
2017年度	通年	カフェ No.142 ～ 147	実施 6回
		カフェ No.C-4 ～ C-6	実施 3回

No.	実施日	タイトル	要 旨
		コーディネーター	
142	1/20 (土)	高温超伝導を探せ！ ～新物質発見の舞台裏～  田島 節子氏	超伝導とは、極低温で電気抵抗がゼロになる現象です。抵抗がゼロになれば大電流を流せますし、送電のときに電気が失われる無駄もなくなります。ところが問題は、マイナス 270 度もの低温にしなければいけないことでした。そこで、何とかもっと高い温度で超伝導になる物質はないかと、多くの研究者が新物質合成に挑戦してきました。ノーベル賞につながった大発見から、大学生の手による数々の小さな発見、さらには最近発見された室温超伝導まで、成功と失敗の悲喜こもごもの物語をお話いたします。
143	1/27 (土)	ハイブリッド民謡の世界: 戦前日本の民謡と現代の フォーク・メタル  齋藤 桂氏	戦前日本で流行した音楽ジャンルに「新民謡」というものがあります。民謡風の流行歌のことで《ちゃっきり節》(1927)等が有名です。これらの「新民謡」は、当時日本各地で作られて、いわゆる観光地等のご当地ソングとして人気を博しました。一方、「フォーク・メタル」と呼ばれる音楽が1990年代頃からヨーロッパを中心に登場します。これは、ヘヴィー・メタルに民謡を取り入れたジャンルで、今なお世界各地で人気のジャンルです。これら二つは時代も地域も、そして音楽の雰囲気も全く違いますが、民謡を取り入れた音楽ジャンルという点では共通です。そして、実はその取り入れ方も非常に似通っています。この講座では、これら二つのジャンルの紹介・分析を通して、そもそも民謡とは何かという疑問を共に考えたいと思います。
144	2/17 (土)	司法にたどり着けない 人々の救済—法テラスと 司法ソーシャルワーク  仁木 恒夫氏	社会にはたいへんな問題を抱えていても、自分から動けない人、動くことを思いつきもしない人がいる。そして、独居高齢者、三世代にわたって精神疾患を抱える家庭、DV被害者などは、法律上の問題だけでなく生活、医療、教育など様々な問題を同時に抱えていることがある。そうした人々を救済する弁護士活動が、国家制度として数年前から始まり、広がりをみせている。それはどのような活動なのかを紹介し、意見交換を行いたい。
145	2/24 (土)	生物の無機を化学する  船橋 靖博氏	金属は無機物で、生物と全然関係ないと思うかもしれませんがね。実際、皆さんの体のほとんどが水や有機物で構成されていて、体の中に金属があると実感している人は少ないと思います。でもミネラルといえば、ドラッグストアの水やサプリメントを連想するかもしれませんが。ナトリウムやカルシウムなどのアルカリ金属やアルカリ土類金属だけでなく、もっと微量でありながら生物に必要な不可欠な元素のなかには、鉄や銅などの遷移元素も含まれています。金属は太古の生命誕生のときに生物に取り込まれて進化を共にし、現在に至っているのです。その様な金属が体の中で担っている大切な役割についてお話ししましょう。
146	3/3 (土)	“電子の目”でみる 新しい世界  伊藤 謙 久保山 拓之氏	光学顕微鏡よりも小さいのが見える顕微鏡があることを知っていますか？電子の目で見る“電子顕微鏡”は、光の目で見る顕微鏡の1000倍以上も小さいものをみることができる顕微鏡です。日本においては、1940年(昭和15年)に菅田榮治(大阪大学)により、国産第一号の電子顕微鏡が開発されました。以来、電子顕微鏡の進歩は目覚ましく、事務机に置けるような小型の機器も開発され、博物館の資料研究でも活躍しています。研究における電子顕微鏡の使用例を紹介し、実際に電子顕微鏡を使う実習も行います。
147	3/10 (土)	子どもの事故は誰が防 ぐ？子ども、親、地域が すべきこと  岡 真裕美氏	悲しいことに、子どもの死因で「不慮の事故」は常に上位にあります。しかし、「不慮」とは「予想できないこと」。その事故は本当に「不慮」だったのでしょうか？子どもたちがどういった怪我で受診、救急搬送されているかを例に挙げ、事故発生のメカニズムや、事故防止について心理学の理論とともにお話いたします。また、府内の小学校で4年連続実施している安全教育の例から、子どもたちの安全意識が何歳頃から芽生え、大人のそれとどう違うのか、乳児、幼児、小学校低学年、高学年ごとにどういったサポートが効果的かについて検証します。子どもが暮らしやすい地域は大人も暮らしやすい地域です。安全について「我がこと」として一緒に考えてみませんか。

サイエンスカフェ@豊中市立中央公民館（2017年度：2018年1月13日～2018年3月17日 No.C-4～C-6）

No.	実施日	タイトル	要 旨
		コーディネーター	
C-4	1/13 (土)	自然界をめぐる 旅へのいざない —宇宙における時空間の 広がりをつながり—	光で138億年もかかる広がりを持つ宇宙から、銀河、太陽系、地球、生物、分子、原子、原子核、クオークまで、自然界は階層構造を持ち広がっています。しかし、その階層構造は単純なピラミッド型ではありません。各階層が互いに関連し、ギリシャ神話に出てくる自分のシッポを呑み込む「ウロボロスの蛇」のように、「輪」を形作っています。宇宙、銀河、星の世界を理解するためには、原子核や素粒子の世界の理解が、またその逆、どちらもが重要なのです。この空間の広がり、また時間の流れを考えながらこの宇宙に働く力、保存則などを概観しましょう。
		藤田 佳孝 氏	
C-5	2/10 (土)	西洋絵画の流れ ～フェルメールから 中村貞夫まで～	17世紀オランダの画家、ヨハネス・フェルメール（1632～75）の残存する作品は30数点と少なく、数店でも集められた展覧会は大きな話題となります。その作品を同時代の画家たちが描いた絵画と比較し、また19世紀後半のフランスにおける再評価についても言及することで、フェルメール芸術の独自性を探究します。一方、日本の20世紀前半期にはフランス美術が多く紹介されました。黒田清輝や藤島武二といったフランスに留学した画家たちの存在は洋画の発展に大きく貢献し、藤島に師事した小磯良平もまたフランスで学んでいます。この小磯に師事したのが大阪大学出身の画家、中村貞夫です。四大文明の大画面作品にいたる画風の変遷をたどり、独自の視点から絵画の流れを展開します。
		竹中 哲也 氏	
C-6	3/17 (土)	博物館資料を使った動物 化石の研究	化石が地層の中から発見されたあと、最初に行われるのが種類の決定です。これによって見つかった化石が、どんな生物なのかを明らかにして、その意義を議論します。多くの場合、化石は一部分しか見つからず、得られる情報が限られてしまいます。そのような時に役立つのが博物館に保管されている化石資料です。これまで見つかっている化石を改めて調査することで、新しい発見が生まれることがあります。今回はマチカネワニと同時代の哺乳類化石などの分類学を例に、そのような博物館の収蔵資料の調査を紹介します。
		半田 直人	

# Science Café at Machikaneyama

大阪大学総合学術博物館で、サイエンスカフェを楽しみませんか。コーヒーを片手にゆったりとした雰囲気、「科学する」とはどういうことか、研究者とともに考えていきます。それを通して、専門家と一般の方々の間のコミュニケーション不全を少しでも改善したいと思っています。お気軽にご参加ください。

No. 142 2018年1月20日(土)

高温超伝導を探せ！～新物質発見の舞台裏～  
田島 節子(理学研究科)  
時間:14:00～15:30  
対象:高校生以上

No. 145 2018年2月24日(土)

生物の無機を化学する  
船橋 靖博(理学研究科)  
時間:14:00～15:30  
対象:高校生以上

No. 143 2018年1月27日(土)

ハイブリッド民謡の世界：戦前日本の新民謡と現代のフォーク・メタル  
齋藤 桂(文学研究科)  
時間:14:00～15:30  
対象:中学生以上

No. 146 2018年3月3日(土)

“電子の目”でみる新しい世界  
伊藤 謙(総合学術博物館)  
久保山 拓之(株式会社日立ハイテクノロジーズ)  
時間:14:00～15:30  
対象:高校生以上

No. 144 2018年2月17日(土)

司法にたどり着けない人々の救済—法テラスと司法ソーシャルワーク  
仁木 恒夫(法学研究科)  
時間:14:00～15:30  
対象:高校生以上

No. 147 2018年3月10日(土)

子どもの事故は誰が防ぐ？ 子ども、親、地域がすべきこと  
岡 真裕美(人間科学研究科)  
時間:14:00～15:30  
対象:高校生以上

## サイエンスカフェ@待兼山

開催場所： 大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館3階セミナー室  
定 員： 各回とも30名  
参加費用： 無料  
主 催： 大阪大学社会学共創本部/総合学術博物館  
共 催： 豊中市立中央公民館  
協 力： 大阪大学21世紀懐徳堂

### 申込方法

Webフォームあるいは往復ハガキにてお申し込みください。

#### Webフォーム

申込受付期間確認ページ内のリンクをクリックしてください。  
<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/event/>

#### 往復ハガキ

カフェ1タイトル、住所、氏名、電話番号、年齢を明記してください。  
ご家族でお申込の場合、同伴者のお名前、年齢をご記入の上、下記宛にご送付ください。  
〒560-0043 豊中市待兼山町1-13 大阪大学総合学術博物館

#### 申込期間

各カフェ開催日の2ヶ月前から1ヶ月前までです。各カフェのタイトルごとに確認をお願いします。締め切り日必着をお願いします。

※応募多数の場合、原則として抽選で決定します。抽選結果はメール、もしくはハガキでお知らせします。

大阪大学総合学術博物館

〒560-0043 豊中市待兼山町1-13 URL: <http://www.museum.osaka-u.ac.jp>



# Science Café at Chuo Kominkan

コーヒーやドリンクを片手に、ゆったりとした雰囲気です「科学する」とはどういうものか、研究者とともに考える「サイエンスカフェ」を楽しみませんか。この機会を大阪大学の研究者と市民の皆様とのコミュニケーションの場にしたいと思っています。ぜひ一度ご参加ください。

No. C-4

2018年1月13日(土)

自然界をめぐる旅へのいざない ー宇宙における時空間の広がりをつながりー

藤田 佳孝(大阪大学核物理研究センター)

対象: 高校生以上

受付開始: 2017年12月22日(金)14:00より

No. C-5

2018年2月10日(土)

西洋絵画の流れ～フェルメールから中村貞夫まで～

竹中 哲也(大阪大学総合学術博物館)

対象: 高校生以上

受付開始: 2018年1月26日(金)14:00より

No. C-6

2018年3月17日(土)

博物館資料を使った動物化石の研究

半田 直人(大阪大学総合学術博物館)

対象: 高校生以上

受付開始: 2018年3月2日(金)14:00より

## サイエンスカフェ@豊中市立中央公民館

開催場所: 豊中市立中央公民館  
時 間: 各回14:00～15:30  
定 員: 各回30名  
参加費用: 無料  
主 催: 大阪大学社会学共創本部/総合学術博物館  
共 催: 豊中市立中央公民館  
協 力: 大阪大学21世紀懐徳堂

### 申込方法

電話による事前申込の受付をいたします。

**06-6866-0555**

(豊中市立中央公民館)

※各カフェの受付開始日をご確認の上お申し込みください。

※定員に達し次第受付を終了させていただきます。

No. C-4

2018年1月13日(土)

## 自然界をめぐる旅へのいざないー宇宙における時空間の広がりをつながりー

藤田 佳孝(大阪大学核物理研究センター)

光で138億年もかかる広がりを持つ宇宙から、銀河、太陽系、地球、生物、分子、原子、原子核、クオークまで、自然界は階層構造を持ち広がっています。しかしその階層構造は、単純なピラミッド型ではありません。各階層が互いに関連し、ギリシャ神話に出てくる自分のシッポを呑み込む「ウロボロスの蛇」のように、「輪」を形作っています。宇宙、銀河、星の世界を理解するためには、原子核や素粒子の世界の理解が、またその逆、どちらもが重要なのです。この空間の広がり、また時間の流れを考えながらこの宇宙に働く力、保存則などを概観しましょう。

No. C-5

2018年2月10日(土)

## 西洋絵画の流れ～フェルメールから中村貞夫まで～

竹中 哲也(大阪大学総合学術博物館)

17世紀オランダの画家、ヨハネス・フェルメール(1632-75)の残存する作品は30数点と少なく、数点でも集められた展覧会は大きな話題となります。その作品を同時代の画家たちが描いた絵画と比較し、また19世紀後半のフランスにおける再評価についても言及することで、フェルメール芸術の独自性を探究します。一方、日本の20世紀前半期にはフランス美術が多く紹介されました。黒田清輝や藤島武二といったフランスに留学した画家たちの存在は洋画の発展に大きく貢献し、藤島に師事した小磯良平もまたフランスで学んでいます。この小磯に師事したのが大阪大学出身の画家、中村貞夫です。四大文明の大画面作品にいたる画風の変遷をたどり、独自の視点から絵画の流れを展開します。

No. C-6

2018年3月17日(土)

## 博物館資料を使った動物化石の研究

半田 直人(大阪大学総合学術博物館)

化石が地層の中から発見されたあと、最初に行われるのが種類の決定です。これによって見つかった化石がどんな生物なのかを明らかにして、その意義を議論します。多くの場合、化石は一部分しか見つからず、得られる情報が限られてしまいます。そのような時に役立つのが博物館に保管されている化石資料です。これまで見つかっている化石を改めて調査することで、新しい発見が生まれることがあります。今回はマチカネワニと同時代の哺乳類化石などの分類学を例に、そのような博物館の収蔵資料の調査を紹介します。

---

# サイエンスカフェ@豊中市立中央公民館

---

豊中市立中央公民館 〒561-0802 豊中市曽根東町3-7-3 TEL: 06-6866-0555

大阪大学総合学術博物館 〒560-0043 豊中市待兼山町1-13 URL: <http://www.museum.osaka-u.ac.jp>

## 6. 体験！こどもミュージアム@大阪大学

期 間：2017年8月21日（月）～25日（金）

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階セミナー室

全学教育推進機構実験棟 2F 生物学実験室

主 催：大阪大学総合学術博物館

後 援：豊中市教育委員会、池田市教育委員会、箕面市教育委員会、大阪市教育委員会

協 力：大阪大学 21世紀懐徳堂

文系、理系を問わず様々な分野に対する興味や関心を、子どもたちに持ってもらうことを目指して「体験！こどもミュージアム@大阪大学」を開催した。自由応募制（小学校4・5・6年生対象）という形をとり、豊中市教育委員会、池田市教育委員会、箕面市教育委員会、大阪市教育委員会からの後援と大阪大学 21世紀懐徳堂の協力を得て開催した。いずれも実験・実演を交えた体験型授業を行い、参加した子どもたちからも好評であった。（当日の参加者数は延べ57名、保護者含まず）



「キラキラカラフル装飾料紙の世界」



「見えないものを見る～顕微鏡の世界」



「タコを解剖してみよう  
～動物の解剖から多様性と共通性を見る～

## 授業内容

### 8月21日(月)

タイトル：「キラキラカラフル 装飾料紙の世界」

講師：波瀬山 祥子 氏（文学研究科 日本東洋美術史研究室博士後期課程2年）

参加人数：20人

概要：料紙とは書き物をするための紙のことです。  
奈良・平安時代には、詩歌を書くために豪華で美しく飾り立てられた料紙が用いられました。そのような紙を「装飾料紙」と呼んでいます。それらの紙にはどんな技法が使われているのか？  
装飾料紙づくりにチャレンジしながら、その美しい世界を体験しよう！

### 8月22日(火)

タイトル：「見えないものを見る～顕微鏡の世界～」

講師：戸所 泰人 氏（理学研究科 技術部分析測定室技術職員）

参加人数：18人

概要：「百聞は一見にしかず」という言葉を知っていますか？世の中には見るだけで分かってしまうことはたくさんあります。  
人は顕微鏡を作って、目では見えない小さなものを見えるようにしました。今回は紙とビーズで顕微鏡を作って、身近なものを観察してみましょう。  
そして、本物の電子顕微鏡を使ってみましょう。

### 8月25日(金)

タイトル：「タコを解剖してみよう～動物の解剖から多様性と共通性を見る～」

講師：古屋 秀隆 氏（理学研究科 生物科学専攻准教授）

参加人数：19人

概要：現在、地球上には様々な生物が生活していますが、海で生活する無脊椎動物の中で、タコは進化の最高峰に立つ生物です。このタコの体を観察し、陸上で生活するヒトとの共通点や違いを見つけ出し、その理由を考えてもらいます。

2017  
体験!

こども

参加者  
募集!



大阪大学  
公式マスコットキャラクター  
「ワニ博士」

ミュージアム

@大阪大学

対象者：小学4～6年生  
定員：各コースとも20名

参加費  
無料

コース①

キラキラ  
カラフル

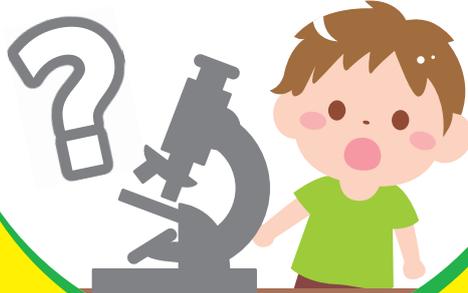
装飾料紙  
(そうしよくりょうし)  
の世界



コース②

見えないものを見る

～顕微鏡(けんびきょう)の世界～



コース③

タコを解剖  
してみよう

～動物の解剖(かいぼう)から  
多様性(たようせい)と共通性を見る～



コース

①

8/21月

14:00～15:30

コース

②

8/22火

14:00～15:30

コース

③

8/25金

14:00～16:00

ところ：大阪大学総合学術博物館待兼山修学館 3階セミナー室

豊中市待兼山町 1-20 (大阪大学豊中キャンパス内) (阪急宝塚線・石橋駅より徒歩約 10 分)

※コース③では、待兼山修学館 3階セミナー室に集合後、別棟に移動します (移動時間 10分程度)。

申込メ  
切  
7/24月  
必着

主催：大阪大学総合学術博物館 / 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂

後援：豊中市教育委員会、池田市教育委員会、箕面市教育委員会、大阪市教育委員会



大阪大学総合学術博物館

<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

2017  
体験!

# こどもミュージアム @大阪大学

コース①

8/21月

14:00 ~ 15:30



## キラキラ カラフル 装飾料紙 (そうしょくりょうし) の世界

料紙 (りょうし) とは、書きものをするための紙のことです。

奈良・平安時代には、詩歌 (しうか) を書くために、ごうかで美しく飾り立てられた料紙が用いられました。そのような紙を「装飾料紙 (そうしょくりょうし)」とよんでいます。それらの紙にはどんな技法が使われているのかな?

みんなで装飾料紙づくりにチャレンジしながら、その美しい世界を体験しよう!



伊勢集新簡 (東京国立博物館 デジタルコンテンツより転載)

講師: 文学研究科 日本東洋美術史研究室博士後期課程 2年 波瀬山 祥子

コース②

8/22火

14:00 ~ 15:30



## 見えないものを見る ~顕微鏡(けんびきょう)の世界~

「百聞 (ひやくぶん) は一見 (いつけん) にしかず」という言葉を知っていますか?

世の中には見るだけで分かってしまうことはたくさんあります。

人は顕微鏡を作って、目では見えない小さなものを見えるようにしました。

今回は紙とビーズで顕微鏡を作って、身近なものを観察してみましよう。

そして、本物の電子顕微鏡を使ってみましょう。



講師: 理学研究科 技術部分析測定室技術職員 戸所 泰人

コース③

8/25金

14:00 ~ 16:00



## タコを解剖してみよう

~動物の解剖(かいぼう)から多様性(たようせい)と共通性を見る~

現在、地球上にはさまざまな生物が生活していますが、海で生活する無脊椎(むせきつい)

動物のなかで、タコは進化の最高峰(さいこうほう)にたつ生物です。このタコの体を観察し、

陸上で生活するヒトとの共通点や違いを見つけ出し、その理由を考えてもらいます。

※たこアレルギー (たこアトピー) をお持ちの方は参加をご遠慮ください。

講師: 理学研究科 生物科学専攻准教授 古屋 秀隆

### ■ 申込方法

- ※往復はがきに、ご希望のコース番号 (はがき1通につき1コース)、参加者の住所、氏名、学校名、学年、保護者の氏名、電話番号を明記のうえ、下記の申込先までお送りください。(お預かりした個人情報は適切に管理し、本事業以外には使用いたしません。)
- ※返信用はがきの宛名も必ず明記してください。
- ※応募多数の場合は抽選を行います。ご希望に添えない場合もございますので、ご了承ください。
- ※必ず保護者の方同伴で参加をお願いします。
- 保護者の方へ ※ご来館の際には公共交通機関をご利用ください。  
※保護者の方は見学のみでお願いします。

<申込先・問合せ先>

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-13 大阪大学総合学術博物館  
Tel. 06-6850-6714

申込締切日: 2017年7月24日(月) 必着

### 交通のご案内



阪急宝塚線「石橋駅」下車 徒歩10分  
※公共交通機関をご利用ください。



大阪大学総合学術博物館

## 7. 大阪大学美術部 夏部展 2017 空想世界地図

期 間：2017年9月2日（土）～2017年9月11日（土）

※9月3日、10日（日）は閉館

会 場：大阪大学総合学術博物館

待兼山修学館 3階多目的ルーム



### 【概要】

世界地図を広げてみると、たくさんの国名、都市名、山河の名前があります。われわれが住む日本、大阪もその中に位置を占めています。われわれはそこで通りを歩き、寝床で眠り、呼吸します。世界を知るとはこうした生活を知ることであり、世界を知る楽しさもそこにある、と考えます。本展覧会では、美術部員が4つのグループに分かれ、各々が創造した空想世界、4つの「国」を作品で表現しています。テーマは「空想世界地図」。現実の世界地図には載っていない、「空想の世界」を覗いてみませんか。

### 【企画】

● 「空想世界地図」の中の4カ国

● アークラ諸島及び特別認定海底プラント連合：

アークラ諸島及び特別認定海底プラント連合は、上流階級中心の海上都市と、プロレタリアート中心の海底都市の二つの領域から成る海洋国家です。かつて1つの島で暮らしていた人々は感染症の拡大により居住地を分断し、現在では全く異なる生活を送っています。現実世界を投影するようなこの国の複雑な世界を、絵画や立体作品によって具現化させます。

● アキツクニ：

アキツクニは古来呪術が発達しており、現実の国を連想させるような民俗が形成されています。アキツクニの中心部では信仰が形となり、また、科学を象徴する近代的な建造物が混在しており、人気のない地方部では手つかずの自然が残されています。メンバーの作品が民俗学などをふまえ、「アキツクニ」の世界を提示します。

● キターシャ：

厳しい寒さの中、魔法を駆使し、自然と共生する国キターシャ。現地の言葉ではミーアとも呼ばれ、森林や平野に人々が暮らし、独自の文化を作り上げています。森林地域にある壁画や神話、魔法の使い手であるキターシャの魔術師達は、この国独自の存在として文化を形成しています。自然と人間、魔法と宗教、このような様々な要素が融合し生まれた独特の世界を水彩や油彩、立体作品で表現します。

●スタベリア：

スタベリアは過剰な魔法使用により全体が闇に覆われてしまった中で、樹木が生み出す「実」によって所々光が灯っている国です。この地に暮らす人々はこの「実」を星と呼び、主に魔法の触媒や食物として利用することで生活しています。

「闇」や光といった、伝統的に追求されてきた芸術のテーマを、「スタベリア」という幻想的、空想的な世界の中で私たちが作人を造り出します。

闇と光の中に生きるスタベリアの国民の生活を覗いてみませんか。

● 特別展示

●世界文化の塔：

「世界文化の塔」です！世界文化の塔は、本展のテーマ『空想世界』に存在する様々な文化をもった4つの国の人々が、共同で「塔」を制作したらどのようになるだろうか、というコンセプトで製作しました。

この立体作品を見た方の中には、かの有名な『バベルの塔』を思い浮かべる方もいらっしゃるでしょう。しかし後の文化断裂を示唆する『バベルの塔』とは異なり、この作品は、「共生」という新たな可能性を提示する、本展を象徴するものとして制作されています。様々な文化が交錯する混沌の中に、ぜひ思いを馳せて下さい。

## 8. 大阪大学総合学術博物館・豊中市教育センター コラボレーション企画 豊中市立小中学生 理科展 サテライト展示

展示期間：2017年12月2日（土）～2017年12月9日（土）

会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階セミナー室

主催：大阪大学総合学術博物館、豊中市教育センター

共催：豊中市教育委員会

協力：大阪大学 21世紀懐徳堂、第12回女子中高生のための関西科学塾

後援：豊中市

展示概要：

大阪大学総合学術博物館では毎年、豊中市立小中学生理科展に出品された作品の中で、特に優秀な作品を選び、表彰しています。今年の豊中市立小中学生理科展に出品された児童・生徒の自由研究作品約550点から各賞を受賞した優秀作品12点を大阪大学総合学術博物館で展示します。子供たちの努力の結晶をどうぞご覧ください。

展示作品一覧：

- ・冬虫夏草について～冬虫夏草って何？探そう・採集しよう～  
(南部洋一郎賞・大阪府学生科学賞受賞)
- ・カブトムシ大研究 (大阪大学総合学術博物館長賞・大阪府学生科学賞受賞)
- ・10m以上の高木の吸水 (大阪大学総合学術博物館長賞・大阪府学生科学賞受賞)
- ・虹の Arch を Search する～私の周りは虹だらけ？～  
(大阪大学総合学術博物館待兼山賞・大阪府学生科学賞受賞)
- ・セミの羽化と抜け殻の観察  
(大阪大学総合学術博物館待兼山賞・大阪府学生科学賞受賞)
- ・たわまない橋を作るには (豊中市教育センターあすなろ賞・大阪府学生科学賞受賞)
- ・生ごみをリサイクルして たい肥をつくる  
(豊中市教育センターあすなろ賞・大阪府学生科学賞受賞)
- ・脈拍の変化の研究 (大阪府学生科学賞受賞)
- ・ありの巣の研究 (大阪府学生科学賞受賞)
- ・ガムの不思議！？ (大阪府学生科学賞受賞)
- ・ボトルの水が出る時間 (大阪府学生科学賞受賞)
- ・最近人気上昇中!! 多肉植物の謎 (大阪府学生科学賞受賞)

イベント：

受賞者による発表会

日時：2017年12月9日（土）13:00～14:30

会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階 セミナー室

定員：30名（当日先着順・予約不要）

参加費：無料

大阪大学総合学術博物館・豊中市教育センター  
コラボレーション企画

豊中市立小中学生 理科展

サテライト  
展示

今年の豊中市立小中学生理科展に出品された児童・生徒の  
自由研究作品約550点から選ばれた優秀作品12点を  
大阪大学総合学術博物館で展示します！  
最終日には作者による発表もあるよ!!

会場

大阪大学総合学術博物館  
待兼山修学館 3階セミナー室  
★入場無料

作品展示

2017 12/2<sup>±</sup>~9<sup>±</sup>  
開館時間 10:30 ~ 17:00  
(入館は16:30まで)

発表会

2017 12/9<sup>±</sup>  
定員 30名  
当日先着順  
13:00~14:30 予約不要



▲会場アクセス MAP

※ご来館の際には公共交通機関をご利用ください。

問合せ先 〒 560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-13  
大阪大学総合学術博物館

Tel. 06-6850-6714

アクセス 阪急電鉄 宝塚線 石橋駅 (徒歩10分)

主催：大阪大学総合学術博物館・豊中市教育センター  
共催：豊中市教育委員会  
協力：大阪大学 21世紀懐徳堂・第12回女子中高生のための関西科学塾  
後援：豊中市



大阪大学総合学術博物館

<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>



大阪大学 公式マスコットキャラクター  
「ワニ博士」

# 豊中市立小中学生理科展 サテライト展示

大阪大学総合学術博物館では、豊中市立小中学生理科展に出品された作品の中で特に優秀な作品を選び、表彰をしています。今回、展示されている作品は以下の各賞を受賞された作品です。子供たちの努力の結晶をどうぞご覧ください。

## 南部陽一郎賞

冬虫夏草について



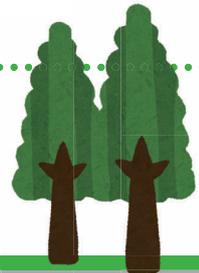
～冬虫夏草って何?  
探そう・採集しよう～

## 大阪大学総合学術博物館長賞

カブトムシ大研究



10m以上の  
高木の吸水



## 大阪大学総合学術博物館待兼山賞

虹のArchをSearchする  
～私の周りは虹だらけ!?!?～



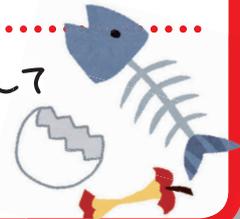
セミの羽化と  
抜け殻の観察

## 豊中市教育センターあすなろ賞

たわまない橋を  
作るには



生ごみをリサイクルして  
たい肥をつくる



## 大阪府学生科学賞 作品名

- ★脈拍の変化の研究
- ★虹のArchをSearchする～私の周りは虹だらけ!?!?～
- ★カブトムシ大研究
- ★ありの巣の研究
- ★ガムの不思議!?
- ★たわまない橋を作るには

- ★冬虫夏草について～冬虫夏草って何?探そう・採集しよう～
- ★ボトルの水が出る時間
- ★セミの羽化と抜け殻の観察
- ★最近人気上昇中!! 多肉植物の謎
- ★10m以上の高木の吸水
- ★生ごみをリサイクルしてたい肥をつくる



豊中市 マチカネくん

## 9. 阪大生がつくった展覧会 2017 ベスト

期 間：2017年10月13日（金）～2017年11月10日（金）〔A日程〕

2017年11月24日（月）～2017年12月22日（金）〔B日程〕

会 場：大阪大学会館3F 歴史展示室

概 要：

2010年度より開講している博物館学実習では、受講生がA・B各日程4班ずつに分かれて模擬展示を企画・実施しています。2013年度末よりその一端を大阪大学総合学術博物館のホームページに掲載していますが、2014年度から、優秀な展示を歴史展示室にて一般に公開することにしました。2017年度は、教員・受講生による投票の結果、女性水墨画家・松本奉山作品を扱ったA-2班、および浮世絵版画『浪花百景』を扱ったB-3班が最優秀賞に選出されました。

展示概要：

### 〔A日程〕HOUZAN in New York

女性水墨画家・松本奉山（1925-2010）はアメリカやヨーロッパをめぐり、西欧の風景を水墨画の画題としていました。奉山はそのなかで国籍などにとらわれない普遍的な美しさを追求しました。この経験を通して、17歳の頃から続けていたものの好きになれずにいた水墨画に誇りを持つようになります。

本展覧会では、大阪大学総合学術博物館に寄贈された、奉山の作品の中から、ニューヨークを舞台にした作品をご覧ください。奉山は、アメリカにわたった1963年7月に「自分が本当の絵描きとして生まれ変わった」という言葉をのこしています。建物や街並み、人、季節、これらに着目して奉山の描くニューヨークの世界を紐解いていきましょう。

展示構成：

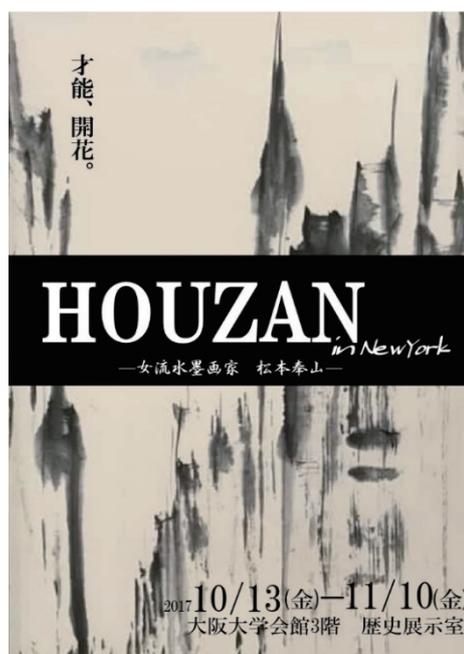
第1章 Buildings in New York

第2章 People in New York

第3章 Seasons in New York

主な展示品：

- 松本奉山《Buildings in New York》（実物）
- 松本奉山《People in New York》（実物）
- 松本奉山《in New York》（実物）



## 【展示概要】

〔B 日程〕浪花百景 ～風景としての人 風景の中の人～

江戸中期以降、日本各地の名所の由来を解説し、情景を描いた「名所図絵」が出版され、人気を博しました。その影響を受けて、浮世絵でも風景版画の組物（同じ表題のもと複数枚の版画で一組となるもの）が盛んになり、江戸の名所を描いた歌川広重「名所江戸百景」が大ヒットします。大坂でも流行にあわせて、歌川派の一珠斎国員（くにかず、生没年不詳）、一養斎芳瀧（よしたき、1841～1899）、南酔亭芳雪（よしゆき、1835～1879）の合作で「浪花百景」が制作され、北浜の板元・石川屋和助から刊行されました。

百枚揃いである「浪花百景」には、風光明媚な名所としての景観だけではなく、日々の労働にいそしんだり、行楽や買い物を楽しむ人々の姿が多く見うけられます。このことは描かれた景観のなか、その場にいる人々も「浪花百景」を構成する大切な要素となっていることを示します。画中に描かれた人々に注目することで、全百図の“風景”に織り込まれた物語が浮かび上がってくるはずです。

本展覧会では大坂の三人の浮世絵師が競作した「浪花百景」を通し、幕末の大坂風景に描きとめられた人間の姿に焦点を当てます。“風景”として切り取られた当時の暮らしを探ることで、画面から醸し出される人と人とが織りなす物語に思いを馳せます。



## 【展示構成】

第1章 錦絵を彩る人々の暮らし

第2章 人と人との物語

## 【主な展示品】

- 一珠斎国員《大江ばしより鍋しま風景》（実物）
- 南酔亭芳雪《木津川口千本松》（実物）
- 一養斎芳瀧《天下茶屋ぜさい》（複製）

## 10. 総合学術博物館支援スタッフ (ミュージアム・アシスタント)

大阪大学総合学術博物館では、教育的視点および総合学術博物館活性化のため、本学学生を博物館事業の業務に従事させることにより、社会との接点を実践的に学ぶ機会等を提供し、当該学生のコミュニケーション能力向上の一助にすること、経済的な援助を行うことにより当該学生の学生生活を支援させることを目的として、総合学術博物館支援スタッフ（ミュージアム・アシスタント）を2017年7月から雇用しています。

総合学術博物館支援スタッフ（ミュージアム・アシスタント）は具体的には、常設展の解説（ミュージアムトーク）や、総合学術博物館主催イベントの準備対応など、総合学術博物館に関する業務を担当しています。

2017年度ミュージアム・アシスタントの活動実績（活動月・日・人数）

活 動 月	活 動 日 (人 数)
2017年7月	8日(3名)、11日(1名)、15日(3名)、19日(2名)
8月	5日(4名)、21日(4名)、22日(4名)、25日(3名)
9月	9日(2名)、16日(2名)、30日(2名)
10月	7日(1名)、14日(2名)、21日(2名)、28日(1名)
11月	3日(1名)、4日(1名)、5日(2名)、11日(1名)、18日(2名)、25日(1名)
12月	なし
2018年1月	20日(1名)、27日(2名)
2月	3日(2名)、10日(1名)、17日(2名)、24日(1名)
3月	3日(1名)、10日(2名)、17日(1名)、24日(2名)

活動の様子（常設展の解説）





## 11. 教員活動報告

# 2017 年度 教員実績表

(2017 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日)

総合学術博物館 館長 永田 靖

研究・教育部	資料基礎研究系	
	・准教授	高橋 京子
	・特任助教(常勤)	高浦佳代子
	資料先端研究系	
	・教授	上田 貴洋
	・准教授	豊田 二郎
	・准教授	宮久保圭祐
	資料情報研究系	
	・教授	橋爪 節也
	・助教	横田 洋
資料部	・特任講師(常勤)	伊藤 謙

## 【教育活動】

## 担当授業

学期・学部・学年	科目名
秋～冬学期・共通教育科目[全学部・全学年]	演劇学入門
春～夏学期・文学部	演劇学講義
秋～冬学期・文学部	演劇学講義
春～夏学期・文学部	演劇学演習
秋～冬学期・文学部	演劇学演習
春～夏学期・文学部	演劇学演習
春～夏学期・文学部	演劇学演習
秋～冬学期・文学部	演劇学演習
春～夏学期・文学研究科修士課程	芸術環境論講義
春～夏学期・文学研究科修士課程	芸術環境論講義
通年・文学研究科修士課程	アート・プロデュース論演習
通年・文学研究科修士課程	修士論文作成演習
春～夏学期・文学研究科博士前期課程	演劇学講義
秋～冬学期・文学研究科博士前期課程	演劇学講義
春～夏学期・文学研究科博士前期課程	演劇学演習
秋～冬学期・文学研究科博士前期課程	演劇学演習
秋～冬学期・文学研究科博士前期課程	演劇学演習
通年・文学研究科博士前期課程	芸術計画論演習
通年・文学研究科博士前期課程	修士論文作成演習
春～夏学期・文学研究科博士後期課程	演劇学特殊講義
秋～冬学期・文学研究科博士後期課程	演劇学特殊講義
春～夏学期・文学研究科博士後期課程	演劇学特殊演習
秋～冬学期・文学研究科博士後期課程	演劇学特殊演習
通年・文学研究科博士後期課程	演劇学博士論文作成演習

## 学生指導

学生数（留学生含む）	留学生数	共同・分担した指導教官人数
31名	6名	1名（18名の学部生のみ共同にて指導）

学位論文審査等（修士論文・卒業論文省略）

学位申請者および論文名	主査・副査の別
山本 耕平 戦後音楽教育における「情操」概念の機能	副査
関スラ 1930年代日本映画における近代女性像研究 - 映画スタイル分析を中心に	副査

【研究活動】

執筆活動（論文、総説、評論、辞典項目、各種記事など）

タイトル等	掲載誌他	報道年月
演劇は教養になるか	『演劇学論集』	2017年6月 pp. 21-30
『歌舞伎と革命ロシア』	編著、森話社	2017年 pp. 1-387
「「アジア」の近代劇化：森本薫『大川仇討』（1941）について」	『Arts and Media』Vol. 7, 大阪大学 文学研究科アート・メディア論コース	2017年7月 pp. 300-304

研究（学会）発表など

タイトル	場所	年月日	備考
“Traditional Asian Performing Bodies in a Post-Globalized Era,”	Chair and Moderator, IFTR Manila Conference, ‘Bodies in/and Asian Theatre’, Asian Center, University of the Philippines, Diliman,	2018年2月21日、 2018年	シンポジウム
Bodies in/and Asian Theatre	Opening Program and Keynote, IFTR Manila Conference, ‘Bodies in/and Asian Theatre’, Asian Center, University of the Philippines, Diliman,	2018年2月21日、 2018年	ATWG Convener’s Address
記憶の上演-博物館資料を活用する演劇上演の考え方と実践	近現代演劇研究会 10月12月合同例会、大阪大学	2017年12月24日	研究発表
戦後の関西「新劇」を考える	関西学院大学博物館/大阪大学総合学術博物館連携公開シンポジウム	2017年12月2日	企画、司会
How to be an Asian in Asia	Korea China Japan Cultural Olympics, Arts Forum, Korea National University of Arts,	2017年11月10日	招待講演
演技論から見る身体	日本演劇学会研究集会、愛媛大学	2017年11月4日	会長挨拶

タイトル	場所	年月日	備考
Trans-Geographical Trials of the Jokyo Gekijo Theatre Company: on <i>The Bengal Tiger</i>	<i>Unstable Geographies, Multiple Theatricalities</i> , IFTR Sao Paulo Conference, Sao Paulo University, Brasil	2017年7月14日	研究発表
地域劇場の未来-大学と地域との繋がりのために	大阪大学 21世紀懐徳堂シンポジウム、大阪大学中之島センター	2017年4月19日	企画、司会

#### 【学会等企画運営】

学会名	開催地	役割	期間
IFTR Manila Conference, 'Bodies in/and Asian Theatre',	Asian Center, University of the Philippines, Diliman,	Co-organizer	2018年2月21日～ 2月23日
<i>Unstable Geographies, Multiple Theatricalities</i> , IFTR Asian Theatre Working Group Sao Paulo Meeting,	Sao Paulo University, Brasil	Convener	2017年7月11日～ 7月14日
The 5 <sup>th</sup> International Asian Theatre Studies Conference: Asian Theatricality and Identity	Korean National University of Arts, Seoul	Co-Organizer	2017年11月24日～ 11月25日

#### 【共同研究および外部資金獲得状況】

科学研究費補助金およびその他の外部資金

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期間	継続/新規
科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（B）	永田靖	2017年4月～ 2018年3月	継続

#### 【社会貢献、管理運営等】

委員会あるいはWG名	就任年月	退任年月	継続/新規
日本演劇学会会長	2013年6月		継続
International Federation for Theatre Research Asian Theatre Working Group Convener	2009年6月		継続
総長参与	2015年8月	2018年3月	継続
21世紀懐徳堂学主	2015年8月		継続
総合学術博物館長	2015年8月		継続
適塾記念センター長	2015年8月	2017年8月	継続
兵庫県立尼崎青少年創造劇場企画委員	2013年4月		継続
吹田市文化振興事業団理事	2014年4月		継続

委員会あるいはWG名	就任年月	退任年月	継続/新規
社学共創本部長	2017年8月		新規
豊中市立文化芸術審議会委員	2015年6月		継続

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
春～夏学期・薬学部・4回生	漢方薬学（分担）
薬学部・薬学科（6年制）・3回生	長期課題研究
薬学部・薬学科（6年制）・5回生	長期課題研究
薬学部・薬科学科（4年制）・4回生	卒業研究
春～夏学期 薬学研究科	伝統医薬解析学特別講義
通年 薬学研究科（修士課程）	創成薬学ゼミナール1
通年 薬学研究科（博士課程）	医療薬学ゼミナール3
通年 薬学研究科（博士課程）	特別演習
共通教育基礎セミナー	博物館体験コース（分担）

学生指導

学生数（留学生含む）	留学生数	共同・分担した指導教官人数
6名	0名	0名

学外での教育活動（集中講義等）

授業科目名	機関名	期間
専門科目 生活と福祉 漢方今昔物語：生薬国産化	放送大学 大阪学習センター	2017年11月11日～12日

【研究活動】

学術論文

論文名	著者名	雑誌	号・巻・頁	発行年月
Taxonomic examination of longgu (FOSSILIA OSSIS MASTODI, dragon bone) and a related crude drug, longchi (DENS DRACONIS, dragon tooth), from Japanese and Chinese crude drug markets	Kazuki Oguri, Yuichiro Nishioka, Yoshitsugu Kobayashi, Kyoko Takahashi	Journal of Natural Medicines	71:463-471	2017年
Role for Taurine in Development of Oxidative Metabolism After Birth.	Kayoko Shimada-Takaura, Kyoko Takahashi, Takashi Ito, Stephen W. Schaffer	Advances in Experimental Medicine and Biology	975:1047-1057	2017年

論文名	著者名	雑誌	号・巻・頁	発行年月
Quality Characterization of Japanese Medicinal Paeoniae Radix by Metallomic Analysis.	Kayoko Shimada-Takaura, Yuto Nakamura, Masaya Kawase, Katsuko Komatsu, Kyoko Takahashi	Chemical & Pharmaceutical Bulletin	66:353-357	2018年

#### 著書

著書名	著者名	出版社	頁数	発行年月
第7回宇陀文化財講座 宇陀の考古と寺社・仏教彫刻(1) 地域文化力と薬草栽培の叢智：森野旧薬園から発信する生薬国産化	高橋京子	奈良県立橿原考古学研究所・室生理蔵文化財整理収蔵センター	pp13-22	2017年

#### 学術講演会など

講演タイトル	場所	年月日	備考
地域文化力と6次産業の融合：商品開発のツボ	春日野リガーレ(奈良)	2017年4月25日	奈良県漢方のメッカ推進協議会
地域文化力と薬草栽培の叢智：森野旧薬園をめぐる	富山県薬用植物指導センター(富山)	2017年5月28日	
漢方のあゆみ～Part3 漢方復権のシナリオ	名古屋国際会議場	2017年6月9日	第68回日本東洋医学会ツムラスポンスードセミナー
地域文化力と6次産業の融合：森野旧薬園から発信する生薬国産化のストラテジー	富山大学近畿支部同窓会、大阪	2017年6月25日	
地域文化力と薬草栽培の叢智：森野旧薬園から発信する生薬国産化	奈良県立橿原考古学研究所 室生理蔵文化財整理収蔵センター、奈良	2017年7月8日	
国産生薬の伝統：日本最古の私設薬草園 森野旧薬園と松山本草	緑と水の市民カレッジ H29年度後期講座、東京	2017年12月8日	

#### 研究(学会)発表など

タイトル	場所	年月日	備考
地域特産果樹 <i>Diospyros kaki</i> を活用した生薬国産化研究：吃逆治療薬「柿蒂」	第68回日本東洋医学会学術総会(名古屋)	2017年6月2日～4日	口頭発表

タイトル	場 所	年 月 日	備 考
地域文化力の強化：森野旧薬園所蔵『森野藤助繁通編纂・草木葉譜』の生薬学的研究	第 12 回博物科学会(山形)	2017 年 6 月 22 日～23 日	口頭発表
適塾の医療文化財に現存する麻薬等規制対象物の保存と継承	文化財保存修復学会第 39 回大会(金沢)	2017 年 7 月 1 日～2 日	ポスター発表
地域文化力と薬草栽培の叡智：国史跡・森野旧薬園の意義	第 8 回甘草に関するシンポジウム(山梨)	2017 年 7 月 15 日～16 日	ポスター発表
栽培法記述の変遷と篤農技術継承における映像記録の活用：大分県竹田市のサフラン生産	第 34 回和漢医薬学会学術大会(福岡)	2017 年 8 月 26 日～27 日	口頭発表
桃仁 PERSICAE SEMEN の潜在的資源探査：メタロミクスによる特性検証	日本生薬学会第 64 回年会(千葉)	2017 年 9 月 9 日～10 日	口頭発表
『緒方洪庵の薬箱(阪大蔵)』研究：土茯苓の基原と実地臨床	日本薬史学会 2017 年会(埼玉)	2017 年 10 月 28 日	口頭発表
サフランの形態学的特性に基づく品質評価：国内外市場品の比較	日本薬学会第 138 年会(金沢)	2018 年 3 月 25 日～28 日	口頭発表
伝統的薬用芍薬の潜在的資源探査	日本薬学会第 138 年会(金沢)	2018 年 3 月 25 日～28 日	口頭発表
映像技術を用いた篤農技術継承：大分県竹田市のサフラン栽培	日本薬学会第 138 年会(金沢)	2018 年 3 月 25 日～28 日	口頭発表
森野旧薬園の生薬資源学的意義：土茯苓の基原と導入帰化	日本薬学会第 138 年会(金沢)	2018 年 3 月 25 日～28 日	ポスター発表
緒方洪庵の薬箱(大阪大蔵)由来「苘根」「苘越」：基原の史的深化と実地臨床	日本薬学会第 138 年会(金沢)	2018 年 3 月 25 日～28 日	口頭発表
地域特産果樹を活用した生薬国産化研究：シテイ(KAKI CALYX)の有機成分による品種特性検証	日本薬学会第 138 年会(金沢)	2018 年 3 月 25 日～28 日	口頭発表

### 【共同研究および外部資金獲得状況】

#### 科学研究費補助金およびその他の外部資金

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期 間	継続 / 新規
日本学術振興会科学研究補助金基盤研究 A 近世医療文化財の普遍的価値創成：『薬箱』の包括的保存技術の確立と実践	高橋京子	2017 年～ 2019 年	新規
日本学術振興会科学研究補助金基盤研究 B (特設分野研究) 薬食同源を実現する特産園芸作物の歴史的探索評価および多角的総合利用技術の開発	後藤一寿	2017 年～ 2020 年	新規

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期 間	継続 / 新規
日本学術振興会科学研究補助金基盤研究C 農業・農村を基盤としたアグリセラピーを契機とした共生福祉社会の展開可能性	中川光弘	2017年～ 2019年	新規
農水省委託プロジェクト研究「薬用作物の国内生産拡大に向けた技術の開発」 分担	川嶋浩樹	2016年～ 2020年	継続

#### 寄付

寄 付 名	寄付者名	金 額	受入年月	継続 / 新規
高橋京子薬用資源研究助成金	森野薫子	200万円	2017年11月	新規

#### 【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアムレクチャーなど

講演名・題目	場 所	主催者名	年 月 日
2017年春季展覧会開催 「薬草のタイムカプセル～森野旧薬園と松山本草」	森野旧薬園 奈良県・宇陀市	森野旧薬園・大阪大学 総合学術博物館資料 基礎研究計主催	2017年4月3日～ 5月28日
2017年企画展 多士済済 松坂の本草学者たち	松坂市立歴史民俗資料館	松坂市立歴史民俗資 料館	2017年9月30日～ 12月10日

#### 団体見学の説明等

団体名（人数）	説明日	備 考
田園A地区婦人学級(17名)	2017年6月15日	
医療法人社団 金匱会診療所・(株)ツムラ(3名)	2018年2月17日	

#### 相談

相談分類	開始年月	終了年月
江戸期医療事情・薬草（奈良県医療政策部）アドバイザー（漢方のメッカ推進プロジェクト）	2013年12月	継続中～
史跡・森野旧薬園保存管理計画策定委員会 副委員長（宇陀市教育委員会文化財課）	2015年11月	継続中～

#### 学内の各種委員等

委員会あるいはWG名	就任年月	退任年月	継続/新規
大阪大学適塾記念センター	2011年4月		継続
大阪大学男女協働推進センター	2015年4月		継続

委員会あるいはWG名	就任年月	退任年月	継続/新規
総合学術博物館・企画調整委員会	2016年4月		新規
同 グローバル・情報委員会	2016年4月		新規
同 博物館教育推進委員会	2016年4月		新規
適塾記念会 幹事	2015年		新規

学外各種委員等（地方公共団体や学協会など）

委員会名	役職	期間	継続/新規
日本薬理学会	学術評議員	2006年～	継続
富山大学和漢医薬総合研究所	特任研究員	2011年～	継続
日本薬学会近畿支部会	委員	2007年～	継続
高知県立牧野植物園	上席客員研究員～アドバイザー	2013年～	継続
日本東洋医学会生薬原料委員会	委員	2014年～	継続
日本薬史学会	評議員	2015年～	継続
東大阪文化財保護審議委員会	委員	2017年～	新規

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
春～夏学期・共通教育科目(全学部・全学年)	博物館体験コース(共担)
春～夏学期・大学院薬学研究科	伝統医薬解析学特別講義
大学院横断科目・学際融合教育科目(集中)	実践ミュージアムコミュニケーション学(共担)

【研究活動】

学術論文

論文名	著者名	雑誌	号・巻・頁	発行年月
Role for Taurine in Development of Oxidative Metabolism After Birth.	<u>Kayoko Shimada-Takaura</u> , Kyoko Takahashi, Takashi Ito, Stephen W. Schaffer	Advances in Experimental Medicine and Biology	975・1047-1057	2017年8月
Quality Characterization of Japanese Medicinal Paeoniae Radix by Metallomic Analysis.	<u>Kayoko Shimada-Takaura</u> , Yuto Nakamura, Masaya Kawase, Katsuko Komatsu, Kyoko Takahashi	Chemical & Pharmaceutical Bulletin	66・353-357	2018年1月

研究(学会)発表など

タイトル	場所	年月日	備考
地域特産果樹 <i>Diospyros kaki</i> を活用した生薬国産化研究：吃逆治療薬「柿蒂」	第68回日本東洋医学会学術総会(名古屋)	2017年 6月2日～4日	口頭発表
地域文化力の強化：森野旧薬園所蔵『森野藤助繁通編纂・草木葉譜』の生薬学的研究	第12回博物科学会(山形)	2017年 6月22日～23日	口頭発表
適塾の医療文化財に現存する麻薬等規制対象物の保存と継承	文化財保存修復学会第39回大会(金沢)	2017年 7月1日～2日	ポスター発表
地域文化力と薬草栽培の叡智：国史跡・森野旧薬園の意義	第8回甘草に関するシンポジウム(山梨)	2017年 7月15日～16日	ポスター発表
栽培法記述の変遷と篤農技術継承における映像記録の活用：大分県竹田市のサフラン生産	第34回和漢医薬学会学術大会(福岡)	2017年 8月26日～27日	口頭発表
桃仁 <i>PERSICAE SEMEN</i> の潜在的資源探査：メタロミクスによる特性検証	日本生薬学会第64回年会(千葉)	2017年 9月9日～10日	口頭発表
『緒方洪庵の薬箱(阪大蔵)』研究：土茯苓の基原と実地臨床	日本薬史学会2017年会(埼玉)	2017年10月28日	口頭発表

タイトル	場 所	年 月 日	備 考
サフランの形態学的特性に基づく品質評価：国内外市場品の比較	日本薬学会第138年会 (金沢)	2018年 3月25日～28日	口頭発表
伝統的薬用芍薬の潜在的資源探査	日本薬学会第138年会 (金沢)	2018年 3月25日～28日	口頭発表
映像技術を用いた篤農技術継承：大分県竹田市のサフラン栽培	日本薬学会第138年会 (金沢)	2018年 3月25日～28日	口頭発表
森野旧薬園の生薬資源学的意義：土茯苓の基原と導入帰化	日本薬学会第138年会 (金沢)	2018年 3月25日～28日	ポスター発表
緒方洪庵の薬箱(大阪大蔵)由来「菘根」「菘越」：基原の史的深化と実地臨床	日本薬学会第138年会 (金沢)	2018年 3月25日～28日	口頭発表

### 【共同研究および外部資金獲得状況】

#### 科学研究費補助金およびその他の外部資金

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期 間	継続 / 新規
日本学術振興会 科学研究費補助金 若手研究(B) 「アクションリサーチによる医療文化財資源解析法の革新：緒方洪庵の実地臨床」	高浦 佳代子	2015年4月～ 2018年3月	継続
農林水産省 委託プロジェクト研究 市場開拓に向けた取組を支える研究開発 「薬用作物の国内生産拡大に向けた技術の開発」	川嶋 浩樹	2016年度～ 2020年度	継続
公益財団法人 日本食品化学研究振興財団 平成29年度研究助成金「安全・高品質な国産サフラン生産拡大のためのアクションリサーチ：アグリセラピーへの応用と地域健康力の向上」	高浦 佳代子	2017年4月～ 2018年3月 (継続可)	新規

### 【社会貢献、管理運営等】

#### 団体見学の説明等

団体名 (人数)	説明日	備 考
大阪大学理学部生物 (18人)	2017年8月8日	生物学野外実習 (講義)
医療法人社団 金匱会診療所・(株)ツムラ (3人)	2018年2月17日	

#### 学内の各種委員等

委員会あるいはWG名	就任年月	退任年月	継続/新規
総合学術博物館・教育推進委員会	2017年4月		新規
同・グローバル情報委員会	2017年4月		新規

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
春～夏学期・共通教育科目[全学部・全学年]	博物館体験コース（共担）
通年・理学部化学科・4年生	化学特別研究
通年・理学部化学科・4年生	化学文献調査
春～夏学期・理学研究科博士前期課程（化）	核磁気共鳴分光学(I)（共担）
春～夏学期・理学研究科博士前期課程（化）	核磁気共鳴分光学半期セミナー(I)（共担）
春～夏学期・理学研究科博士前期課程（化）	核磁気共鳴分光学半期セミナー(II)（共担）
秋～冬学期・理学研究科博士前期課程（化）	核磁気共鳴分光学半期セミナー(I)（共担）
秋～冬学期・理学研究科博士前期課程（化）	核磁気共鳴分光学半期セミナー(II)（共担）
通年・理学研究科博士後期課程（化）	核磁気共鳴分光学特別セミナーI
通年・理学研究科博士後期課程（化）	核磁気共鳴分光学特別セミナーII
通年・理学研究科博士後期課程（化）	核磁気共鳴分光学特別セミナーIII
大学院横断科目・学際融合教育科目（集中）	実践ミュージアムコミュニケーション学（共担）

学生指導

学生数（留学生含む）	留学生数	共同・分担した指導教官人数
2名	0名	2名

学位論文審査等

学位申請者および論文名	主査・副査の別
吉元政嗣 「疎水性ナノ空間内で形成するマイクロ・メソスコピックな分子集団構造の解明」 (博士学位論文・信州大学)	副査

学外での教育活動（集中講義等）

授業科目名	機関名	期間
物理化学特論	東洋大学大学院理工学研究科	2017年7月31日～8月1日

【研究活動】

学術論文

論文名	著者名	雑誌	号・巻・頁	発行年月
A solid-state <sup>1</sup> H-NMR study of the dynamic structure of ZIF-8 and its role in the adsorption of bulky molecules	Takahiro Ueda*, Masako Nakai, Tatsuya Yamatani	Adsorption	23(6), 887-901	2017年
吸着基礎シリーズ；核磁気共鳴 (NMR) 分光法の基礎と吸着系への応用	上田貴洋	Adsorption News	Vol.31(4), 19-28	2018年1月
嵩高い分子の吸着が ZIF-8 の動的構造に及ぼす影響	中井雅子、山谷達也、上田貴洋	大阪大学低温センター研究報告書	(平成 28 年度), pp. 28-31	2017年12月

著書

著書名	著者名	出版社	頁数	発行年月
アトキンス物理化学 (下) 10 版	Peter Atkins・Julio de Paula 著 中野元裕・上田貴洋・奥村光隆・北河康隆 共訳	東京化学同人	560	2017年9月1日

研究 (学会) 発表など

タイトル	場所	年月日	備考
<sup>2</sup> H and <sup>1</sup> H NMR study for dynamics of glyme and crown ethers-co-intercalated with alkali metals in graphite layers	ISMAR 2017/ Québec City, Canada	2017年 7月23日～28日	ポスター
固体 NMR で見る ZIF-8 の動的構造と嵩高い分子吸着に対するその役割	第 68 回コロイドおよび界面化学討論会 (神戸大学鶴甲第 1 キャンパス)	2017年 9月6日～8日	口頭発表
多孔性配位高分子 ZIF-8 に対する嵩高い分子の吸着挙動—吸着速度と活性化エネルギーによる考察—	第 31 回日本吸着学会研究発表会 (静岡、静岡市民文化会館)	2017年 11月16日～17日	口頭発表
メソ孔内におけるイオンの動的水和構造の NMR 研究に向けた実験条件の検討	第 31 回日本吸着学会研究発表会 (静岡、静岡市民文化会館)	2017年 11月16日～17日	ポスター (大学院生)
Dynamic Structural Characterization of Porous Materials and Adsorbed Molecules Using Solid-State NMR	2018 Nanospace Sci. Eng. Seminar, Shinshu University, Nagano	2018年3月2日	口頭発表 (招待)

タイトル	場 所	年 月 日	備 考
ナノ細孔内におけるイオンの動的水和構造の NMR 研究	日本化学会第 98 春季年会（千葉県 日大船橋キャンパス）	2018 年 3 月 20 日～23 日	口頭発表 (大学院生)

#### 研究（学会）発表の座長、受賞審査など

学会・研究集会など（場所）	年 月 日	件 数	備 考
第 68 回コロイドおよび界面化学討論会 (神戸大学鶴甲第 1 キャンパス)	2017 年 9 月 6 日～8 日	2 件（座長） 4 件（審査員）	
第 31 回日本吸着学会研究発表会（静岡、 静岡市民文化会館）	2017 年 11 月 16 日～17 日	4 件（座長）	
日本化学会第 98 春季年会（千葉県 日大 船橋キャンパス）	2018 年 3 月 20 日～23 日	5 件（座長） 2 件（審査員）	

#### 論文査読など

学術雑誌	件 数	備 考
Bulletin of the Chemical Society of Japan	1 件	
Chemistry Letters	1 件	

#### 【共同研究および外部資金獲得状況】

##### 科学研究費補助金およびその他の外部資金

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期 間	継続/新規
科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金） 挑戦的萌芽研究「細孔分析法を用いた土器類の新 規評価法の開発」（課題番号 15K12445）	上田 貴洋	2015 年～ 2017 年	継続

#### 寄付

寄 付 名	寄付者名	金 額	受入年月	継続 / 新規
資料先端研究系助成金	神戸薬科大学 学長 北河修治	16 万円	2018 年 2 月	新規

#### 【社会貢献、管理運営等】

##### 講演会、サイエンスカフェ、ミュージアムレクチャーなど

講演名・題目	場 所	主催者名	年 月 日
大阪大学理学部化学科新入生研修・大 阪大学総合学術博物館の教育・研究・ 社会貢献	理学 J 棟 2 階 南部陽 一郎ホール	大阪大学理学部化学科	2017 年 4 月 15 日

講演名・題目	場 所	主催者名	年 月 日
大阪大学 21 世紀懐徳堂シンポジウム (第2回)・大学ミュージアムの未来～ ミュージアムピースを活用した大学の 「コトづくり」	大阪大学中之島センタ ー	大阪大学 21 世紀懐徳堂	2017 年 10 月 17 日

#### 団体見学の説明等

団体名 (人数)	説 明 日	備 考
大阪大学理学部化学科 (新入生研修) (79 名)	2017 年 4 月 15 日	2 名で共担
近畿大学付属高等学校 (76 名)	2017 年 7 月 14 日	2 名で共担
奈良市立一条高等学校 (42 名)	2017 年 11 月 20 日	
三重県立松阪高等学校 PTA (20 名)	2017 年 11 月 22 日	
阿賀町立三川中学校 (25 名)	2018 年 3 月 12 日	

#### 学内の各種委員等

委員会あるいは WG 名	就任年月	退任年月	継続/新規
図書館委員会委員	2012 年 4 月		継続
総合図書館図書選定小委員会委員	2012 年 4 月		継続
計画・評価委員会 委員	2014 年 4 月		継続
21 世紀懐徳堂運営委員会 副委員長	2015 年 11 月		継続
大阪大学創立 90 周年・大阪外国語大学創立 100 周年記念事 業 記念出版・展示実行委員会委員	2017 年 1 月		新規
大阪大学社会学共創本部副本部長	2017 年 8 月	2017 年 12 月	新規
大阪大学社会学共創本部 インターウィーヴ共創部門長	2018 年 1 月	2017 年 12 月	新規
大阪大学共創機構社会学共創本部副本部長	2018 年 1 月		新規
大阪大学共創機構社会学共創本部 インターウィーヴ共創部門 長	2018 年 1 月		新規

#### 学外各種委員等 (地方公共団体や学協会など)

委員会名	役 職	期 間	継続/新規
日本吸着学会 運営委員会	運営委員	2014 年 4 月～	継続
日本吸着学会	理事	2017 年 4 月～	新規
豊中市学校教育審議会委員	委員	2015 年 6 月～	継続

## 【教育活動】

## 担当授業

学期・学部・学年	科目名
春～夏学期・工・1年	化学概論
春～夏学期・医/薬・2年	化学実験
春～夏学期・理・2年	自然科学実験2 化学
春～夏学期・全学部・全学年	博物館体験コース
春～夏学期・理・M1	核磁気共鳴分光学(I)

## 学外での教育活動（集中講義等）

授業科目名	機関名	期間
大学ミュージアムで学ぶ歴史と文化	関西大学	2017年5月26日

## 【研究活動】

## 研究（学会）発表など

タイトル	場所	年月日	備考
セルロース加水分解過程の計算化学的研究	総合学術博物館待兼 山修学館	2017年 12月19日	

## 【社会貢献、管理運営等】

## 団体見学の説明等

団体名（人数）	説明日	備考
浜屋敷 吹田まち案内人(42名)	2017年5月18日	
大阪北部コミュニティーカレッジ(30名)	2017年6月9日	
箕面市萱野北小地区社会福祉協議会(22名)	2017年7月19日	
兵庫県立北摂三田高校(51名)	2017年8月2日	
花いち（シニアクラブ）(10名)	2017年10月18日	
Gwangyang Baegun High School(104名)	2017年10月27日	
三郷町人権教育推進協議会(50名)	2017年11月8日	
国語研 高田先生ほか(2名)	2017年11月13日	
奈良学園登美ヶ丘中学校 高等学校育友会(50名)	2017年11月16日	
宝塚北高校(40名)	2017年11月16日	
さくらサイエンスプランによるアジア各大学の教員(11名)	2017年11月30日	
トンボののメガネ(20名)	2017年12月15日	

学内の各種委員等

委員会あるいはWG名	就任年月	退任年月	継続 / 新規
ODINS 運用部会 部局ネットワーク担当者	2002年4月1日		継続

学外各種委員等（地方公共団体や学協会など）

委員会名	役職	期間	継続 / 新規
日本化学会近畿支部幹事	幹事	2017年1月～	継続

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
春～夏学期・医学部医学科・1年	化学概論
春～夏学期・歯学部歯学科・2年 基礎工学部化学応用化学科・2年	共通教育専門基礎教育科目・化学実験
秋～冬学期・医学部保健学科・1年 基礎工学部システム工学科・2年	共通教育専門基礎教育科目・化学実験
春～夏学期・理学研究科・博士課程前期	核磁気共鳴分光学（共担）
春～夏学期・全学部・1年	博物館体験コース（共担）

その他の執筆活動（総説、評論、辞典項目、各種記事など）

タイトル等	報道機関名	報道年月
博物館の展示に使われる化学	「化学と教育」 65巻628-9頁	2017年12月

研究（学会）発表など

タイトル	場所	年月日	備考
2H and 1H NMR Study for Dynamics of Glyme and Crown Ethers Co-Intercalated with Alkali Metals in Graphite Layers.	ケベック (カナダ)	2017年 7月23日～28日	K. Gotoh, S. Kunimitsu, M. Mizuno, T. Miyatou, M. M. Lerner, H. Zhang, K. Miyakubo, T. Ueda, H. Ishida 共同発表

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアムレクチャーなど

講演名・題目	場所	主催者名	年月日
大学ミュージアムで学ぶ歴史と文化 大阪大学総合学術博物館フィールドワーク	大阪大学総合学 術博物館 待兼 山修学館	関西大学 ・コンソーシアム大阪	2017年5月13日

講演名・題目	場 所	主催者名	年 月 日
大阪大学理学部化学科一日体験入学 ひらめきときめきサイエンス 「水と油っぽいものは混じらない？」担当	大阪大学理学部	大阪大学理学部化学科 ・日本学術振興会	2017年8月5日

#### 団体見学の説明等

団体名（人数）	説 明 日	備 考
大阪大学新人職員研修(44名)	2017年4月14日	半田研究員と分担
京都府立城南菱創高等学校(39名)	2017年4月28日	
奈良県帝塚山中学校(45名)	2017年7月14日	
NPO法人大阪府北部コミュニティカレッジ(30名)	2017年7月20日	
兵庫県立御影高等学校PTA(31名)	2017年8月18日	
東山高等学校(36名)	2017年10月25日	
阪神間美術館博物館連絡協議会(19名)	2017年11月16日	
日本経営士会近畿支部(11名)	2017年11月24日	
箕面自由学園中学校(16名)	2018年1月26日	

#### 学内の各種委員等

委員会あるいは WG 名	就任年月	退任年月	継続 / 新規
教養教育カリキュラム検討WG	2015年10月	2018年3月	継続
教養教育科目長	2013年4月	2018年3月	継続
豊中地区安全衛生委員会	2015年4月		継続
総合学術博物館湯川記念室	2015年4月		継続

## 【教育活動】

## 担当授業

学期・学部・学年	科目名
春～夏学期・全学教育推進機構	東洋美術史
春～夏学期・全学教育推進機構	博物館体験コース
秋～冬学期・文学部	日本美術史講義
秋～冬学期・博士前期課程	日本美術史講義
秋～冬学期・博士前期課程	世界のなかの日本美術
秋～冬学期・博士後期課程	日本美術特殊講義
春～夏学期・文学部	日本美術史演習
秋～冬学期・文学部	日本美術史演習
春～夏学期・博士前期課程	日本美術史演習
秋～冬学期・博士前期課程	日本美術史演習
春～夏学期・博士後期課程	日本美術史特殊演習
秋～冬学期・博士後期課程	日本美術史特殊演習
通年・文学部	日本美術史演習
通年・博士前期課程	日本美術史演習
通年・博士後期課程	日本美術史特殊演習
春～夏学期・文学部	東洋美術史演習
秋～冬学期・文学部	東洋美術史演習
通年・文学部	博物館学(学内実習)
通年・文学部	芸術計画論演習
春～夏学期・博士前期課程	東洋美術史修士論文作成演習
秋～冬学期・博士前期課程	東洋美術史修士論文作成演習
春～夏学期・博士後期課程	東洋美術史博士論文作成演習
秋～冬学期・博士後期課程	東洋美術史博士論文作成演習
通年・修士課程	芸術計画論演習
春～夏学期・全学教育推進機構(大学院)	実践ミュージアムコミュニケーション学
秋学期・工学研究科地球総合工学科・学部 1年	学外研修
社会人・学生	記憶の劇場

## 学生指導

学生数（留学生含む）	留学生数	共同・分担した指導教官人数
15名	2名	3名

学位論文審査等

学位申請者および論文名	主査・副査の別
乾健一「1950年代の画家・泉茂とデモクラート美術家協会について—評論家・久保貞次郎の影響と外国美術の受容を中心に—」	主査
谷岡彩「矢野橋村における中国絵画学習について—第二回主潮社展出品作《烟江疊嶂画卷》を中心に—」	主査
竹嶋康平「奈良・南市町自治会所蔵「春日曼荼羅」再考—図様に込められた春日信仰—」	副査
SON JIEUN「狛坂磨崖仏考—7～8世紀における日韓交流を視座として—」	副査

学外での教育活動（集中講義等）

授業科目名	機関名	期間
古美術研究旅行	愛知県立芸術大学	2017年10月
大阪学	帝塚山学院大学	2017年4月～5月
美術館論	放送大学	2017年12月

【研究活動】

学術論文

論文名	著者名	雑誌	号・巻・頁	発行年月
柳大夫柳沢淇園の生涯と芸術	橋爪節也	「特別展 柳沢淇園—文雅の士・新奇の画家—」図録、大和文華館	6～16頁	2017年10月7日発行
大大阪と画家たち第二回 菅楯彦と花街、舞楽、浪速風俗	橋爪節也	『やそしま』関西・大阪21世紀協会、上方文化芸能運営委員会	第11号	2017年
『浪花百景』—まずはヴィジュアルの迷路に踏み込んでみる	橋爪節也	「CEL」【特集】ルネッセ「耕」—文化を問い直す、大阪ガス エネルギー・文化研究所	118号、22～29頁	2018年3月1日
『いの字絵本 恋の都大阪の巻』—堂本印象の大阪—	橋爪節也	『堂本印象 創造への挑戦』淡交社		2018年3月23日刊

その他の執筆活動（総説、評論、辞典項目、各種記事など）

タイトル等	報道機関名	報道年月
橋爪節也「郷土玩具から広がる、「趣味人」ネットワークと近代・大阪の創造力」	「上町台地 今昔フォーラム vol.7」1～12頁 大阪ガス エネルギー文化研究所	2017年4月

タイトル等	報道機関名	報道年月
橋爪節也「よみがえる大阪画壇の巨匠―北野恒富の芸術―」	「北野恒富展」図録、10～19頁 あべのハルカス美術館	2017年6月6日
橋爪節也・谷岡彩「北野恒富年譜」「北野恒富展」図録、226～240頁	同上、あべのハルカス美術館	2017年6月6日
橋爪節也・乾健一「主要参考文献」「北野恒富展」図録、241～246頁	同上、あべのハルカス美術館	2017年6月6日
<p>・橋爪節也「北野恒富展」図録図版解説・北野恒富《燕子花》《六歌仙》《摘草》《思出》《鏡の前》《暖か》《鏡の前・大下絵》《春》《飛天》《天女》《幕間》《墨染》《羅浮仙》《仙人》《淀君（大下絵）》《淀君（耕三寺博物館蔵）》《淀君（大阪新美術館建設準備室蔵）》《花》《花の夜》《立美人》《雪の朝》《紫式部》《時鳥》《舞妓》《藤娘》《阿波踊り》《宝恵籠》《幾松》《松風》《真葛庵之蓮月》、樋口富麻呂《船宿の女》《春宵賀之図》、辻富芳《小鳥と童女》、難波春秋《嫁ぐ日》、橋本花乃《七夕》、星加雪乃《清流》、生田花朝《四天王寺聖霊会図》、北野恒富印章、横山大観書簡（北野恒富宛）、木村武山書簡、川端龍子書簡、富田溪仙書簡二通、谷崎潤一郎書簡、安田靉彦書簡二通、鎗木清方書簡、青木月斗書簡二通、北野恒富転居通知、「自筆履歴」、「夜雨艸堂」、《スケッチブック・十五冊》、文芸雑誌『梅花』</p>	同上、あべのハルカス美術館	2017年6月6日
橋爪節也「何のために新美術館を開館するのか」	「特定非営利法人 大阪美術市民会議機関誌」第9号「大阪新美術館特集号」、NPO大阪美術市民会議2～3頁、同会議ホームページにも掲載	2017年10月20日
橋爪節也「特別展 柳沢淇園―文雅の士・新奇の画家―」図録図版解説 図79・木村兼葭堂筆「墨竹図」個人蔵、図13・淇園旧蔵「芥子園画伝」、図21・柳澤淇園「睡童子図」克念社所蔵、図21・柳澤淇園「睡童子図」個人蔵、図23・柳澤淇園「睡童子図」個人蔵。	大和文華館、	2017年10月7日

タイトル等	報道機関名	報道年月
橋爪節也「Sadao.N 中村貞夫の藝術 四大文明から大阪風景への回帰。モダニズムの継承としてのー」	『中村貞夫画集』第十巻、中村貞夫発行 1～22頁	2018年3月
橋爪節也「キャンパスの“土壌改良”とアート・リソース」	『ユニヴァーシティー・アート・リソース研究Ⅱ』科学研究費補助金 基盤研究(A)大学における「アート・リソース」の活用に関する総合的研究(課題番号15H01874)』	2018年3月
橋爪節也「“記憶”の劇場—道頓堀と中之島—蔵屋敷の役人になってみた?」「おおさかKEYワード」78回 「いちょう並木」No.411	大阪市生涯学習センター編集、大阪市教育委員会発行 表紙と3頁	2017年4月10日
橋爪節也「当今第一風流宗匠—おおさかを愛した田能村竹田」「おおさかKEYワード」79回 「いちょう並木」No.412	大阪市生涯学習センター編集、大阪市教育委員会発行 表紙と3頁	2017年5月10日
橋爪節也「北野恒富ルネッサンス—よみがえる大阪画壇の巨匠」「おおさかKEYワード」80回 「いちょう並木」No.413	大阪市生涯学習センター編集、大阪市教育委員会発行 表紙と3頁	2017年6月10日
橋爪節也「万灯祭から絵行灯幻想—“はんなり”と揺らぐ風物詩」「おおさかKEYワード」81回 「いちょう並木」No.414	大阪市生涯学習センター編集、大阪市教育委員会発行 表紙と3頁	2017年7月10日
橋爪節也「夏の屋上もまた楽しい物見台と大阪発の屋上ビアガーデン」「おおさかKEYワード」82回 「いちょう並木」No.415	大阪市生涯学習センター編集、大阪市教育委員会発行 表紙と3頁	2017年8月10日
橋爪節也「おどけた姿は当世仕方物真似—落語始祖の米沢彦八と生玉人形」「おおさかKEYワード」83回 「いちょう並木」No.416	大阪市生涯学習センター編集、大阪市教育委員会発行 表紙と3頁	2017年9月10日
橋爪節也「人の師たるに足れる芸十六に及ぶ—柳沢淇園のおおさか」「おおさかKEYワード」84回 「いちょう並木」No.417	大阪市生涯学習センター編集、大阪市教育委員会発行 表紙と3頁	2017年10月10日
橋爪節也「“水の回廊”タイムスリップによるこそ—河からみた大阪はアクティブ」 「おおさかKEYワード」85回 「いちょう並木」No.418	大阪市生涯学習センター編集、大阪市教育委員会発行 表紙と3頁	2017年11月10日

タイトル等	報道機関名	報道年月
橋爪節也「民のかまどは賑わいにけり？－高津の遠眼鏡屋」 「おおさか KEY わーど」 86回 「いちよう並木」 No.419	大阪市生涯学習センター編集、大阪市教育委員会発行 表紙と3頁	2017年12月10日
橋爪節也「なにわにガウディ発見－フェニックスモザイク「糸車の幻幻想」 「おおさか KEY わーど」 87回 「いちよう並木」 No.420	大阪市生涯学習センター編集、大阪市教育委員会発行 表紙と3頁	2017年2月10日
橋爪節也「桃の節句と三国志－見渡すかぎりの桃畑」 「おおさか KEY わーど」 88回 「いちよう並木」 No.421	大阪市生涯学習センター編集、大阪市教育委員会発行 表紙と3頁	2017年3月10日
橋爪節也「絵を飾る人のキモチ」 第12回「花街の演舞場から百貨店までアート、アート、アート……なんと芳醇な大阪文化」	いきかたのカタチ 積水ハウス株式会社 住ムフムラボ (うめきたグランフロント大阪 ナレッジキャピタル) <a href="http://www.sumufumulab.jp/sumufumulab/">http://www.sumufumulab.jp/sumufumulab/</a>	2017年4月20日
橋爪節也「絵を飾る人のキモチ」 第13回「“宗教都市・大阪”を求めて堂本印象に至る～盃蘭盆の四天王寺と輸出繊維会館の壁画～」	いきかたのカタチ 住ムフムラボ	2017年8月24日
橋爪節也「絵を飾る人のキモチ」 第14回「年末年始、祝祭的な色彩を求めて～日本のガウディから仏手柑そしてネオンアートからゴッサム三題噺」	いきかたのカタチ 住ムフムラボ	2017年12月14日
橋爪節也「絵を飾る人のキモチ」 第15回「“蒐集もまた創作なり”伝説の大コレクター魂」	いきかたのカタチ 住ムフムラボ、	2018年3月22日
橋爪節也「スズメ君のアートのある大阪まちあるき (2) 恒富の筆塚から－豪放磊落な書風は俳人好み」	「沖ゆくらくだ」 No.2 45～47頁 学術出版印刷	2017年7月20日
橋爪節也「スズメ君のアートのある大阪まちあるき (3) ビリアード場と古書店／山口誓子」	「沖ゆくらくだ」 No.3 学術出版印刷	2017年
橋爪節也「スズメ君のアートのある大阪まちあるき (4) 歌集『シーボルトの末吉橋』を読み、長崎経由で末吉橋に戻る」	「沖ゆくらくだ」 No.4 39～41頁 学術出版印刷	2017年12月10日
橋爪節也「スズメ君のアートのある大阪まちあるき (5) 松屋町から一挙に壮大な四大文明に至る－洋画家中村貞夫の世界」	「沖ゆくらくだ」 No.6 30～32頁 学術出版印刷	2018年3月31日

タイトル等	報道機関名	報道年月
「なにわの画伯 成瀬國晴氏に聞く 20 天王寺舞楽を描く」聞き手 橋爪節也+古川武志/構成 長山公一	『大阪春秋第 166 号—夕陽のまち おおさか—』新風書房、	2017 年 4 月
「なにわの画伯 成瀬國晴氏に聞く 21 天神祭を描く」聞き手 橋爪節也+古川武志/構成 長山公一	『大阪春秋第 167 号—新田開発と新田会所—』新風書房	2017 年 7 月
「なにわの画伯 成瀬國晴氏に聞く 22 将棋絵 —静かなる戦いを描く—」聞き手 橋爪節也・古川武志/構成 長山公一	『大阪春秋第 168 号—大塩の乱 180 年—』新風書房	2017 年 10 月
「なにわの画伯 成瀬國晴氏に聞く 23 駅前風景 —生活の息吹を描く—」聞き手 橋爪節也+古川武志/構成 長山公一	『大阪春秋第 169 号—キリシタンたちの戦国おおさか—』新風書房、	2018 年 1 月

#### 学術講演会など

講演タイトル	場 所	年 月 日	備 考
講演「日ゝ書画地獄いそかしく —十時梅屋と木村兼葭堂、交流する文人たち—」	誓願寺	2017 年 4 月 15 日	主第 34 回懷徳忌、催懷徳堂記念会
講演「よみがえる大阪画壇の巨匠—北野恒富の芸術—」	あべのハルカス美術館	2017 年 6 月 10 日	「北野恒富展」関連
講演「EXPO'70 大阪万博の時代と大阪の前衛美術」	立命館大阪梅田キャンパス	2017 年 6 月 19 日	大阪・京都文化講座「大阪・京都の「一大事」—災害・動乱・革新」第 6 回
講演「柳大夫・柳沢淇園の芸術」	大和文華館	2017 年 10 月 29 日	「特別展 柳沢淇園—文雅の士・新奇の画家—」に関連して
講演「北野恒富のモダニズムと美人画—本画、ポスター、挿絵を読み解く—」	千葉市美術館	2017 年 11 月 26 日	「北野恒富展」関連
講演「大阪文化と慈雲尊者」	法楽寺	2018 年 2 月 18 日	慈雲尊者生誕 300 年第 4 回記念講演会
講演「大阪と堂本印象」と座談会（他の登壇者 原田平作、太田垣實、平井章一）	京都府立堂本印象美術館	2018 年 3 月 25 日	

研究（学会）発表など

タイトル	場所	年月日	備考
大正イマジュリィ学会第40回研究会「シンポジウム百花繚乱、北野恒富とその芸術 大阪イマジュリィをもとめて2」	大阪芸術大学スカイキャンパス(あべのハルカス24階)	2017年7月9日	主催大正イマジュリィ学会 協力大阪芸術大学 シンポジウム企画とディスカッション 司会を担当。他の登壇者 川西由里（島根県立石見美術館）、荒井経（東京藝術大学大学院）、田島奈都子（青梅市立美術館）、西山純子（千葉市美術館）、北川博子（あべのハルカス美術館）
発表「大阪のイマジュリィにおける分離派的なるもの—盛り場と沿線モダニズム—」	東京大学本郷キャンパス工学部1号館15号講義室	2017年11月5日	連続シンポジウム第3回「メディアと建築家—博覧会と商業主義のただ中で」主催 分離派100年研究会

報道

タイトル	場所	年月日	備考
五回連載「道行」「淀君」「星」「ポスター菊正宗」「島成園《鉄漿》」	産経新聞夕刊	2017年6月	
「もっと関西 大阪万博に感銘 美術の道 大阪大学教授 橋爪節也さん(私のかんさい) 再誘致は芸術振興目線で」	日本経済新聞	2017年9月6日	
「大阪新美術館38年越し実現? 市コスト抑え基本設計費計上」にコメント「中之島から文化発信を」	朝日新聞	2017年7月13日	
『屋形船で超リッチな大川巡り!』『福島のぶひろのどうぞお構いなく』	毎日放送ラジオ	2017年6月16日 放送	ゲスト/ 橋爪節也、今藤和歌美（長唄三味線）、桂華紋（落語家）

タイトル	場 所	年 月 日	備 考
「ピーコ&兵動のピーチケパーチケ」出演 「北野恒富展 なにわの美人図鑑」関連	関西テレビ	2017年6月22日 放送	ゲスト 橋爪節也、出演・稲垣早希
「OSAKA1 番らばー」出演	テレビ大阪	2017年9月16日 放送	ゲスト 橋爪節也、出演・麒麟(川島明、田村裕)

#### 【共同研究および外部資金獲得状況】

##### 科学研究費補助金およびその他の外部資金

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期 間	継続/新規
科学研究費補助金 基盤研究(A)大学における「アート・リソース」の活用に関する総合的研究(課題番号 15H01874)	五十殿利治	2014年度～ 2017年度	継続
科学研究費補助金 基盤研究(B) 木村兼葭堂“知”のネットワークの解析—絵画・本草学資料から探る歴史文化の再構成	橋爪節也	2017年度～ 2019年度	新規

#### 【社会貢献、管理運営等】

##### 講演会、サイエンスカフェ、ミュージアムレクチャーなど

講演名・題目	場 所	主催者名	年 月 日
講演「当今第一“風流宗匠”なにわをいく 一田能村竹田と大坂・吹田一」	吹田市立博物館	吹田市立博物館	2017年4月29日
座談会「船場・中之島を語る」橋爪節也、高島幸次、桂春之輔	天満天神繁昌亭天神寄席8月席	天満天神繁昌	2017年8月25日
講演「阪神間の画家たち」西宮市宮水学園ふるさと講座第6回	西宮市大学交流センター大講義室 (アクタ西宮東館)	西宮市宮水学園	2017年9月14日
講演・トーク「秋田實と大大阪の時代」、座談・藤田富美恵	大阪藝術劇場	大阪藝術劇場	2017年9月23日

講演名・題目	場 所	主催者名	年 月 日
講演「岩橋善兵衛ゆかりの浪花、知の巨人 博物館学から文人画までー木村兼葎堂とその生涯」第112回かいづか歴史文化セミナー	貝塚市民図書館	貝塚市立前兵衛ランド	2017年10月14日
座談会 佃一輝、明尾圭造、橋爪節也「大坂と文人画について」	四天王寺・本坊	一茶庵	2017年11月19日
講演「魂の画家 三上誠ー日本画改革と表現の実験ー」	枚方市立サンプラザ生涯学習市民センター	枚方市立サンプラザ生涯学習市民センター	2018年2月24日
「上町台地・今昔フォーラム vol.9 “知”の舟を漕いで 上町台地発、“本”をめぐる時空の旅へ〜ことばと本を愛する人たちの迷宮都市再び〜」トークセッションのコーディネーター担当、コメントーター：藤田富美恵、埴狼星、肥田皓三	大阪ガス実験集合住宅NEXT21 2階ホール	大阪ガス エネルギー・文化研究所	2018年3月4日

#### 学内の各種委員等

委員会あるいはWG名	就任年月	退任年月	継続/新規
公開講座運営委員会	2008年4月		継続
アーカイブス運営委員会	2012年10月		継続
適塾記念センター会議			継続

#### 学外各種委員等（地方公共団体や学協会など）

委員会名	役 職	期 間	継続/新規
大正イマジュリ学会	常任委員		継続
大阪市市民表彰選考委員会	選考委員		継続
大阪市中央公会堂	文化財保護アドバイザー	2014年4月～現在	継続
一般財団法人懐徳堂記念会	評議員		継続
八尾市 今東光資料館	企画展示アドバイザー		継続
堺市展 日本画部門審査委員会	審査委員	2016年	継続
和歌山県展 日本画部門審査委員会	審査委員長	2016年	継続
第54回 なにわ芸術祭新人賞選出 新進落語家競演会審査委員会	審査委員	2016年1月15日	継続

学内の各種委員等

委員会あるいはWG名	就任年月	退任年月	継続/新規
大阪大学公開講座運営委員	2008年4月		継続
大阪大学アーカイブス運営委員	2012年10月		継続
豊中地区研究交流会委員	2017年		継続
適塾記念センター会議委員	2011年4月		継続

学外各種委員等（地方公共団体や学協会など）

委員会名	役職	期間	継続/新規
大正イマジュリイ学会	常任委員		継続
一般財団法人懐徳堂	評議員		継続
大阪市市民表彰審査会	臨時委員	各年毎に就任	継続
八尾市今東光記念館	展示アドバイザー		継続
NPO 大阪美術市民会議	理事		継続
大阪市中央公会堂	文化財保護アドバイザー		継続)
田辺市立美術館協議会	協議会委員	2017年～	新規
吹田市立博物館協議会	協議会委員		継続
財団法人・天門美術館評議委員会	評議員	2016年～	継続
なにわ芸術祭新人賞選出 新進落語家競演 会審査委員会	審査員		継続

## 【教育活動】

## 担当授業

学期・学部・学年	科目名
春～夏学期・全学教育推進機構・1年	基礎セミナー「博物館体験コース」
通年・文学部・2、3、4年	博物館学（学内実習）
春～夏学期・文学部・文学研究科・2、3、4年	演劇学講義・演劇学特殊講義
博士前期課程・博士前期課程	芸術環境論講義

## 学外での教育活動（集中講義等）

授業科目名	機関名	期間
映画の歴史	大手前大学	2017年10月～2018年3月

## 【研究活動】

## 学術論文

論文名	著者名	雑誌	号・巻・頁	発行年月
明治期の映画取り締まりについて- 小浜松次郎『警察行政要義』の記述 から	横田洋	演劇学論叢	17号	2018年3月

## 研究（学会）発表など

タイトル	場所	年月日	備考
「記憶の上演-博物館資料を活用する演劇上演の考 え方と実践」	大阪大学	2017年 12月24日	近現代演劇研究会

## 【共同研究および外部資金獲得状況】

## 科学研究費補助金およびその他の外部資金

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期間	継続/新規
科学研究費補助金 基盤研究（C）「芸能史的環境におけ る映画とその影響に関する研究」	横田洋	2015年度～ 2018年度	継続

## 【社会貢献、管理運営等】

## 団体見学の説明等

団体名（人数）	説明日	備考
（特定非営利活動法人）ニッポン・アクティブライフ・クラブ箕面拠点	2017年4月26日	
かんさい大学ミュージアム連携ギャラリートーク	2017年11月15日	

【教育活動】

担当授業

学期・学部・学年	科目名
通年・文学部・3回生以上	博物館学(学内実習)
1回生	基礎セミナー「博物館体験コース」

学生指導

学生数（留学生含む）	留学生数	共同・分担した指導教官人数
35名	1名	5名

【研究活動】

学術論文

論文名	著者名	雑誌	号・巻・頁	発行年月
石見銀山に遺された江戸時代の鉱石標本 (Ore Specimens from the Iwami Ginzan Silver Mine in the Edo Period Japan)	伊藤 謙ほか	地学研究	第64冊4巻 248-251頁	2017年4月

学術講演会など

講演タイトル	場所	年月日	備考
サイエンスから探る新たな歴史文化保全 - 適塾ダヴィンチプロジェクト -	大阪大学 中之島センター	2017年 7月17日	学術講演会/ アウトリーチ活動
“電子の目”でみる新しい世界	大阪大学総合学術 博物館	2018年 3月3日	アウトリーチ活動

報道

タイトル	場所	年月日	備考
世界遺産級の銀鉱石標本発見 石見銀山の江戸期産 出品 世界一だった往時の姿ベール脱ぐ	産経 WEST	2017年5月19日	
銀山 江戸期の鉱物標本 一巻歴史した紙にくるまれ 種類や場所に58点詳細に一	山陰中央新聞	2017年5月	
石見銀山の江戸期鉱石、大量発見 京都で研究進む	京都新聞	2017年6月26日	
「福石」標本 石見銀山で 天保以降 和紙装、木 箱入り	毎日新聞	2017年6月27日	
江戸期の鉱石標本に光	YOMIURI ONLINE	2017年6月30日	
石見銀山鉱石標本に注目 江戸後期一大正期採取の 58点「山師」の知識にも迫る	中国新聞	2017年10月6日	

【共同研究および外部資金獲得状況】

科学研究費補助金およびその他の外部資金

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期 間	継続/新規
錦からみる学際融合研究 - 織物のマルチ・ディメンショナル・研究の確立 -	代表	2017年～ 2020年	新規
木村兼葭堂“知”のネットワークの解析－絵画・本草学資料から探る歴史文化の再構成－	分担	2017年～ 2020年	新規
カンキツの分類と種の起源・伝播の解明-田中標本の解析と人文・社会学的調査－	分担	2016年～ 2019年	継続
石薬（鉱物・化石由来生薬）の本草博物学的考察に基づくマテリアルサイエンスの構築	代表	2016年～ 2019年	継続

【データベースの構築や入力件数など】

題 目	件 数	期 間	備 考
大阪大学総合学術博物館所蔵の鉱物標本およびその付属ラベルについてのリスト再構成と現状把握	約 3000 点	2017年4月1日～ 2018年3月31日	科学研究費補助金（16H05900 および 17H02293）による研究成果の一部である

【社会貢献、管理運営等】

団体見学の説明等

団 体 名（人数）	説 明 日	備 考
理学研究科久野研究室(26名)	2017年4月24日	
龍谷大学附属平安高等学校3年12組(33名)	2017年5月30日	
金光八尾高等学校(31名)	2017年7月11日	
昭和薬科大学附属高等学校(27名)	2017年8月30日	



## 12. 資料

### 掲載項目

- ・ 2017 年度の主な活動一覧
- ・ 入館者数及びアンケート集計結果一覧
- ・ 団体見学一覧
- ・ 関連記事一覧
- ・ 寄贈図書一覧
- ・ 館内配置図

# 2017 年度の主な活動一覧

期間	主な活動
2017年	
4月22日	「第 17 回植物探検隊@春の待兼山周辺」【1 回目】が開催された。(主催：大阪大学 21 世紀懐徳堂 協力：大阪大学総合学術博物館)
4月26日～8月5日	大阪大学総合学術博物館 第 21 回企画展「HANDAI ロボットの世界一形・動きからコミュニケーション そしてココロの創生へ」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：大阪大学大学院工学研究科、大阪大学大学院基礎工学研究科、豊中市、豊中市教育委員会 協力：NPO 法人ダ・ヴィンチ ミュージアムネットワーク、女子中高生のための関西科学塾、大阪大学 21 世紀懐徳堂 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
5月13日	展覧会関連イベント シンポジウム「HANDAI ロボット展から始まるロボットとの共生社会」を開催した。(コーディネーター：大阪大学大学院工学研究科教授 浅田稔氏 登壇者：大阪大学大学院基礎工学研究科教授 細田耕氏、大阪大学大学院工学研究科特任准教授 長井志江氏、大阪大学大学院基礎工学研究科助教 小川浩平氏 他 会場：大阪大学会館講堂)
5月13日	「第 17 回植物探検隊@春の待兼山周辺」【2 回目】が開催された。(主催：大阪大学 21 世紀懐徳堂 協力：大阪大学総合学術博物館)
6月17日	大阪大学総合学術博物館 ミュージアム・レクチャー「ロボットたちの対話の仕組みを覗いてみよう」を開催した。(講師：大阪大学大学院基礎工学研究科准教授 吉川雄一郎氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
7月17日	適塾ダヴィンチプロジェクト・シンポジウム「科学から探るアート研究最前線」が開催された。(主催：2017 適塾ダヴィンチプロジェクト・シンポジウム実行委員会 共催：大阪大学 知の共創プログラム「ダヴィンチプロジェクト」 協力：大阪大学総合学術博物館、大阪大学適塾記念センター、大阪大学 21 世紀懐徳堂、大阪大学大学院理学研究科 場所：大阪大学中之島センター 佐治敬三メモリアルホール)
7月22日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動①「『記憶の劇場Ⅱ』 オープニング講座」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：大阪大学大学院文学研究科 連携：あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール、大阪新美術建設準備室、公益財団法人吹田市文化振興事業団(吹田メイシアター)、豊中市都市活力部文化芸術課、能勢浄るりシアター、兵庫県立尼崎青少年創造劇場(ピッコロシアター)、公益財団法人益富地学会館 助成：平成 29 年度文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂 会場：大阪大学会館 21 世紀懐徳堂スタジオ、大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
7月29日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動⑦「ドキュメンテーション/アーカイヴ Vol.2」を開催した。(講師：清水翼氏、室谷智子氏、slowcamp 山口良太氏、山崎佳奈子氏、平野舞氏、奈良郁氏、石原菜々子氏、坂井遥香氏、維新派[2017 年末に解散]、大阪大学大学院文学研究科准教授 古後奈緒子氏 担当：大阪大学大学院文学研究科准教授 古後奈緒子氏 会場：大阪大学中之島センター)
8月1日	平成 29 年 大阪中学生サマー・セミナー 大阪大学総合学術博物館開設講座「ホテルの光のひみつ」が開催された。(主催：大阪中学生サマー・セミナー推進協議会 後援：大阪府講師：大阪大学総合学術博物館准教授 豊田二郎 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
8月21日	2017 年体験！こどもミュージアム@大阪大学「キラキラ カラフル装飾料紙の世界」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 後援：豊中市教育委員会、池田市教育委員会、箕面市教育委員会、大阪市教育委員会 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂 講師：波瀬山祥子 大阪大学院大学文学研究科日本東洋美術史研究室博士後期課程 2 年 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
8月22日	2017 年体験！こどもミュージアム@大阪大学「見えないものを見る～顕微鏡の世界～」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 後援：豊中市教育委員会、池田市教育委員会、箕面市教育委員会、大阪市教育委員会 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂 講師：戸所泰人 大阪大学大学院理学研究科技術部分析測定室技術職員 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)

期間	主な活動
8月25日	2017年体験！こどもミュージアム@大阪大学「タコを解剖してみよう～動物の解剖から多様性と共通性を見る～」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 後援：豊中市教育委員会、池田市教育委員会、箕面市教育委員会、大阪市教育委員会 協力：大阪大学 21世紀懐徳堂 講師：古屋秀隆 大阪大学大学院理学研究科生物科学専攻准教授 会場：大阪大学全学教育推進機構実験棟)
9月1日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」－大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動⑦「ドキュメンテーション/アーカイヴ Vol.1」を開催した。(講師：dracom 筒井潤氏、横堀ふみ氏、NPO 法人ダンスボックス 大谷燠氏、大阪大学大学院文学研究科准教授 古後奈緒子氏 担当：大阪大学大学院文学研究科准教授 古後奈緒子氏 会場：Art Theater db)
9月2日～9月11日	大阪大学美術部 2017年度夏部展「空想世界地図」を開催した。(主催：大阪大学美術部 共催：大阪大学総合学術博物館 協力：大阪大学 21世紀懐徳堂 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
9月3日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」－大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動⑥「旅・芸の TELESOPHIA」を開催した。(講師：阿波木偶箱まわし保存会、大阪大学大学院文学研究科准教授 渡辺浩司氏、大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 担当：大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場：大阪大学豊中キャンパスサイエンススタジオ B)
9月8日～9月9日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」－大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動⑦「ドキュメンテーション/アーカイヴ Vol.1」を開催した。(講師：dracom 筒井潤氏、横堀ふみ氏、NPO 法人ダンスボックス 大谷燠氏、大阪大学大学院文学研究科准教授 古後奈緒子氏 担当：大阪大学大学院文学研究科准教授 古後奈緒子氏 会場：Art Theater dB、故郷の家・神戸と新長田各所)
9月9日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」－大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動⑤「パフォーミング・ミュージアム Vol.2」を開催した。(講師：劇団このしたやみ 山口浩章氏、大阪大学総合学術博物館長・大阪大学大学院文学研究科教授 永田靖 大阪大学社会学共創本部 / 総合学術博物館助教 横田洋 担当：大阪大学総合学術博物館長・大阪大学大学院文学研究科教授 永田靖 大阪大学社会学共創本部 / 総合学術博物館助教 横田洋 会場：大阪大学豊中キャンパス)
9月10日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」－大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動②「地域文化の研究による発信・顕彰とメディアリテラシー」を開催した。(講師：大阪大学社会学共創本部 / 総合学術博物館教授 橋爪節也 担当：大阪大学社会学共創本部 / 総合学術博物館教授 橋爪節也 会場：大阪大学中之島センター・中之島地区見学)
9月16日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」－大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動①セミナー「大阪の記憶と未来・博物館オリエンテーション」を開催した。(講師：大阪新美術館建設準備室研究主幹 菅谷富夫氏、大阪大学総合学術博物館長 永田靖、大阪大学文学研究科 伊東信宏氏、大阪大学社会学共創本部 / 総合学術博物館教授 橋爪節也、大阪大学社会学共創本部 / 総合学術博物館 上田貴洋、大阪大学総合学術博物館特任講師(常勤) 伊藤謙、大阪大学大学院文学研究科准教授 古後奈緒子氏、大阪大学大学院文学研究科准教授 渡辺浩司氏、大阪大学社会学共創本部 / 総合学術博物館助教 横田洋、大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館、大阪大学 21世紀懐徳堂スタジオ)
9月30日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」－大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動②「地域文化の研究による発信・顕彰とメディアリテラシー」を開催した。(講師：140B 中島淳氏、イラストレーター 成瀬國晴氏、京都芸術大学 藤本英子氏 大阪大学社会学共創本部 / 総合学術博物館教授 橋爪節也 担当：大阪大学社会学共創本部 / 総合学術博物館教授 橋爪節也 会場：堂島ビル会議室、「水の回廊」船上見学)
9月30日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」－大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動⑤「パフォーミング・ミュージアム Vol.2」を開催した。(講師：劇団このしたやみ 山口浩章氏、大阪大学総合学術博物館長・大阪大学大学院文学研究科教授 永田靖 大阪大学社会学共創本部 / 総合学術博物館助教 横田洋 担当：大阪大学総合学術博物館長・大阪大学大学院文学研究科教授 永田靖 大阪大学社会学共創本部 / 総合学術博物館助教 横田洋 会場：大阪大学中之島センター)

期間	主な活動
10月7日	「第18回植物探検隊@秋の待兼山を訪ねて」【1回目】が開催された。(主催：大阪大学21世紀懐徳堂 協力：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
10月7日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動③「自然科学に親しむ・触る・アートする～研究からアートそして発信～」を開催した。(講師：公益財団法人益富地学会館 石橋隆氏、大阪大学社会学共創本部 / 総合学術博物館教授 上田貴洋、大阪大学総合学術博物館特任講師(常勤)伊藤謙、大阪大学総合学術博物館研究員 竹中哲也 担当：大阪大学社会学共創本部 / 総合学術博物館教授 上田貴洋、大阪大学総合学術博物館特任講師(常勤)伊藤謙 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
10月7日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動④「三輪眞弘『新しい時代』の再演」を開催した。(講師：大阪大学大学院文学研究科教授 伊東信宏氏 担当：大阪大学大学院文学研究科教授 伊東信宏氏 会場：大阪大学豊中キャンパス)
10月14日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動⑦「ドキュメンテーション/アーカイブ Vol.1」を開催した。(講師：dracom 筒井潤氏、横堀ふみ氏、NPO 法人ダンスボックス 大谷燠氏、大阪大学大学院文学研究科准教授 古後奈緒子氏 担当：大阪大学大学院文学研究科准教授 古後奈緒子氏 会場：故郷の家・神戸と新長田各所)
10月14日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動③「自然科学に親しむ・触る・アートする～研究からアートそして発信～」を開催した。(講師：インディペンデント・イラストレーター 川崎悟司氏、化石ハンター/パナソニック株式会社 宇都宮聡氏、公益財団法人益富地学会館 石橋隆氏、京都造形芸術大学 柴田純生氏、京都造形芸術大学 山田遼太郎氏、大阪大学社会学共創本部 / 総合学術博物館教授 上田貴洋、大阪大学総合学術博物館特任講師(常勤)伊藤謙、大阪大学総合学術博物館研究員 竹中哲也 担当：大阪大学社会学共創本部 / 総合学術博物館教授 上田貴洋、大阪大学総合学術博物館特任講師(常勤)伊藤謙 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
10月13日～11月10日	2017年度実習展 阪大生がつくった展覧会 2017 ベストA 日程「HOUZAN in New York」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 会場：大阪大学会館 歴史展示室)
10月17日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動⑥「旅・芸の TELESOPHIA」を開催した。(講師：能勢人形浄瑠璃鹿角座、大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 担当：大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場：能勢浄るりシアター)
10月21日	「第18回植物探検隊@秋の待兼山を訪ねて」【2回目】が開催された。(主催：大阪大学21世紀懐徳堂 協力：大阪大学総合学術博物館)
10月21日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動③「自然科学に親しむ・触る・アートする～研究からアートそして発信～」を開催した。(講師：インディペンデント・イラストレーター 川崎悟司氏、化石ハンター/パナソニック株式会社 宇都宮聡氏、公益財団法人益富地学会館 石橋隆氏、京都造形芸術大学 柴田純生氏、京都造形芸術大学 山田遼太郎氏、大阪大学社会学共創本部 / 総合学術博物館教授 上田貴洋、大阪大学総合学術博物館特任講師(常勤)伊藤謙、大阪大学総合学術博物館研究員 竹中哲也 担当：大阪大学社会学共創本部 / 総合学術博物館教授 上田貴洋、大阪大学総合学術博物館特任講師(常勤)伊藤謙 会場：京都造形芸術大学)
10月23日～12月22日	大阪大学総合学術博物館 第10回特別展「演じる私たち～戦後20年関西「新劇」の軌跡～」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：関西学院大学博物館、大阪芸術大学舞台芸術学科舞台美術コース研究室、大阪大学大学院文学研究科、日本舞台美術家協会 西日本支部、かんさい・大学ミュージアム連携実行委員会 協力：大阪大学21世紀懐徳堂 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
10月22日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動②「地域文化の研究による発信・顕彰とメディアリテラシー」を開催した。(講師：140B 中島淳氏 大阪大学社会学共創本部 / 総合学術博物館教授 橋爪節也 担当：大阪大学社会学共創本部 / 総合学術博物館教授 橋爪節也 会場：高津宮)

期間	主な活動
10月28日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」－大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動⑤「パフォーミング・ミュージアム Vol.2」を開催した。(講師：劇団このしたやみ 山口浩章氏、大阪大学総合学術博物館長・大阪大学大学院文学研究科教授 永田靖 大阪大学社会学共創本部 / 総合学術博物館助教 横田洋 担当：大阪大学総合学術博物館長・大阪大学大学院文学研究科教授 永田靖 大阪大学社会学共創本部 / 総合学術博物館 横田洋 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
10月28日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」－大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動③「自然科学に親しむ・触る・アートする～研究からアートそして発信～」を開催した。(講師：インディペンデント・イラストレーター 川崎悟司氏、化石ハンター / パナソニック株式会社 宇都宮聡氏、公益財団法人益富地学会館 石橋隆氏、京都造形芸術大学 柴田純生氏、京都造形芸術大学 山田遼太郎氏、大阪大学社会学共創本部 / 総合学術博物館教授 上田貴洋、大阪大学総合学術博物館特任講師(常勤) 伊藤謙、大阪大学総合学術博物館研究員 竹中哲也 担当：大阪大学社会学共創本部 / 総合学術博物館教授 上田貴洋、大阪大学総合学術博物館特任講師(常勤) 伊藤謙 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
10月28日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」－大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動⑦「ドキュメンテーション / アーカイヴ Vol.1」を開催した。(講師：dracom 筒井潤氏、横堀ふみ氏、NPO 法人ダンスボックス 大谷燠氏、大阪大学大学院文学研究科准教授 古後奈緒子氏 担当：大阪大学大学院文学研究科准教授 古後奈緒子氏 会場：故郷の家・神戸と新長田各所)
11月4日	
11月11日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」－大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動③「自然科学に親しむ・触る・アートする～研究からアートそして発信～」を開催した。(講師：インディペンデント・イラストレーター 川崎悟司氏、化石ハンター / パナソニック株式会社 宇都宮聡氏、公益財団法人益富地学会館 石橋隆氏、京都造形芸術大学 柴田純生氏、京都造形芸術大学 山田 遼太郎氏、大阪大学社会学共創本部 / 総合学術博物館教授 上田貴洋、大阪大学総合学術博物館特任講師(常勤) 伊藤謙、大阪大学総合学術博物館研究員 竹中哲也 担当：大阪大学社会学共創本部 / 総合学術博物館教授 上田貴洋、大阪大学総合学術博物館特任講師(常勤) 伊藤謙 会場：京都造形芸術大学)
11月13日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」－大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動④「三輪眞弘『新しい時代』の再演」を開催した。(講師：大阪大学大学院文学研究科教授 伊東信宏氏 担当：大阪大学大学院文学研究科教授 伊東信宏氏 会場：大阪大学豊中キャンパス)
11月15日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」－大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動⑦「ドキュメンテーション / アーカイヴ Vol.1」を開催した。(講師：dracom 筒井潤氏、横堀ふみ氏、NPO 法人ダンスボックス 大谷燠氏、大阪大学大学院文学研究科准教授 古後奈緒子氏 担当：大阪大学大学院文学研究科准教授 古後奈緒子氏 会場：Art Theater dB)
11月18日	大阪大学総合学術博物館 ミュージアム・レクチャー「戦後大阪の前衛劇－大阪円型劇場研究会・月光会の試み」を開催した。(講師：大阪大学大学院文学研究科招へい研究員 須川渡氏 会場：大阪大学大学院文学部芸術研究棟)
11月18日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」－大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動③「自然科学に親しむ・触る・アートする～研究からアートそして発信～」を開催した。(講師：インディペンデント・イラストレーター 川崎悟司氏、化石ハンター / パナソニック株式会社 宇都宮聡氏、公益財団法人益富地学会館 石橋隆氏、京都造形芸術大学 柴田純生氏、京都造形芸術大学 山田遼太郎氏、大阪大学社会学共創本部 / 総合学術博物館教授 上田貴洋、大阪大学総合学術博物館特任講師(常勤) 伊藤謙、大阪大学総合学術博物館研究員 竹中哲也 担当：大阪大学社会学共創本部 / 総合学術博物館教授 上田貴洋、大阪大学総合学術博物館特任講師(常勤) 伊藤謙 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
11月18日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」－大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動⑦「ドキュメンテーション / アーカイヴ Vol.2」を開催した。(講師：清水翼氏、室谷智子氏、slowcamp 山口良太氏、山崎佳奈子氏、平野舞氏、奈良郁氏、石原菜々子氏、坂井遥香氏、維新派 [2017 年末に解散]、大阪大学大学院文学研究科准教授 古後奈緒子氏 担当：大阪大学大学院文学研究科准教授 古後奈緒子氏 会場：江之子島センター)

期間	主な活動
11月19日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動⑦「ドキュメンテーション/アーカイヴ Vol.1」を開催した。(講師：dracom 筒井潤氏、横堀ふみ氏、NPO 法人ダンスボックス 大谷燠氏、大阪大学大学院文学研究科准教授 古後奈緒子氏 担当：大阪大学大学院文学研究科准教授 古後奈緒子氏 会場：ふたば学舎)
11月24日～12月22日	2017 年度実習展 阪大生がつくった展覧会 2017 ベスト B 日程「浪花百景～風景としての人 風景の中の人～」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 会場：大阪大学会館歴史展示室)
11月26日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動⑦「ドキュメンテーション/アーカイヴ Vol.2」を開催した。(講師：清水翼氏、室谷智子氏、slowcamp 山口良太氏、山崎佳奈子氏、平野舞氏、奈良郁氏、石原菜々子氏、坂井遥香氏、維新派 [2017 年末に解散]、大阪大学大学院文学研究科准教授 古後奈緒子氏 担当：大阪大学大学院文学研究科准教授 古後奈緒子氏 会場：大阪大学中之島センター)
11月28日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動④「三輪眞弘『新しい時代』の再演」を開催した。(講師：IAMAS (情報科学芸術大学院大学) 三輪眞弘氏、IAMAS (情報科学芸術大学院大学) 前田真二郎氏、ナヤ・コレクティブ 福永綾子氏、愛知県芸術劇場 藤井明子氏、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール 宮地泰史氏、大阪大学大学院文学研究科教授 伊東信宏氏 担当：大阪大学大学院文学研究科教授 伊東信宏氏 会場：IAMAS (情報科学芸術大学院大学))
12月2日	大阪大学総合学術博物館 シンポジウム「戦後の関西「新劇」を考える～市民生活と演劇」を開催した。(登壇者：関西学院大学文学部・文学研究科 教授 高岡裕之氏、ジャーナリスト 小山帥人氏、女優・関西芸術座 河東けい氏、演出家・元近畿大学舞台芸術専攻教授・劇団アノニム 菊川徳之助 司会：大阪大学総合学術博物館長・大阪大学大学院文学研究科教授 永田靖 会場：大阪大学豊中キャンパス 基礎工学部国際棟 Σ ホール)
12月2日・12月3日 12月8日・12月9日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動④「三輪眞弘『新しい時代』の再演」を開催した。(講師：IAMAS (情報科学芸術大学院大学) 三輪眞弘氏、IAMAS (情報科学芸術大学院大学) 前田真二郎氏、ナヤ・コレクティブ 福永綾子氏、愛知県芸術劇場 藤井明子氏、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール 宮地泰史氏、大阪大学大学院文学研究科 伊東信宏氏 担当：大阪大学大学院文学研究科教授 伊東信宏氏 会場：愛知県芸術劇場小ホール)
12月2日～12月9日	大阪大学総合学術博物館・豊中市教育センターコラボレーション企画「豊中市立小中学生理科展サテライト展示」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館、豊中市教育センター 共催：豊中市教育委員会 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂、第 12 回女子中高生のための関西科学塾 後援：豊中市 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
12月3日	シンポジウム<具体>再考「第 2 回 1930 年代の前衛」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 シンポジスト：美術評論家、DIC 川村記念美術館学芸課長 光田由里氏、東京国立近代美術館美術課長 大谷 省吾氏、大阪大学総合学術博物館招へい准教授 加藤瑞穂 会場：大阪大学中之島センター)
12月9日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動⑦「ドキュメンテーション/アーカイヴ Vol.2」を開催した。(講師：清水翼氏、室谷智子氏、slowcamp 山口良太氏、山崎佳奈子氏、平野舞氏、奈良郁氏、石原菜々子氏、坂井遥香氏、維新派 [2017 年末に解散]、大阪大学大学院文学研究科准教授 古後奈緒子氏 担当：大阪大学大学院文学研究科准教授 古後奈緒子氏 会場：大阪大学中之島センター)
12月9日	大阪大学総合学術博物館・豊中市教育センターコラボレーション企画「豊中市立小中学生理科展 受賞者による発表会」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館、豊中市教育センター 共催：豊中市教育委員会 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂、第 12 回女子中高生のための関西科学塾 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
12月9日	大阪大学総合学術博物館 ミュージアムレクチャー「関西新劇の二人の舞台美術家—田中照三と板坂晋治」を開催した。(講師：大阪芸術大学舞台芸術学科准教授 堀田充規氏 会場：大阪大学文学部芸術研究棟 芸 3 教室)

期間	主な活動
12月16日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動④「三輪眞弘『新しい時代』の再演」を開催した。(講師：IAMAS (情報科学芸術大学院大学) 三輪眞弘氏、IAMAS (情報科学芸術大学院大学) 前田真二郎氏、ナヤ・コレクティブ 福永綾子氏、愛知県芸術劇場 藤井明子氏、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール 宮地泰史氏、大阪大学大学院文学研究科教授 伊東信宏氏 担当：大阪大学大学院文学研究科教授 伊東信宏氏 会場：あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール)
12月16日・12月17日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動⑤「パフォーミング・ミュージアム Vol.2」を開催した。(講師：劇団このしたやみ 山口浩章氏、大阪大学総合学術博物館長・大阪大学大学院文学研究科教授 永田靖、大阪大学社会学共創本部 / 総合学術博物館助教 横田洋 担当：大阪大学総合学術博物館長・大阪大学大学院文学研究科教授 永田靖、大阪大学社会学共創本部 / 総合学術博物館助教 横田洋 会場：大阪大学 21 世紀懐徳堂スタジオ)
12月17日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動②「地域文化の研究による発信・顕彰とメディアリテラシー」を開催した。(講師：140B 中島淳氏、大阪市史料調査会 古川武志氏、イラストレーター 成瀬國晴氏、京都芸術大学 藤本英子氏、大阪水都の会 藤井薫氏、大阪大学社会学共創本部 / 総合学術博物館教授 橋爪節也 担当：大阪大学社会学共創本部 / 総合学術博物館教授 橋爪節也 会場：高津宮、大正区船上見学)
12月24日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動⑦「ドキュメンテーション / アーカイヴ Vol.2」を開催した。(講師：清水翼氏、室谷智子氏、slowcamp 山口良太氏、山崎佳奈子氏、平野舞氏、奈良郁氏、石原菜々子氏、坂井遥香氏、維新派 [2017 年末に解散]、大阪大学大学院文学研究科准教授 古後奈緒子氏 担当：大阪大学大学院文学研究科准教授 古後奈緒子氏 会場：大阪大学中之島センター)
12月25日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動⑥「旅・芸の TELESOPHIA」を開催した。(講師：大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 担当：大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場：旧一津屋公会堂)
2018年	
1月13日	サイエンスカフェ@中央公民館 No.C-4「自然界をめぐる旅へのいざない—宇宙における時空間の広がりとながり—」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂 講師：大阪大学核物理研究センター 藤田佳孝氏 会場：豊中市立中央公民館)
1月14日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動⑦「ドキュメンテーション / アーカイヴ Vol.2」を開催した。(講師：清水翼氏、室谷智子氏、slowcamp 山口良太氏、山崎佳奈子氏、平野舞氏、奈良郁氏、石原菜々子氏、坂井遥香氏、維新派 [2017 年末に解散]、大阪大学大学院文学研究科准教授 古後奈緒子氏 担当：大阪大学大学院文学研究科准教授 古後奈緒子氏 会場：大阪大学中之島センター)
1月20日	サイエンスカフェ@待兼山 No.142「高温超伝導を探せ!～新物質発見の舞台裏～」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂 講師：大阪大学大学院理学研究科 田島節子氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
1月21日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動②「地域文化の研究による発信・顕彰とメディアリテラシー」を開催した。(講師：140B 中島淳氏、大阪大学共創機構社会学共創本部 / 総合学術博物館教授 橋爪節也 担当：大阪大学共創機構社会学共創本部 / 総合学術博物館教授 橋爪節也 会場：大阪市中央公会堂)
1月21日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動⑥「旅・芸の TELESOPHIA」を開催した。(講師：芝原生活文化研究所・阿波木偶箱まわし保存会 辻本一英氏、能勢浄るりシアター 松田正弘氏、人形芝居えびす座 武地秀実氏、大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 担当：大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場：大阪大学中之島センター)

期間	主な活動
1月27日	サイエンスカフェ@待兼山 No.143 「ハイブリッド民謡の世界：戦前日本の新民謡とフォーク・メタル」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学21世紀懐徳堂 講師：大阪大学大学院文学研究科助教 齋藤桂氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
2月10日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動⑥「旅・芸の TELESOPHIA」を開催した。(講師：人形芝居えびす座、大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 担当：大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場：大阪大学豊中キャンパスサイエンススタジオB)
2月10日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動⑦「ドキュメンテーション/アーカイヴ Vol.2」を開催した。(講師：清水翼氏、室谷智子氏、slowcamp 山口良太氏、山崎佳奈子氏、平野舞氏、奈良郁氏、石原菜々子氏、坂井遥香氏、維新派[2017年末に解散]、大阪大学大学院文学研究科准教授 古後奈緒子氏 担当：大阪大学大学院文学研究科准教授 古後奈緒子氏 会場：大阪大学中之島センター)
2月10日	サイエンスカフェ@中央公民館 No.C-5 「西洋絵画の流れ～フェルメールから中村貞夫まで～」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学21世紀懐徳堂 講師：大阪大学総合学術博物館研究員 竹中哲也 会場：豊中市立中央公民館)
2月17日	サイエンスカフェ@待兼山 No.144 「司法にたどり着けない人々の救済—法テラスと司法ソーシャルワーク」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学21世紀懐徳堂 講師：大阪大学大学院法学研究科 教授 仁木恒夫氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
2月24日	サイエンスカフェ@待兼山 No.145 「生物の無機を化学する」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学21世紀懐徳堂 講師：大阪大学大学院理学研究科教授 船橋靖博氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
2月26日～3月16日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動①「記憶の劇場Ⅱ」クロージング・エキジビション「展覧会『記憶の劇場Ⅱ』」を開催した。(講師：大阪大学総合学術博物館長・大阪大学大学院文学研究科教授 永田靖、大阪大学共創機構社会学共創本部/総合学術博物館教授 橋爪節也、大阪大学共創機構社会学共創本部/総合学術博物館教授 上田貴洋、大阪大学総合学術博物館特任講師(常勤)伊藤謙、大阪大学共創機構社会学共創本部/総合学術博物館助教 横田洋、大阪大学大学院文学研究科教授 伊東信宏、大阪大学大学院文学研究科准教授 古後奈緒子氏、大阪大学大学院文学研究科准教授 渡辺浩司氏、大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
3月3日	サイエンスカフェ@待兼山 No.146 「“電子の目”でみる新しい世界」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学21世紀懐徳堂 講師：大阪大学総合学術博物館特任講師(常勤)伊藤謙、株式会社日立ハイテクノロジーズ 久保山拓之氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
3月4日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動④「三輪眞弘『新しい時代』の再演」を開催した。(講師：IAMAS(情報科学芸術大学院大学)前田真二郎氏、大阪大学大学院文学研究科教授 伊東信宏氏 担当：大阪大学大学院文学研究科教授 伊東信宏氏 会場：大阪大学21世紀懐徳堂スタジオ)
3月9日・3月12日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動⑥「旅・芸の TELESOPHIA」を開催した。(講師：ちんどん通信社、大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎 達哉 担当：大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場：大阪大学豊中キャンパス～いしばし商店街)
3月10日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動①「記憶の劇場Ⅱ」クロージング・シンポジウムを開催した。(講師：大阪大学総合学術博物館長・大阪大学大学院文学研究科教授 永田靖、大阪大学共創機構社会学共創本部/総合学術博物館教授 橋爪節也、大阪大学共創機構社会学共創本部/総合学術博物館教授 上田貴洋、大阪大学総合学術博物館特任講師(常勤)伊藤謙、大阪大学共創機構社会学共創本部/総合学術博物館助教 横田洋、大阪大学大学院文学研究科教授 伊東信宏、大阪大学大学院文学研究科准教授 古後奈緒子氏、大阪大学大学院文学研究科准教授 渡辺浩司氏、大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場：大阪大学豊中キャンパス 21世紀懐徳堂スタジオ)

期間	主な活動
3月10日	サイエンスカフェ@待兼山 No.147「子どもの事故は誰が防ぐ？子ども、親、地域がすべきこと」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂 講師：大阪大学大学院人間科学研究科特任研究員 岡真裕美氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
3月11日	大阪大学総合学術博物館「記憶の劇場Ⅱ」—大学博物館を活用する文化芸術ファシリテーター育成講座 活動⑥「旅・芸の TELESOPHIA」を開催した。(講師：ちんどん通信社、大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 担当：大阪大学総合学術博物館特任研究員 山崎達哉 会場：大阪大学豊中キャンパス 21 世紀懐徳堂スタジオ)
3月17日	サイエンスカフェ@豊中市立中央公民館 No.C-6「博物館資料を使った動物化石の研究」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂 講師：大阪大学総合学術博物館技術補佐員 (研究支援推進員) 半田直人 会場：豊中市立中央公民館)

# 入館者数及びアンケート集計結果一覧

・2017年度 大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 入館者数

(単位：人)

第21回企画展

会期：4月26日(水)～8月5日(土)

入館者数：7,811人

第10回特別展

会期：10月23日(月)～12月22日(金)

入館者数：4,347人

休館日：日曜・祝日

ただし、下記の日は開館

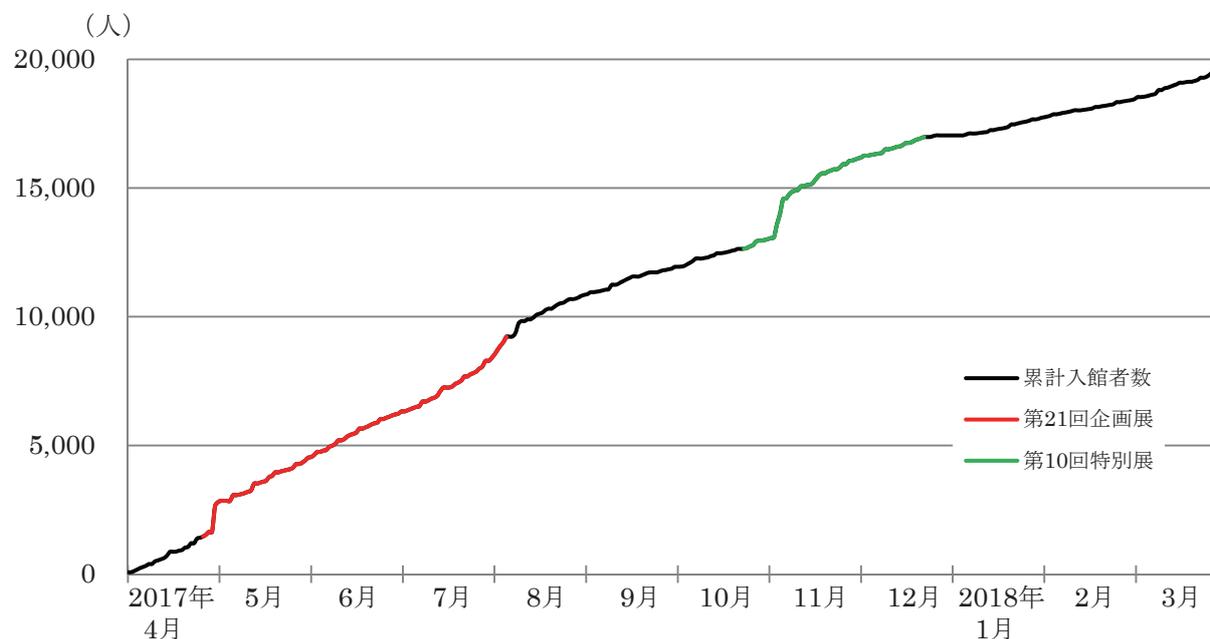
4月30日(日)、11月3日(祝)・5日(日)

年末年始休業およびメンテナンス休館：

12月27日(水)・28日(木)

～2018年1月4日(木)

	入館者数
2017年4月	2,638
5月	1,886
6月	1,710
7月	2,154
8月	2,464
9月	1,086
10月	1,079
11月	3,133
12月	897
2018年1月	705
2月	648
3月	1,320
合計	19,720



※以下の内容のアンケート（任意記入）を実施した。

## 大阪大学総合学術博物館－待兼山修学館 アンケート

本日はご来館いただき誠にありがとうございます。今後の参考のため、皆様のご意見・ご感想をお聞かせください。以下の項目の該当する欄にチェック  をつけてください。

- 来館日 \_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日 ( )
- 年齢 10代未満 10代 20代 30代 40代  
50代 60代 70代以上
- 住所 大阪府 京都府 兵庫県 奈良県 和歌山県 滋賀県  
その他 ( )
- 学年 小学生未満 小学生 中学生 高校生 大学生・大学院生 (阪大)  
大学生・大学院生 (阪大以外) 専門学校生 一般 ( )
- 大阪大学総合学術博物館－待兼山修学館についてお尋ねします。

Q1 どのようにして当館をお知りになりましたか？（複数可）

- 通りがかり パンフレット ホームページ ガイドブック等
- 友人・知人より その他 ( )

Q2 どの展示ゾーンが面白かったですか？（複数可）

- 1階 玄関ホールのマチカネワニ 世界にはばたく研究者  
コンピュータの黎明期
- 2階 大阪大学の系譜 みる科学
- 3階 待兼山に学ぶ
- R階 自然教室  
その他 ( )

Q3 来館は何回目ですか？

- はじめて 2回目 3回目 4回目以上

Q4 その他ご意見・ご感想などをお書き下さい。

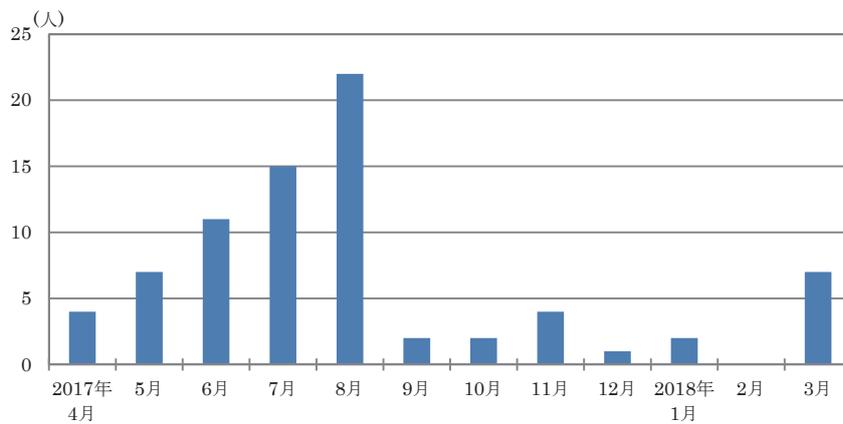
アンケートにお答え頂きありがとうございました。

貴重なご意見・ご感想などを今後の総合学術博物館発展のため、参考とさせていただきます。

大阪大学総合学術博物館

・アンケート集計結果

◆ アンケート回答総数



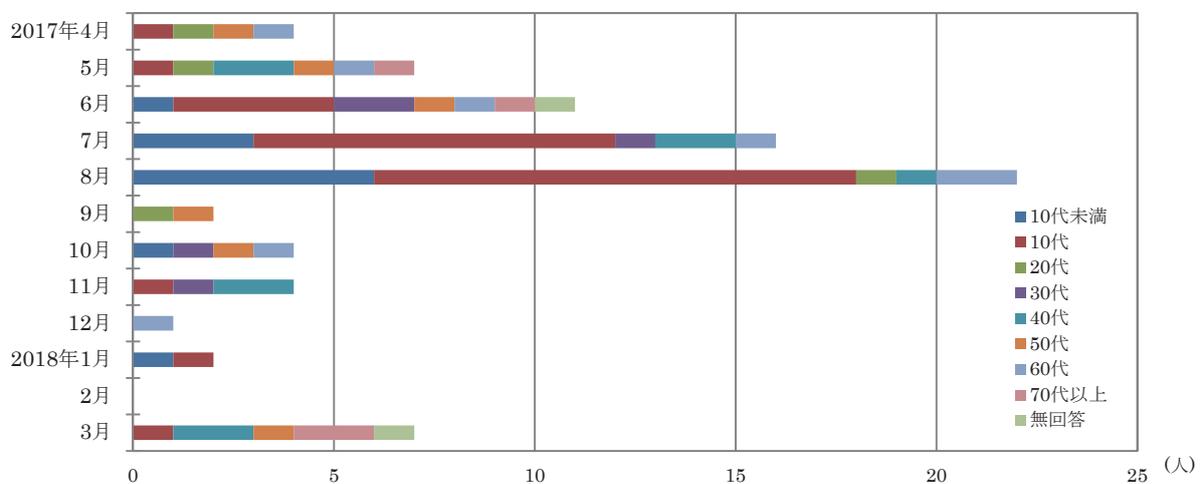
(単位：人)

2017年4月	4
5月	7
6月	11
7月	15
8月	22
9月	2
10月	2
11月	4
12月	1
2018年1月	2
2月	0
3月	7
合計	77

■ 年齢分布

(単位：人)

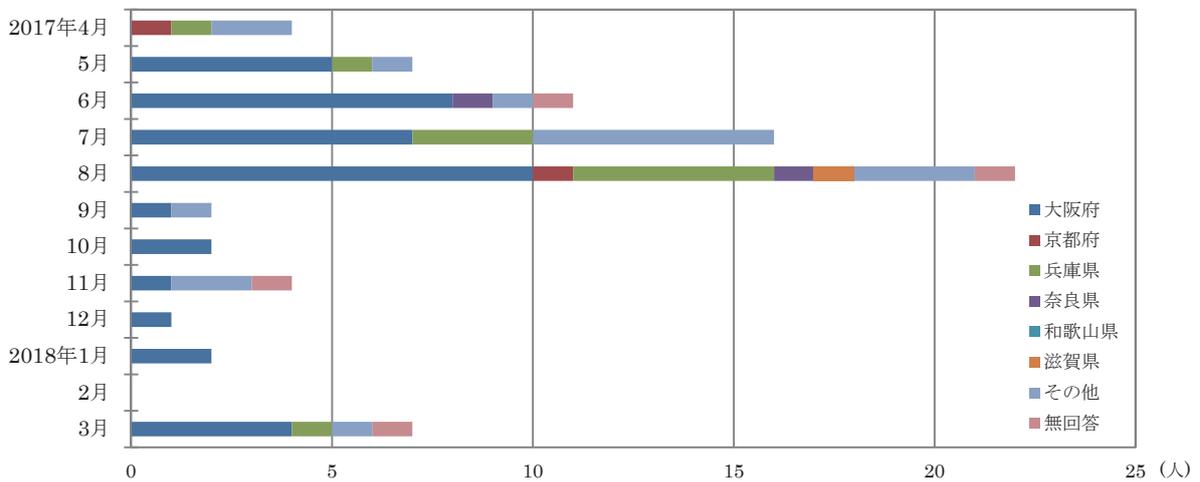
	10代未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答
2017年4月	0	1	1	0	0	1	1	0	0
5月	0	1	1	0	2	1	1	1	0
6月	1	4	0	2	0	1	1	1	1
7月	3	9	0	1	2	0	1	0	0
8月	6	12	1	0	1	0	2	0	0
9月	0	0	1	0	0	1	0	0	0
10月	1	0	0	1	0	1	1	0	0
11月	0	1	0	1	2	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0	1	0	0
2018年1月	1	1	0	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	0	1	0	0	2	1	0	2	1
合計	12	30	4	5	9	6	8	4	2



## ■ 住所分布

(単位：人)

	大阪府	京都府	兵庫県	奈良県	和歌山県	滋賀県	その他	無回答
2017年4月	0	1	1	0	0	0	2	0
5月	5	0	1	0	0	0	1	0
6月	8	0	0	1	0	0	1	1
7月	7	0	3	0	0	0	6	0
8月	10	1	5	1	0	1	3	1
9月	1	0	0	0	0	0	1	0
10月	2	0	0	0	0	0	0	0
11月	1	0	0	0	0	0	2	1
12月	1	0	0	0	0	0	0	0
2018年1月	2	0	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	4	0	1	0	0	0	1	1
合計	41	2	11	2	0	1	17	4



## ● その他 内訳

◎アンケート記載の内容を可能な限りそのまま転記。

2017年4月  
・栃木県

5月  
・門真市

6月  
・岡山

7月  
・熊本  
・鳥取県 (2名)  
・千葉県  
・東京

8月  
・神奈川県  
・富山県  
・オランダ

9月  
・北海道

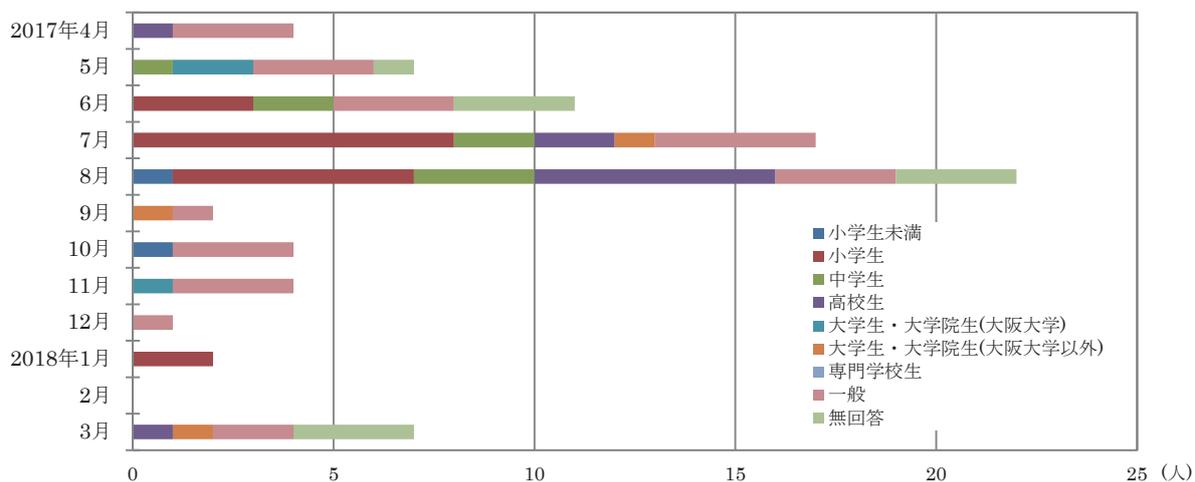
11月  
・東京都  
・愛知県

2018年3月  
・三重

■ 入館者学年分布

(単位：人)

	小学生 未満	小学生	中学生	高校生	大学生 大学院生 (大阪大学)	大学生 大学院生 (大阪大学以外)	専門 学校生	一般	無回答
2017年4月	0	0	0	1	0	0	0	3	0
5月	0	0	1	0	2	0	0	3	1
6月	0	3	2	0	0	0	0	3	3
7月	0	8	2	2	0	1	0	4	0
8月	1	6	3	6	0	0	0	3	3
9月	0	0	0	0	0	1	0	1	0
10月	1	0	0	0	0	0	0	3	0
11月	0	0	0	0	1	0	0	3	0
12月	0	0	0	0	0	0	0	1	0
2018年1月	0	2	0	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	1	0	1	0	2	3
合計	2	19	8	10	3	3	0	26	10



● 一般 内訳

◎アンケート記載の内容を可能な限りそのまま転記。

2017年4月

・無職

8月

・公務員

5月

・主婦

11月

・公務員

7月

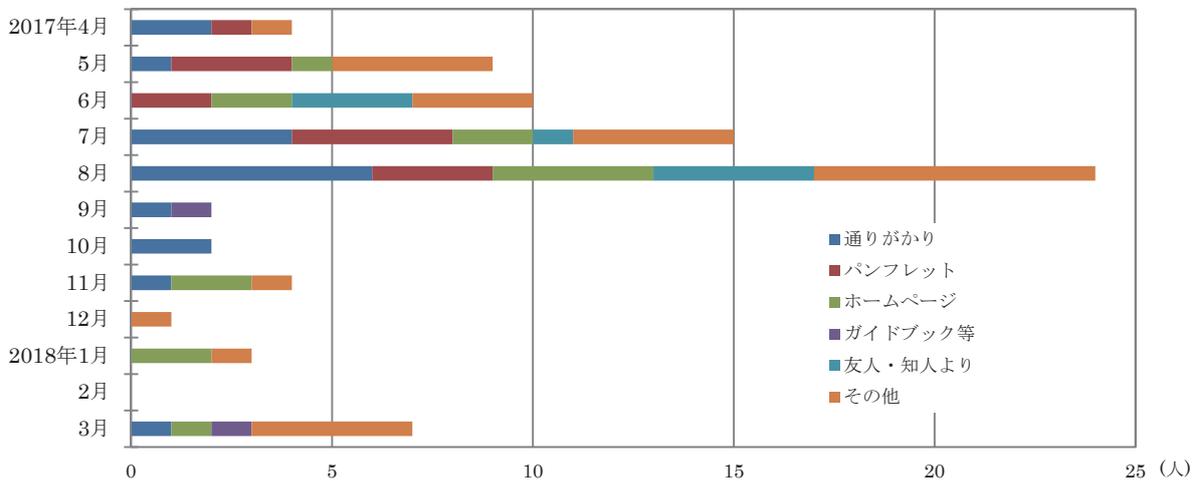
・会社員

■ 大阪大学総合学術博物館 — 待兼山修学館についてお尋ねします。

Q1 どのようにして当館をお知りになりましたか？（複数可）

（単位：人）

	通りがかり	パンフレット	ホームページ	ガイドブック等	友人・知人より	その他
2017年4月	2	1	0	0	0	1
5月	1	3	1	0	0	4
6月	0	2	2	0	3	3
7月	4	4	2	0	1	4
8月	6	3	4	0	4	7
9月	1	0	0	1	0	0
10月	2	0	0	0	0	0
11月	1	0	2	0	0	1
12月	0	0	0	0	0	1
2018年1月	0	0	2	0	0	1
2月	0	0	0	0	0	0
3月	1	0	1	1	0	4
合計	18	13	14	2	8	26



● その他 内訳

◎アンケート記載の内容を可能な限りそのまま転記。

2017年4月

- ・ 卒業生

5月

- ・ 前から知っていた
- ・ チラシ
- ・ 時々見学している

6月

- ・ 近所だから
- ・ テレビで見て

7月

- ・ 校外学習
- ・ 学校の行事
- ・ 学校のなにか

8月

- ・ サマーセミナー
- ・ 兄のサマーセミナー
- ・ 新聞
- ・ 大学説明会
- ・ 大学のキャンパスツアー
- ・ オープンキャンパス（2名）

11月

- ・ 中之島で
- ・ 広大・愛媛大とのコラボ

12月

- ・ 前から知っている

2018年1月

- ・ いとこ 父 姉

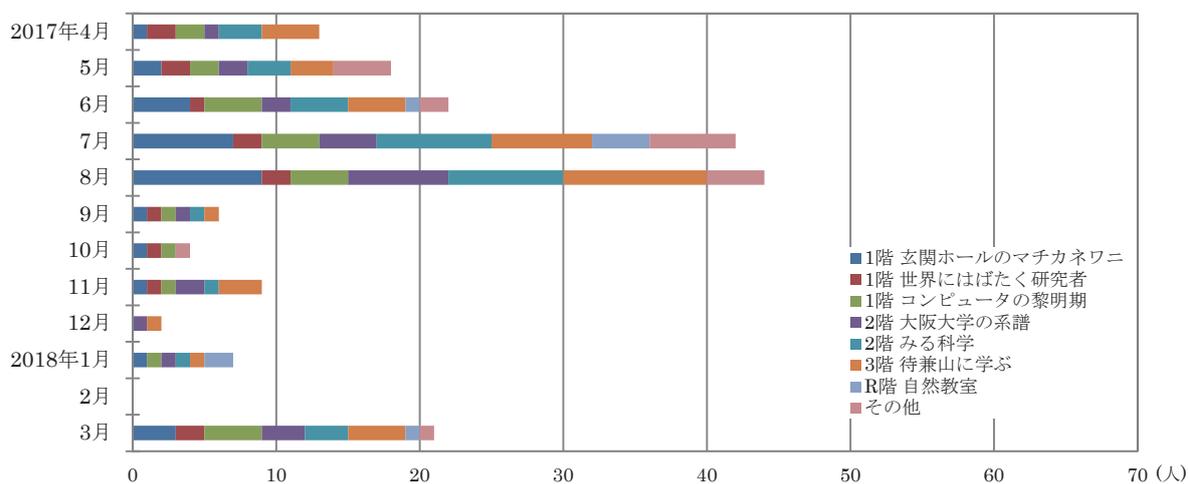
3月

- ・ 7年程前に来館したことがあり 今日ふと来てみようかと思った。
- ・ 本
- ・ 散歩道

Q2 どの展示ゾーンが面白かったですか？（複数可）

（単位：人）

	1 階			2 階		3 階	R 階	その他
	玄関ホールのマチカネワニ	世界にはばたく研究者	コンピュータの黎明期	大阪大学の系譜	みる科学	待兼山に学ぶ	自然教室	
2017年4月	1	2	2	1	3	4	0	0
5月	2	2	2	2	3	3	0	4
6月	4	1	4	2	4	4	1	2
7月	7	2	4	4	8	7	4	6
8月	9	2	4	7	8	10	0	4
9月	1	1	1	1	1	1	0	0
10月	1	1	1	0	0	0	0	1
11月	1	1	1	2	1	3	0	0
12月	0	0	0	1	0	1	0	0
2018年1月	1	0	1	1	1	1	2	0
2月	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	3	2	4	3	3	4	1	1
合計	30	14	24	24	32	38	8	18



● その他 内訳

◎アンケート記載の内容を可能な限りそのまま転記。

2017年5月

- ・ロボット展（4名）

6月

- ・ロボット展（2名）

7月

- ・ロボット展（5名）

8月

- ・ロボット展（2名）
- ・なし

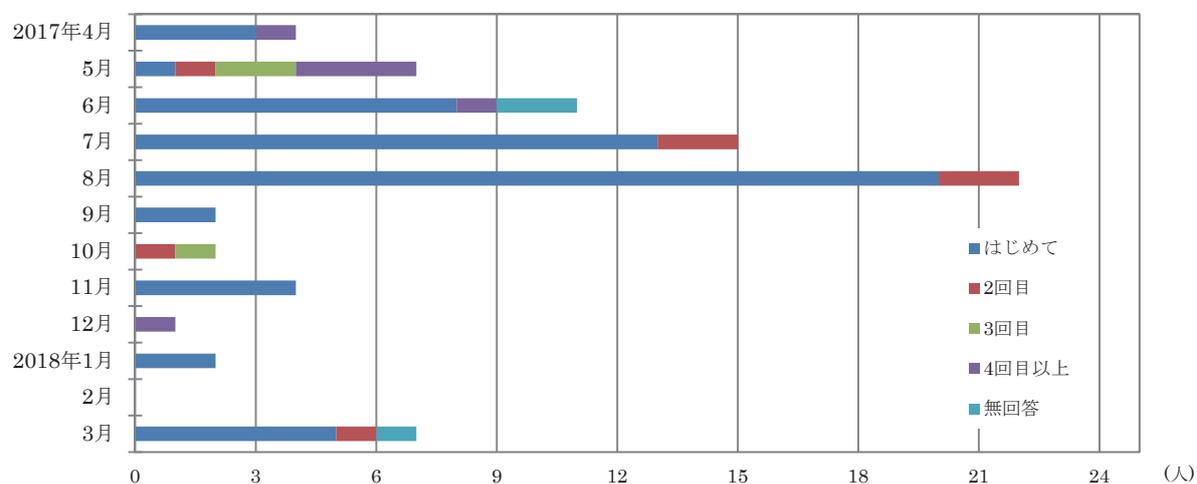
10月

- ・ロボット展

Q3 来館は何回目ですか？

(単位：人)

	はじめて	2回目	3回目	4回目以上	無回答
2017年4月	3	0	0	1	0
5月	1	1	2	3	0
6月	8	0	0	1	2
7月	13	2	0	0	0
8月	20	2	0	0	0
9月	2	0	0	0	0
10月	0	1	1	0	0
11月	4	0	0	0	0
12月	0	0	0	1	0
2018年1月	2	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0
3月	5	1	0	0	1
合計	58	7	3	6	3



Q4 その他ご意見・ご感想などをお書きください。

◎ アンケート記載の内容を可能な限りそのまま転記。

● 2017年4月

- ・すばらしいミュージアムです。広くPRしていただければと思います
- ・昔日を懐かしく思い出すことができました。  
特に、産業用ロボットを使った装置開発に携っていた頃の様々な苦勞が懐かしい。  
科学、技術の進歩には、驚きをもって、感動させられるばかりです。

● 5月

- ・色々とお教え頂きありがとうございました
- ・いつも勉強させていただいています
- ・実際にロボットが動いているところが見てみたかったです。
- ・HANDAI ロボットの世界は、この40年で活きたのです。  
これから、AI（人工知能）は人間によって進化を続けどこへゆくのですか？  
答えは、何百年後の人が知っている。

● 6月

- ・とてもおもしろかった
- ・センダイ細胞のすごさが理解できなかった…(何度読んでもわからなかった。理系が苦手なので余計に)思っていたより見応えがあって楽しかったです！頭が悪いのでガイドさんについてほしい(笑)
- ・昔の医短が保存されているのを初めて知って、とても良かったです。
- ・阪大の開学前から現在までの歴史を知ることができた。知らないことが多かったが、これぞ阪大という研究果をたくさん学ぶことができた。文・法・経に関することも知りたいと思いました。
- ・おもしろかったです！！グット ※手のイラスト付き
- ・ロボットとふれあえる所があったらいいなと思った。
- ・近くに実家があり時々来ていました。
- ・老年となり月にボーエンキョウが日本で設けられないか、多分無理だろうな。が考えたこと。宇宙は次元の異なるところ、人間が行って生活する処ではないロボットが全てである、ロボットで完結するボーエンキョウを月に作るが第一の課題であろうが、ロボット展を見て遠くになった。材料工学が目につく、筋肉も大きな課題だが人間にこだわらない動物にこだわらない視野が必要ではないか、遠くなって失望した騒ぎの方が大きい。
- ・1階入口左 八木秀次の年譜  
1950年 文化勲章を受賞←×まちがい、○受章  
隣の菊池正士も×1951年  
湯川秀樹は○1943年  
長岡半太郎○1937年

● 7月

- ・もっと面白いものをそろえてください
- ・他にきかくでUFOやUMAなどのきかくをすると面白いと思います。
- ・電車のき画をしてほしい
- ・暑い クーラー もうちょい ガンガンで
- ・もう少し（北海道大のように）蔵品展示があれば良いかな？と思いました。
- ・いつもしれないことがしれた。
- ・楽しかったです。
- ・ロボット展が目的でしたが最近のまわりの盛り上りを含めて実に興味深いものでした
- ・阪大についても学ばせて頂きました。
- ・小さい息子が マチカネワニの生態を知りたかったらしく、色々知られてよかったです。スタッフの方から書籍を紹介していただき、助かりました。
- ・ロボットに毎日動くようにしたらいいと思います。

● 8月

- ・きゅうけいブースを作ってほしい
- ・このような博物館があったのすごかったです。  
本日は閉館になってとちゅうまでしか見られなかったけどまた来てもっと勉強したいです。
- ・今日は、サマーセミナーで来ましたが、見学としても来てみたいです。また、全部見られなくて残念でした。
- ・子供でも分かりやすく楽しめるブースを作ってほしい  
(例) 実際に自分で操作できるサッカーロボットや実際に決まったじかんに試合をしてくれるサッカーロボ

- ・阪大の研究には、目を輝かせられる物がたくさんありました。  
ひじょうにおもしろかったです。
- ・ロボットの展示を見に来ました。全体としてかなり楽しめました、  
ありがとうございました
- ・日本学士院の先生をもっと招致して下さい
- ・かせきが大きくてびっくりした。
- ・この周辺でワニがいたとはビックリした
- ・化石がすごかった
- ・おもしろかったです。
- ・マチカネくんとワニ博士は同じキャラクターですか？
- ・マチカネワニの本物の化石のQRコードを読み込んだらどうなるか気になります。
- ・マチカネワニと3ショットを撮りました。みんなに自慢します
- ・ワニ化石が大きくて迫力があって良かったです。
- ・大阪大学のことがよく分かりました。すばらしい施設だと思います。
- ・よいと思います
- 9月
  - ・ビデオや展示物が多く、たいへん楽しく見ることができました。又、来たいと思います。
  - ・屋上がさびしかった。見ている方向に何があるなどの紹介パネル等があるといいと思った。
- 10月
  - ・阪大のことを人や環境等の角度から知ることができてよかった。
  - ・インドの高僧のテーマでお願いします。
- 11月
  - ・もっと早くに拝観しておくべきだったと後悔する程、いい歳の大人が楽しめました。  
進学や将来に悩む一自身もその一人でした。若い世代やお子さんがたくさん見て学ぶことで日本に優秀な人財育成できるかと思いました。待兼ワニと共に広く普及して欲しいです。ありがとうございました。
  - ・阪大は理系にルーツがあるのだな とわかりました。(理系の展示が多かったのぞ)
  - ・新劇の特別展を拝見。労働運動と演劇のむすびつきについて知るきっかけとなりました。一般的にはとても“マニアック”な企画ですが、私個人的には大大大満足でした。
  - ・テレビ番組「マツコの知らない世界」で大学博物館の紹介があり、調べたところ幾つか見つか、博物館のことは知っていた。  
大阪に行く用事があったので立ち寄ったが、入り口のマチカネワニ骨格は迫力があってよかった。反面 理工系の展示については、自身が文学部だったこともあり、正直なところ難解であった。
- 12月
  - ・地味な催しですが参考になりました。
- 1月
  - ・すごく楽しかった
- 3月
  - ・展示室の撮影などをされていて、集中して順路を回ることができなかった。  
開館時間以外に行ってほしいです。  
展示は面白かったです。
  - ・7年前に来館した時よりも展示の仕方が良くなってとてもわかりやすくなっていた。  
前回はあまり時間がなかった為、ゆっくりと展示物を見て回る事が出来て良かった。  
これからも展示物を増やして行って欲しい。(場所の問題もあると思いますが)
  - ・集計お疲れ様です。
  - ・自宅が近隣のため初の来訪、感激しました。  
アベックで来る場合 1F で待つ事もあるので長椅子をセットして頂くと助かります。
  - ・大変勉強になりました。
  - ・大阪市立自然史博物館でマチカネワニになじんでいたのぞ、実物が観たいと思って来ました。企画展などがあればまた来館したい。
  - ・非常に興味深かったので、次は子供を連れてきたいです。

# 団体見学一覧

※事前に申し込みのあった団体のみを掲載

No.	月日	曜日	団体名	人数	説明館員
2017年					
1	4月10日	月	共通教育「大阪大学の歴史」	61	
2	4月14日	金	大阪大学 新入職員研修	44	宮久保・半田
3	4月15日	土	阪大理学部化学科 新入生研修	77	上田・半田
4	4月20日	木	阪大経済学部第17期同期会	29	
5	4月22日	土	第17回植物探検隊@春の待兼山周辺	27	
6	4月24日	月	兵庫教育大学 地球科学A	46	
7	4月24日	月	共通教育「考古学基礎A」	63	
8	4月24日	月	理学研究室 久野研究室（グローニンゲン大学）	26	伊藤
9	4月26日	水	ニッポン・アクティブライフ・クラブ	18	横田
10	4月28日	金	京都府立城南菱創高等学校	39	宮久保
11	5月13日	土	第17回植物探検隊@春の待兼山周辺	27	
12	5月18日	木	兵庫県小学校退職校長会 西宮支部	9	
13	5月18日	木	浜屋敷 吹田まち案内人	58	豊田
14	5月19日	金	基礎セミナー「アーカイブズの世界に触れる」	5	
15	5月30日	火	龍谷大学付属平安高等学校 3年12組	33	伊藤
16	5月31日	水	宇宙地球の考え方	42	
17	6月2日	金	NPO 法人とよなか・歴史と文化の会	29	
18	6月7日	水	モンクット王工科大学 トンブリ大学 MONOTSUKURI 研究チーム	20	
19	6月7日	水	大阪府高齢者大学校	28	
20	6月7日	水	宇宙地球の考え方	47	
21	6月9日	金	大阪北部コミュニティーカレッジ 街道と水運の史跡を探る科	23	豊田
22	6月13日	火	奈良学園登美ヶ丘中学校	52	
23	6月14日	水	宇宙地球の考え方	44	
24	6月15日	木	田園A地区婦人学級	17	高橋
25	6月17日	土	愛媛県立今治西高等学校 PTA 研修旅行	22	半田
26	6月21日	水	宇宙地球の考え方	41	
27	6月26日	月	和泉市総務部 人権・男女参画室 人権国際担当	15	
28	6月28日	水	老大28期卓球同好会	13	
29	7月4日	火	NK-170703-JNIT	15	
30	7月10日	月	兵庫県立西宮高等学校	32	
31	7月11日	火	金光八尾高等学校	31	伊藤 (MA1名)
32	7月13日	木	パナソニック電池ハイキング部会	41	
33	7月14日	金	帝塚山中学校 3年女子英数コース	45	宮久保
34	7月14日	金	箕面市中小地区 民生委員児童委員	12	
35	7月14日	金	近畿大学付属高等学校	76	上田・半田
36	7月19日	水	箕面市萱野北小地区社会福祉協議会	13	豊田
37	7月19日	〃	雲雀丘学園中学校 1年有志	43	
38	7月20日	木	NPO 法人 大阪府北部コミュニティーカレッジ(シニアのための大学校)	30	宮久保
39	7月21日	金	学校法人湯梨浜学園 湯梨浜学園中学校高等学校 PTA	20	
40	7月25日	火	Lady Bug (英語塾)	14	
41	7月27日	木	兵庫県立淡路三原高等学校 サイエンスコース	42	
42	7月31日	月	スマイルブーケ放課後等デイサービスたんぼぼハウス・クラブ	27	
43	8月2日	水	兵庫県立北摂三田高等学校	51	豊田
44	8月4日	金	チャイルドハート豊中桜塚	17	
45	8月5日	土	第21回企画展 浅田稔工学研究科教授引率の小中学生	30	
46	8月8日	火	阪大理学部生物 (生物学野外実習)	18	高浦 (案内)
47	8月15日	火	高知市立西部中学校サッカー部	27	
48	8月18日	金	兵庫県立御影高等学校	39	
49	8月18日	金	兵庫県立御影高等学校 PTA	31	宮久保
50	8月22日	火	韓国仲南(チュウナム)大学	17	
51	8月30日	水	昭和薬科大学付属高等学校	27	伊藤
52	9月9日	土	NHK文化センター西宮ガーデンズ教室	27	

No.	月日	曜日	団体名	人数	説明館員
53	9月9日	土	NHK文化センター梅田教室	36	
54	10月4日	水	島根県立松江南高等学校	41	
55	10月6日	金	島根県立松江南高等学校	37	
56	10月6日	金	NPO 法人とよなか・歴史と文化の会	23	
57	10月7日	土	第18回植物探検隊@秋の待兼山を訪ねて	18	
58	10月12日	木	鳥取県立米子東高等学校 PTA 進路委員会	34	半田
59	10月18日	水	「花いち」シニアクラブ	6	豊田
60	10月25日	水	京都東山高等学校	36	宮久保
61	10月26日	木	中国医療交流基金会	24	
62	10月27日	金	Gwangyang Baegun High School in korea	104	豊田
63	10月27日	金	大阪府立南大阪高等職業技術専門校	23	
64	11月8日	水	三郷町人権教育推進協議会	48	豊田
65	11月8日	水	木更津工業高等専門学校 電子制御工学科4年	42	
66	11月11日	土	医短9期看護学科 同窓会	18	
67	11月16日	木	中国医療交流基金会	19	
68	11月16日	木	奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校育友会	42	豊田
69	11月16日	木	阪神間美術館博物館連絡協議会	19	宮久保
70	11月16日	木	兵庫県立宝塚北高等学校	42	豊田
71	11月20日	月	奈良市立一条高等学校 数理科学科	44	上田
72	11月22日	水	三重県立松坂高等学校 PTA	20	上田
73	11月24日	金	ナルクわかばの会	22	半田
74	11月24日	金	一般社団法人 日本経営士会近畿支部	11	宮久保
75	11月25日	土	OKS46(阪大工学部精密工学科 昭和44年入学者)	19	
76	11月30日	木	さくらサイエンスプランによるアジアの各大学の教員	11	豊田
77	12月15日	金	トンボのメガネ	16	豊田
78	12月19日	火	大阪大学日米学生会	15	
2018年					
79	1月13日	土	理学研究科 久野研究室 さくらサイエンスプログラム	12	
80	1月26日	金	箕面自由学園中学校	16	宮久保
81	1月30日	火	豊中市身体障害者福祉会	20	
82	2月1日	木	大阪国際空港就航都市事務担当者会議	16	半田
83	2月17日	土	医療法人社団 金匱会診療所・(株)ツムラ	3	
84	3月12日	月	阿賀町立三川中学校	25	上田
85	3月16日	金	兵庫県立豊岡高等学校	13	
86	3月28日	水	福岡県立八幡高等学校1年生	19	

# 関連記事一覧

## 新聞

※教員関連の記事は「11. 教員活動報告」のそれぞれの教員の項に記載

No.	掲載日	曜日	掲載紙名	内容
2017年				
1	4月27日	木	朝日新聞 夕刊	つれづれ彩時記 「大大阪」妄想紀行（橋爪 節也コメント掲載）
2	5月20日	土	読売新聞 夕刊	〈エキタビ〉阪急宝塚線 石橋駅（池田市） 歴史伝える「いわれ石」
2018年				
36	1月4日	木	毎日新聞 朝刊 14面	四大文明 中村貞夫展 4月27日から

## その他 刊行物

※教員関連の記事は「11. 教員活動報告」のそれぞれの教員の項に記載

No.	掲載誌 / 発行	発行日 / 巻 / 号 他	内容
1	広報とよなか	2017年4月号/Vol.804	4月のお知らせ（文化・にぎわい） ロボット展について
2	広報いけだ / 池田市	2017年4月1日/ 第1157号	みゅうじあむ・がいで 企画展「HANDAI ロボットの世界—形・動きからコミュニケーションそしてココロの創生へ—」
3	はろーあさひ 阪田新聞舗 川西山下店 ときわ台店	2017年4月24日	第21回企画展「HANDAI ロボットの世界—形・動きからコミュニケーションそしてココロの創生へ—」
4	学びの情報 / 吹田市 生涯学習推進本部	2017年4月～7月号	第21回企画展「HANDAI ロボットの世界—形・動きからコミュニケーションそしてココロの創生へ—」
5	いちょう並木 / 大阪市 教育委員会	2017年4月10日/ No.411	おおさか KEY わーど 第78回大阪を知るための100の言葉とモノの世界 目から鱗の昼食会 その手があったん～と思いました
6	広報いけだ / 池田市	2017年5月1日/ 第1158号	ミュージアムガイド 第21回企画展「HANDAI ロボットの世界 —形・動きからコミュニケーションそしてココロの創生へ—」
7	Hell! Doctor	2017年5月10日/ 初夏号 No.84	初夏の展覧会のご案内 第21回企画展「HANDAI ロボットの世界 —形・動きからコミュニケーションそしてココロの創生へ—」
8	広報いけだ / 池田市	2017年6月1日/ 第1159号	ミュージアムガイド 第21回企画展「HANDAI ロボットの世界 —形・動きからコミュニケーションそしてココロの創生へ—」
9	いちょう並木 / 大阪市 教育委員会	2017年5月10日/ No.412	おおさか KEY わーど 第79回 かくの如く死せず、日また日…
10	いちょう並木 / 大阪市 教育委員会	2017年6月10日/ No.413	おおさか KEY わーど 第80回 ようやく開かれる大回顧展 大阪の郷土的色彩の一大パノラマ
11	阪急沿線情報誌 TOKK	2017年7月1日号	Science 第21回企画展 HANDAI ロボットの世界
12	広報いけだ / 池田市	2017年7月1日/ 第1160号	ミュージアムガイド 第21回企画展「HANDAI ロボットの世界 —形・動きからコミュニケーションそしてココロの創生へ—」
13	広報とよなか	2017年7月号/Vol.807	7月のお知らせ（文化・にぎわい） 中学生のためのロボット・ワークショップ
14	いちょう並木 / 大阪市 教育委員会	2017年7月10日/ No.414	おおさか KEY わーど 第81回 大阪人の心の奥にひそむ懐かしさ
15	広報いけだ / 池田市	2017年8月1日 第1161号	ミュージアムガイド 第21回企画展「HANDAI ロボットの世界 —形・動きからコミュニケーションそしてココロの創生へ—」
16	いちょう並木 / 大阪市 教育委員会	2017年8月10日 No.415	おおさか KEY わーど 第82回夕涼み、懐かしの夏のしのぎ方
17	広報いけだ / 池田市	2017年9月1日 第1162号	ミュージアムガイド 大阪大学美術部 2017年度夏部展「空想世界地図」
18	いちょう並木 / 大阪市 教育委員会	2017年9月10日 No.416	おおさか KEY わーど 第83回 なにやら、境内が賑わっているそうなの。
19	豊中市 子こ育て Toyonaka	2017年9月	総合学術博物館

## その他 刊行物

※教員関連の記事は「11. 教員活動報告」のそれぞれの教員の項に記載

No.	掲載誌 / 発行	発行日 / 巻 / 号 他	内容
20	広報いけだ / 池田市	2017年10月1日 第1163号	ミュージアムガイド 第10回特別展「演じる私たち～戦後20 関西「新劇」の軌跡～」
21	いちょう並木 / 大阪市教育委員会	2017年10月10日 NO.417	おおさか KEY わーど 第84回兼葭堂の師匠、大坂を闊歩す
22	はろーあさひ第402号 阪田新聞舗 川西山下店 ときわ台店	2017年10月30日	第10回特別展「演じる私たち～戦後20 関西「新劇」の軌跡～」
23	広報いけだ / 池田市	2017年11月1日 第1164号	ミュージアムガイド 第10回特別展「演じる私たち～戦後20 関西「新劇」の軌跡～」
24	いちょう並木 / 大阪市教育委員会	2017年11月10日 No.418	おおさか KEY わーど 第85回濃密な自空間を求めて、小さな船旅
25	City Life 北摂 WEST 版	2017年12月Vol.178	北摂イベント 第10回特別展「演じる私たち～戦後20 関西「新劇」の軌跡～」
26	広報いけだ / 池田市	2017年12月1日 第1165号	ミュージアムガイド 第10回特別展「演じる私たち～戦後20 関西「新劇」の軌跡～」
27	ともも	NO.171 (12月4日発刊12 月1月合併号)	とももメッセージボード 第10回特別展「演じる私たち～戦後20 関西「新劇」の軌跡～」
28	いちょう並木 / 大阪市教育委員会	2017年12月10日 No.419	おおさか KEY わーど 第86回弥次喜多から菅橋彦も…遠眼鏡で覗いた大阪の街
29	まっふる特別編集 超詳細！大阪 豊中さんぽ地図	2017年12月刊行	総合学術博物館
30	広報いけだ / 池田市	2018年1月1日 第1166号	ミュージアムガイド 大阪大学総合学術博物館（常設展示及びサイエンスカフェ）
31	広報いけだ / 池田市	2018年2月1日 第1167号	ミュージアムガイド 展覧会「記憶の劇場Ⅱ」
32	広報とよなか	2018年2月号/Vol.814	文化・にぎわい サイエンスカフェ@待兼山/豊中央公民館
33	サンケイリビング新聞社 (北摂版)	2018年1月27日号	まちトビ サイエンスカフェ@待兼山
34	一般社団法人日本分析機 器工業会「科学と産業の 発展を支えた分析機器・ 科学機器遺産」	2017年8月	待兼山修学館 第一号磁界型電子顕微鏡および関連資料
35	学びの情報（吹田市）	平成29年12月～ 平成30年3月	「記憶の劇場Ⅱ」活動⑤、展覧会、クロージング・シンポジウム
36	広報いけだ / 池田市	2018年3月1日 第1168号	ミュージアムガイド 展覧会「記憶の劇場Ⅱ」

## ラジオ・テレビ等

No.	番組名 / 放送局	放送日時	内容
1	ニュースリアル / テレビ大阪	2017年4月26日 17:15～17:30	第21回企画展 ロボットの世界
2	デイリーニュース北摂 / J:COM チャンネル	2017年4月27日 10:30～	第21回企画展 ロボットの世界
3	キャスト / 朝日放送	2017年4月28日	第21回企画展 ロボットの世界
4	NHK 総合・大阪 ウィークエンド関西	2017年5月6日	第21回企画展 ロボットの世界
5	よみうりテレビ / かんさい情報ネット・ten	2017年5月30日	マチカネミート（マチカネワニ画像）
6	関西テレビ すてき彩時記	2017年7月5日	「北野恒富展 なにわの美人図鑑」
7	大阪ほんわかテレビ / 読売テレビ	2017年11月10日	マチカネミート（マチカネワニ画像）

## インターネット

No.	掲載ホームページ	内容
1	阪急電鉄	イベント情報 第21回企画展 「HANDAI ロボットの世界—形・動きからコミュニケーション—そしてココロの創生へ—」
2	関西文化 .com	トップページスライドショー 第21回企画展 「HANDAI ロボットの世界—形・動きからコミュニケーション—そしてココロの創生へ—」
3	関西文化 .com	イベント 大阪大学総合学術博物館 第21回企画展 HANDAI ロボットの世界—形・動きからコミュニケーション— そしてココロの創生へ—
4	Hell! Doctor	イベント情報 第21回企画展 「HANDAI ロボットの世界—形・動きからコミュニケーション—そしてココロの創生へ—」
5	毎日新聞社	情報プラザ 第21回企画展 「HANDAI ロボットの世界—形・動きからコミュニケーション—そしてココロの創生へ—」
6	ABC WEB NEWS	【阪大】ロボット研究振返る 展示会
7	産経 WEST (産経新聞)	石見銀山 / 銀鉱石標本発見について (伊藤)
8	マチゴト・豊中池田ニュース	文化・歴史 (イベント情報) HANDAI ロボットの世界
9	京都新聞	石見銀山鉱石標本発見 (伊藤)
10	毎日新聞 (2017年6月28日大阪夕刊)	北野恒富展 没後70年 迫力、情緒、なにわの女たち (橋爪)
11	ほとんど0円大学	大阪大学「HANDAI ロボットの世界」で“生身”のロボットに出会う!
12	ほとんど0円大学	見えないものを見る! 「こどもミュージアム@大阪大学」体験レポート
13	はろーあさひ / 阪田新聞舗 川西山下店 ときわ台店	はろーあさひ 402号 大阪大学総合学術博物館第10回特別展「演じる私たち」
14	関西文化 .com	イベント 大阪大学総合学術博物館 第10回特別展 演じる私たち～戦後20年関西「新劇」の軌跡～
15	マチゴト・豊中池田ニュース	イベント情報 大阪大学総合学術博物館 第10回特別展 演じる私たち～戦後20年関西「新劇」の軌跡～
16	City life news 大阪	大阪大学総合学術博物館 第10回特別展 演じる私たち～戦後20年関西「新劇」の軌跡～
17	関西文化 .com	イベント 展覧会「記憶の劇場Ⅱ」
18	サンケイリビング大阪 WEB	街のイベント・レジャー サイエンスカフェ@待兼山
19	阪急電鉄	イベント情報 展覧会「記憶の劇場Ⅱ」

# 寄贈図書一覧

No.	寄 贈 者	書 名
1	佛教大学宗教文化ミュージアム	佛教大学宗教文化ミュージアム 研究紀要 第13号
2	長野県埋蔵文化財センター	長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 113
3	長野県埋蔵文化財センター	長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 115
4	宝島社	超危険生物スゴ技大図鑑
5	立教大学社会デザイン研究所	公共ホールのつくり方と動かし方を学ぶ 2016
6	和歌山県立博物館	和歌山県立博物館研究紀要 第22号
7	和歌山県立博物館	先人たちが残してくれた「災害の記憶」を未来に伝えるⅢ
8	和歌山県立博物館	戦乱の世から泰平の世へ
9	和歌山県立博物館	蘆雪澆刺 - 草堂寺と紀南の至宝 -
10	國學院大学博物館地域共働連携事業 実行委員会	東京・渋谷から日本の文化、こころを国際発信するミュージアム連携事業報告書
11	國學院大學博物館	國學院大學博物館研究報告 2017
12	PHP 研究所	巨大生物
13	富岡町・福島大学うつくしまふくしま 未来支援センター	ふるさとを想うまもるつなぐ
14	大阪大学大学院文学研究科 芸術課・芸術史講座	フィロカリア
15	山口大学埋蔵文化財資料館	山口大学構内遺跡調査研究年報 X X
16	山口大学 ML 連携事業報告	山口大学 ML 連携事業報告 H28 年度展示テーマ『はぐくむ』
17	国立科学博物館	見島ジーコンゴ古墳群第 123 号墳・第 152 号墳（再）・西部域出土資料調査報告
18	福井大学教育地域科学部博物館学研究室 2016	博物館学集報 4
19	神戸・阪神間美術館・博物館連携 プログラム実行委員会	先生のためのミュージアム活用術 2016 記録集
20	だんじりを活かした地域共働事業 実行委員会	H28 文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業
21	研究代表者 五十殿 利治（筑波大学芸術系教授）	大学における「アート・リソース」の活用に関する総合的研究 H28 年度報告書
22	研究代表者 五十殿 利治（筑波大学芸術系教授）	占領期の美術と冷戦 - 日本、ドイツ、アメリカ 科学研究費補助金挑戦的萌芽研究
23	長野県飯田建設事務所 長野県埋蔵文化財センター	飯田市龍源寺跡 社会資本整備総合交付金（道路）次行に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
24	同支社大学歴史資料館	木津川・淀川流域における弥生～古墳時代 集落・墳墓の動態に関する研究
25	大阪府立江之子島文化芸術創造センター	enoco と江之子島文化芸術創造センターのつかいみち
26	帝塚山大学考古学研究所	帝塚山大学考古学研究所研究報告 X IX
27	ふくおか博物館人材育成事業実行委員会	museumH28 年度「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」実施報告書
28	長野県長野地方事務所 長野県埋蔵文化財センター	黒部遺跡二ツ石前遺跡 長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 116
29	長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター	長野県埋蔵文化財センター年報 33 2016
30	国立民族学博物館	つなぐ かざる みせる ビーズ BEADS IN WORLD
31	広島大学総合博物館	広島大学総合博物館研究報告 8
32	京都文化博物館	アートと考古学展
33	京都文化博物館地域共働連携事業実行委員会	“まち”と“ミュージアム”の文化が結ぶ幸せなたち 3 学社連携フォーラム・博学社連携シンポジウム 報告書
34	大阪大学全学教育推進機構	大阪大学高等教育研究
35	大阪城天守閣	桃山の TAKUMI - 意匠・技巧・工匠 -
36	和歌山県立博物館	和歌山県立博物館
37	帝塚山大学附属博物館	帝塚山大学附属博物館報 X II
38	金沢大学資料館	金沢大学資料館紀要 第 12 号
39	熊本大学文書館	新聞に見る明治熊本の高等教育 1 明治 11 年～明治 27 年
40	八尾市立歴史民俗資料館	河内の群集墳を探る
41	東北大学	東北大学総合学術博物館紀要
42	上郡町郷土資料館	世界が認めた大鳥圭介
43	茨木市立文化財資料館	茨木市立文化財資料館館報 第 2 号（平成 27 年度）
44	立命館大学国際平和ミュージアム	立命館平和研究 立命館大学国際平和ミュージアム紀要 第 18 号
45	立命館大学国際平和ミュージアム	立命館大学国際平和ミュージアム資料研究報告第 1 号

No.	寄 贈 者	書 名
46	懷徳堂研究センター	懷徳堂研究 8
47	小樽市総合博物館	小樽市総合博物館紀要第 30 号
48	伊丹市立博物館	明治期伊丹の鉄道 伊丹市立博物館資料集 12
49	京都大学総合博物館	京都大学総合博物館収蔵資料目録 第 2 号 第三高等学校鉾物標本目録
50	吹田市立博物館	田能村竹田展 吹田・なにわを愛した文人画家 吹田市立博物館開館 25 周年記念
51	福岡県立アジア文化交流センター (九州国立博物館)	国宝桜ヶ丘銅鐸の総合診断調査と今後の保存活用 - 発見 50 年目を迎えるにあたって -
52	鹿児島大学総合研究博物館	Commercial and Bycatch Market Fishes Panay Island, Republic of the Philippines
53	鹿児島大学総合研究博物館	Annotated Checklist OF Marine AND Freshwater FISHES OF Yaku-SHIMA Island …
54	鹿児島大学総合研究博物館	鹿児島大学総合研究博物館年報 No.15
55	公益社団法人 日本工芸会近畿支部	第 46 回 日本伝統工芸近畿展
56	越谷市教育委員会	越ヶ谷御殿跡発掘調査報告書 I 越谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第 2 集
57	堺市博物館	堺市博物館研究報告 第 36 号
58	名古屋市博物館	名古屋市博物館 研究紀要 第 40 卷
59	北海道大学総合博物館	北海道大学総合博物館とタイ国立科学博物館の部局間協定における共同活動
60	國學院大學博物館	國學院大學博物館 研究報告
60	國學院大學博物館 地域共働連携事業実行委員会	東京・渋谷から日本の文化・心を国際発信するミュージアム連携事業 報告書
61	和歌山県立博物館	戦乱の世から太平の世へ -16 ~ 17 世紀の紀北・泉南地域-
62	和歌山県立博物館	蘆雪澆刺 - 草堂寺と紀南の至宝 -
63	長野県佐久地方事務所 長野県埋蔵文化財センター	矢出川遺跡群 矢出川第Ⅷ遺跡 長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書
64	長野県埋蔵文化財センター	長野市 浅川扇状地遺跡群 本村南沖遺跡 長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書
65	和歌山県立博物館	和歌山県立博物館 研究紀要
66	佛教大学宗教文化ミュージアム	佛教大学宗教文化ミュージアム研究紀要 第 13 号
67	今泉忠明監修 宝島	超危険生物スゴ技大図鑑
68	大阪狭山市教育委員会	国史跡指定記念狭山池シンポジウム 2015 狭山池を未来に伝える
69	公益財団法人京都市芸術文化協会	藝文京 特集京都市芸術文化協会創立 35 周年記念 2017 春
70	公益財団法人泉屋博古館・根津美術館	高麗仏画 - 香りたつ装飾美
71	関西大学博物館	関西大学博物館紀要 第 23 号
72	独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所	保存科学 第 56 号
73	杏雨書屋 武田化学振興財団	杏雨 KYO-U 第 20 号 2017
74	三重県総合博物館	三重県総合博物館 研究紀要 MieMU みえむ 2016 No.3
75	三重県総合博物館	三重県総合博物館資料叢書 MieMU みえむ 2016 No.3
76	大阪市立住まいのミュージアム	大阪市立住まいのミュージアム 研究紀要・館報 平成 27 年度 14
77	公益財団法人 美術院	美術院紀要 第九号
78	福井県立歴史博物館	福井県立歴史博物館紀要 第 12 号
79	八尾市立歴史民俗資料館	八尾市立歴史民俗資料館 研究紀要 第 28 号
80	大阪市立大学 大学史資料室	大阪市立大学史紀要 第 9 号
81	滋賀大学経済学部附属資料館	研究紀要 第 50 号
82	西宮市郷土資料館学芸論集刊行会	西宮市郷土資料館学芸員論集 2015 西川卓志館長退職記念
83	茨木市教育委員会	平成 28 年度 茨木市埋蔵文化財発掘調査概報 9 - 国庫補助事業に伴う発掘調査 -
84	山形大学附属博物館	古文書資料目録 第 38 号 會田家寄託會田家文書 (山形市下室沢)
85	九州国立博物館	京都高山寺と明恵上人 特別公開 鳥獸戯画
86	学研	学研の図鑑 ライブ 古生物
87	和歌山県立博物館	特別展 美尽し善極める - 駿河屋の菓子木型 -
88	長崎県 壱岐市	『魏志』倭人伝に記された一支国の世界
89	九州国立博物館	特別展 宗像・沖ノ島と大和朝廷
90	和歌山県立博物館	特別展 東照宮の文化財Ⅱ - 没後 400 年 家康の遺宝 -
91	関西学院大学博物館	日中のかけはし - 愛新覚羅溥儀家の軌跡 -
92	九州国立博物館 浦添市美術館	きらめきで飾る螺鈿の美をあつめて
93	九州国立博物館	有田焼創業 400 年記念 古伊万里 旧家の暮らしを彩った器
94	九州国立博物館	全国高等学校 考古名品展
95	神戸大学大学院海事科学研究科	海事博物館研究年報 2016 No.44

No.	寄 贈 者	書 名
96	京都大学総合博物館	京都大学総合博物館年報 平成 28 年度
97	宮崎大学農学部付属農業博物館	宮崎大学農学部付属農業博物館年報 第 16 号 平成 26 年度
98	宮崎大学農学部付属農業博物館	宮崎大学農学部付属農業博物館年報 第 17 号 平成 27 年度
99	京都市学校歴史博物館	京都市学校歴史博物館 年報第 18 号 研究紀要第 6 号
100	九州国立博物館	東風西声 第 12 号 2017 紀要
101	和歌山県立博物館	和歌山県立博物館 研究紀要 第 23 号
102	京都大学総合博物館	京都大学総合博物館収蔵資料目録第 3 号 考古図録
103	刈谷市	中条遺跡発掘調査報告書 2 (平成 10 年度調査) 2017
104	龍谷大学文学部博物館実習室	2016 年度 龍谷大学博物館実習報告 第 35 号
105	京都芸術センター	Kyoto Art Center 2015 Documents 事業報告書
106	大阪大学大学院情報科学研究科 庶務係	大阪大学大学院情報科学研究科年報 第 12 号
107	技術評論社	理系に育てる基礎のキノ しんかのお話 365 日
108	仙台市博物館	仙台市博物館調査研究報告書 第 37 号・平成 28 年度
109	仙台市博物館	仙台市博物館収蔵資料図録⑨ 伊達正宗文書
110	西宮市立郷土資料館	研究報告 第十一集
111	三重県総合博物館	三重県総合博物館 第 15 回企画展 きて・みて・さわってカモシカ☆パラダイス
112	大阪大学大学院言語文化研究科	言語文化研究 43
113	大阪大学大学院言語文化研究科	言語文化研究科 2016 言文だより 第 34 号
114	奈良女子大学記念館	奈良女子大学所蔵資料 正倉院模造宝物
115	奈良女子大学記念館	奈良女子大学百周年記念資料室 整理作業報告書 - 平成 28 年度 -
116	奈良女子大学記念館	奈良女子大学所蔵資料 軒丸瓦
117	奈良女子大学記念館	奈良女子大学所蔵資料 写真乾板 (一)
118	奈良女子大学記念館	奈良女子大学所蔵資料 写真乾板 (二)
119	奈良女子大学記念館	奈良女子大学所蔵資料 写真乾板 (三)
120	カトーレック株式会社	パローチスターンの彩文土器と土偶 ～インダス文明周辺の文化遺産～
121	松代文化施設等管理事務所	松代 第 30 号 (2016 年)
122	国立歴史民俗博物館	よみがえれ! シーボルトの日本博物館
123	国立歴史民俗博物館	国立歴史民俗博物館 要覧 平成 29 (2017) 年度
124	西宮市立郷土資料館	西宮歴史調査団年報 2015 年度版
125	同志社大学歴史資料館	同志社大学歴史資料館 館報 第 20 号
126	大東市立歴史民俗資料館	大東市立歴史民俗資料館 館報 第 1 号
127	西南学院大学博物館	西南学院大学博物館研究紀要 第 5 号
128	たばこと塩の博物館	2016 年度版 たばこと塩の博物館 年報第 32 号
129	西南学院大学博物館	西南学院大学博物館 主要所蔵資料目録
130	西南学院大学博物館	九州のキリスト教シリーズⅤ 島原半島の信仰と歴史 - 一機とその後の松平氏治世 -
131	Russian Academy of Sciences	Japanese Ethnographic Masterpieces
132	橿原市立歴史資料館	春季企画展高原井頓宮
133	橿原市立歴史資料館	横穴探究
134	橿原市立歴史資料館	河内国安宿群国分村 堅山家文書目録
135	柏原市立歴史資料館	柏原市立歴史資料館 館報 2016 年度
136	香川県立ミュージアム	香川県立ミュージアム年報 平成 28 年度年報
137	三重総合博物館	第 16 回企画展みんなののりもの大集合 この夏三重をのりつくそう
138	大阪城天守閣	特別展 幕末大阪城と徳川将軍
139	和歌山市立博物館	特別展 幕末の紀州藩
140	大阪狭山市立郷土資料館	行基伝承 - 受け継がれた記憶 -
141	宇治市歴史資料館	写真展 よみがえる明治の日本
142	帝京大学	帝京大学総合博物館企画展 医療のための薬学にはてしない未来を
143	京都大学博物館	H29 年度 特別展 火焰型土器と西の縄文
144	金沢大学資料館	H29 年度 金沢大学資料館 特別展
145	西宮市立郷土資料館	念仏行者徳本 - 行脚の足跡と女人救済 -
146	宇治市歴史資料館	宇治市歴史資料館 年報 平成 27 年度
147	宇治市歴史資料館	収蔵資料調査報告書 19 宇治茶の民具
148	東北福祉大学 芹沢銈介美術工芸館	東北福祉大学 芹沢銈介美術工芸館 年報 8
149	仙台市博物館	市史せんだい 特集 伊達正宗 生誕 450 年

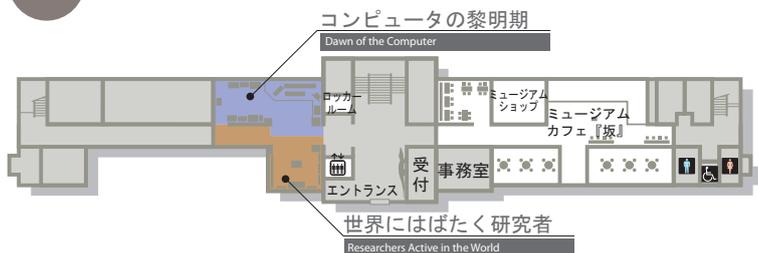
No.	寄贈者	書名
150	京都府立丹後郷土資料館	H29 年度特別展 宮津という地に居城をこしらえる - 地中に眠る宮津城 -
151	中世代植物研究会	日本産ジュラ紀の植物化石図鑑 - 来馬型植物群 -
152	池田市立歴史民俗資料館	H29 特別展 天若不愛酒 てんもしさをあいせざれば - 近代池田の酒づくり -
153	大阪市立住まいのミュージアム	中井大和守の建築指図 世界遺産をつくった大工棟梁
154	滋賀大学経済学部附属資料館	H29 年度企画展 胸にふるさと心で商い 近江の商人、旅の空
155	静岡県博物館協会	研究紀要 H28 年度 第 40 号
156	島本町教育委員会	島本町文化財調査報告書 第 31 週 H29 年
157	島本町立歴史文化資料館	島本町立歴史文化資料館 館報第 9 号
158	吹田市立博物館	館報 17 H27 年度
159	学習院大学学芸員過程委員会	学芸員 学習院大学学芸員過程 2017
160	国立民族学博物館	国立民族学博物館展示案内
161	関西学院大学博物館	広岡今日子コレクション 装いの上海モダン - 近代中国女性の服飾 -
162	公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構	木彫家藤戸竹喜の世界 inuyekur Fujito Takeki kar mosir
163	大阪市立狭山池博物館	H29 年度特別展 蓮華の花咲く風景 仏教伝来期の河内と大和
164	大山崎町歴史資料館	千利休とその周辺 大山崎町歴史資料館 第 25 回企画展
165	茨木市教育委員会	茨木市文化財資料集第 69 集 宿久庄西遺跡 2
166	大阪商業大学商業史博物館	大阪商業大学 商業史博物館紀要 第 18 号
167	和歌山市立博物館	和歌山市立博物館研究紀要 第 32 号
168	大阪市立大学大学史料室	大阪市立大学史紀要 第 10 号
169	南山大学人類学博物館	南山大学人類学博物館紀要 第 36 号
170	株式会社 阪急アドエージェンシー	阪急文化研究年報 第 6 号
171	福井県立若狭歴史博物館	館報 H28 年度
172	大阪歴史博物館	大阪歴史博物館年報 H28 年度
173	茨木市立文化財資料館	銅鐸をつくった人々 - 東奈良遺跡の工人集団 -
174	大阪市立住まいのミュージアム	大阪市立住まいのミュージアム研究紀要・館報 第 15 号 (平成 28 年度)
175	神奈川昆虫談話会	神奈川昆虫報 第 194 号 2017 年 12 月
176	横領村諸色留帳	和州郡山藩 幕末庄屋記録
177	西南学院大学博物館	キリスト教の祈りと芸術 装飾写本から聖画像まで
178	西南学院大学	西南学院大学博物館年報 第 9 号
179	和歌山大学紀州経済史文化史研究所	紀州経済史文化史研究所紀要 第 38 号
180	東京藝術大学美術学部	平成 29 年度 東京藝術大学 卒業・修了作品集
181	真田宝物館	平成 29 年 真田宝物館 企画展 真田家の姫たち
182	大山崎町歴史資料館	大山崎町歴史資料館 館報 第 23 号
183	和歌山大学 地域活性化総合センター 紀州経済史文化史研究所	和歌山大学 紀州経済史文化史研究所 2017 年度 特別展 紀州地域と西国巡礼
184	公益財団法人 根津美術館	根津美術館紀要 此君 第 8 号
185	公益財団法人 根津美術館	光村コレクション総目録 刀剣と刀装具
186	公益財団法人 根津美術館	鑿の華 - 光村コレクションの刀装具 -
187	和歌山県立博物館	特別展 道成寺と日高川 - 道成寺縁起と流域の宗教文化 -
188	熊本大学工学部 熊本大学工業会	熊本高等工業学校 熊本大学工学部研究資料館図録
189	八尾市立歴史民俗資料館指定管理者 (公財) 八尾市文化財調査研究会	八尾市立歴史民俗資料館 常設展示図録 改訂版 大和川流域と高安山 - その歴史と文化 -
190	八尾市立歴史民俗資料館	平成 29 年度特別展図録 河内木綿 - 河内～近江、そして最上へ -
191	大阪城天守閣	浮世絵師が描いた乱世
192	公益財団法人 武田化学振興財団	杏雨書屋所蔵 医家肖像集 二編
193	福井県立歴史博物館	越前若狭の医学史 - ふくいの医人たち -
194	福井県立歴史博物館	白山開山 1300 年記念 特別展 泰澄
195	福井県立歴史博物館	特別展 再会 ふくいゆかりの名宝たち - 里帰り文化財展 -
196	大阪歴史博物館	特別展 渡来人いづこより
197	大阪歴史博物館	大相撲と日本刀
198	佛教大学宗教文化ミュージアム	佛教大学宗教文化ミュージアム 研究紀要 第 14 号
199	北海道大学高等教育推進機構	札幌可視化プロジェクトを可視化する
200	國學院大學博物館	國學院大學博物館事業 報告書
201	佐賀大学芸術地域デザイン学部	SMART 2017 記録集
202	大阪市立東洋陶磁美術館	韓国陶磁研究報告Ⅱ「元と高麗」



「知」を軸に人・モノ・情報が出会い、交流し、新たな「知」の創造を目指す。

## 大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館のご案内

1F



### コンピュータの黎明期 Dawn of the Computer

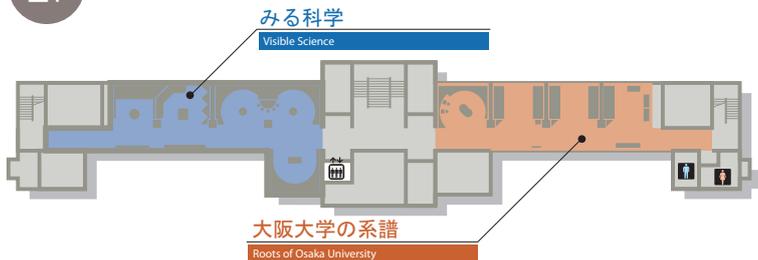
阪大では、第二次世界大戦後まもなく真空管式コンピュータの研究と試作を始めました。その当時誕生したばかりの真空管式コンピュータと、時代の先駆を担った研究者たちを紹介しています。

### 世界にはばたく研究者 Researchers Active in the World

ノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹が、中間子論を着想した大阪大学物理学教室。当時、日本の科学の中心といわれた理学部の自由な研究環境、そこに関わりのある様々な研究者を紹介しています。

### ミュージアムカフェ「坂」 Museum Café「SAKA」

2F



### みる科学 Visible Science

### みる科学 Visible Science

光学顕微鏡、電子顕微鏡、超高圧電子顕微鏡のしくみや、細胞より小さい分子の構造や、仕組みを明らかにするX線構造解析などの技術と、それらを利用した研究の一端を紹介しています。

### 大阪大学の系譜 Roots of Osaka University

### 大阪大学の系譜 Roots of Osaka University

かつての懐徳堂、適塾といった大坂市民の学問からの流れを継承し、今日まで受け継がれてきた大阪大学。その学問や研究活動と、社会との関わりの歴史を紹介しています。

3F

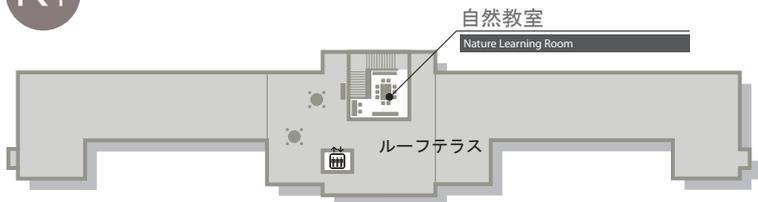


### 待兼山に学ぶ Learning from Machikaneyama

### 待兼山に学ぶ Learning from Machikaneyama

阪大豊中キャンパスが位置する待兼山。古代の生物や、地形の変遷から、現在の豊かな自然の中で棲息する生き物の営みまで、地域に根ざしその変化を解明する研究を紹介しています。

R F



### 自然教室 Nature Learning Room

### 自然教室&ルーフテラス Nature Learning Room

阪大キャンパスは豊中、吹田共に自然がいっぱいです。自然教室内に設置されたPCでは「阪大キャンパスに咲く花」を検索することができます。また、ルーフテラスに出れば背後の待兼山の息吹を感じることができます。

---

## 編集後記

大阪は夏の暑さはかなり厳しいものの、台風や大雨に関しては西日本の中では比較的被害の少ない地域だと思いますが、2017年は台風による倒木が豊中のキャンパス内でも多くみられて、自然災害の怖さを思い知らされる年でした。ただこんな年はそうそうないだろうと思っていたら、この編集後記を書いている2018年も大阪府北部地震に台風、記録的猛暑と昨年に負けず劣らず大変な年でした。幸いなことに阪大博物館では大きな被害は出ておりませんが、各地での大きな被害やそこからの復興に苦心されているニュースを見聞きして、災害に対する備えの必要性をますます痛感しています。

10章で紹介しているミュージアム・アシスタントは2017年から新しく始めた取り組みです。まだ始めたばかりで、担当してくださる学生の皆さんも、監督する教員も試行錯誤しているところです。多くの来館者の方に見守っていただくことで、土曜の午後には博物館で学生のトークを聞くということが定着して、それが大阪大学の博物館の呼び物の一つに育つことを期待しております。

(文責 宮久保 圭祐)

---

---

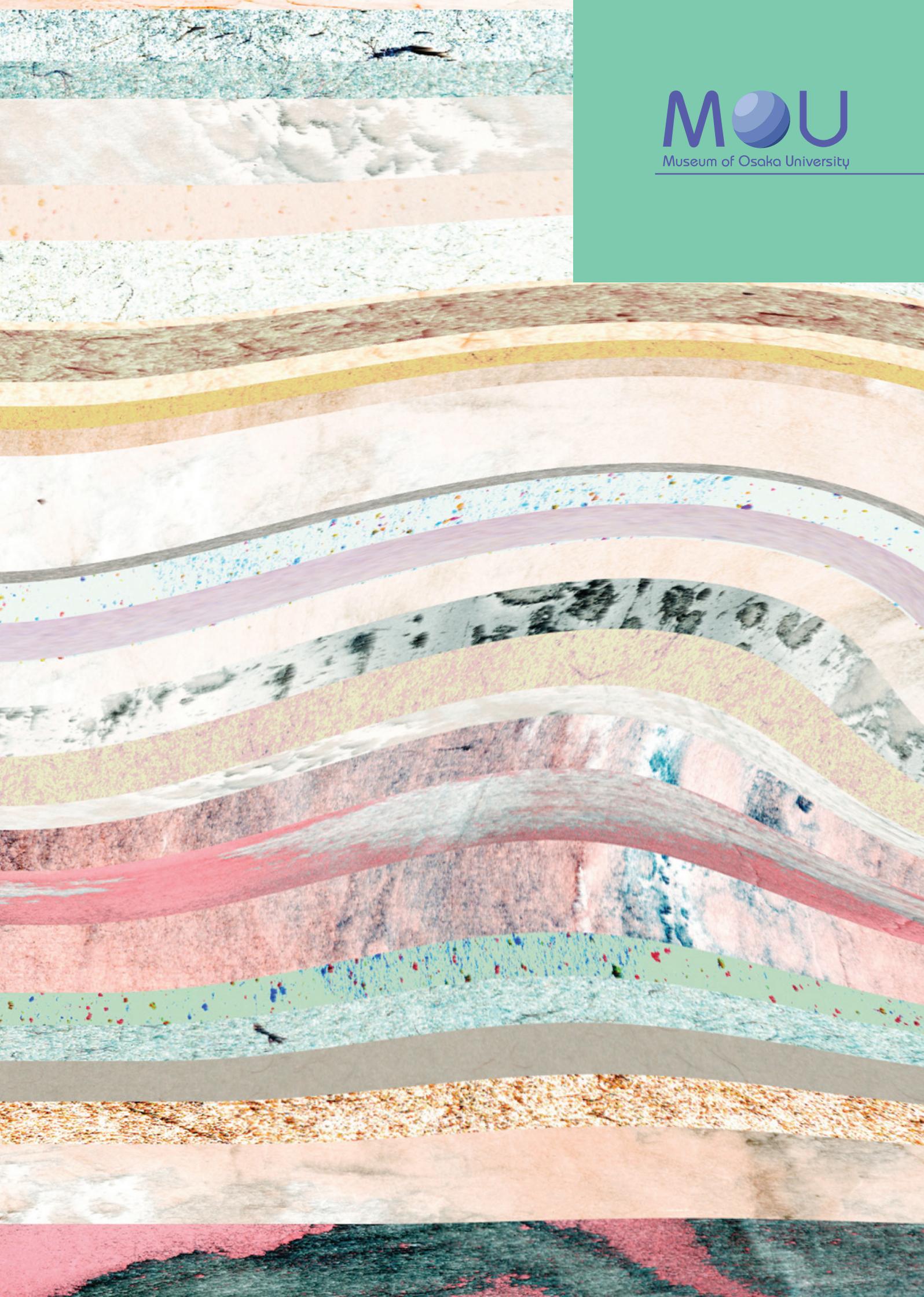
## 大阪大学総合学術博物館 年報 2017

2018年9月発行

編集・発行 大阪大学総合学術博物館  
〒560-0043 豊中市待兼山町1-13  
印刷 株式会社 セイエイ印刷  
〒536-0016 大阪市城東区蒲生2-10-33

表紙デザイン 辻村紀子 (アトリエツジムラ)

---



**MOU**  
Museum of Osaka University